

---

**危機的な状況にある言語・方言の保存・  
継承に係る取組み等の実態に関する  
調査研究事業（アイヌ語）**

---

## 目次

1.	序文・序説 .....	1
	ジェフ・ゲーマン	
2.	現在のアイヌ語保存・継承の状況背景 .....	2
	ジェフ・ゲーマン	
3.	聞き取り調査から見てきたアイヌ語の課題 .....	8
	ジェフ・ゲーマン	
4.	社会教育以外のところでのアイヌ語継承活動（大学および公立小学校） .....	12
	ジェフ・ゲーマン	
5.	参考文献 .....	23
6.	付録一覧表 .....	24
7.	付録 1 アンケート原本 .....	25
8.	付録 2 指導者のためのアンケートの結果・集計 .....	45
9.	付録 3 アイヌ語の学習に関するアンケート（学習者用）集計結果 .....	83
10.	付録 4 教室に関するアンケート 記述式回答一覧 .....	108
11.	付録 5 アイヌ語教室子供の部又は親と子のアイヌ語学習事業に関するアンケート （講師用）記述式回答一覧 .....	121
12.	付録 6 アイヌ語教室子供の部又は親と子のアイヌ語学習事業に関するアンケート （父母用）記述式回答一覧 覧 .....	125
13.	付録 7 教室に関するアンケート質問1.、2. 集計 .....	127
14.	付録 8 学習者用アンケート設問（1）の1. 人種別集計データ .....	129
15.	付録 9 全国のアイヌ語教育の取り組み一覧表 .....	130
	木幡寛、大野徹人、ジェフ・ゲーマン	
16.	付録 10 川村カ子トアイヌ記念館所蔵アイヌ語関連音声資料目録 .....	131
	川村久恵	
17.	付録 11 業務計画書 .....	139
18.	付録 12 テキスト及び音声資料について .....	145



## 序文

この報告書は平成 24 年度の文化庁委託事業「危機に瀕したアイヌ語の継承・保存に係る取組み等に関する調査研究」を、社団法人北海道アイヌ協会や財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の支援を得つつ、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院が実施した成果である。

日本における言語・方言のうち、消滅の危機にあるものについて、ユネスコが平成 21 年に発行した”Atlas of the World's Languages in Danger”の内容及び、文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業報告書」（平成 23 年 2 月・国立国語研究所）を踏まえ、消滅の危機にある言語・方言のうち、アイヌ語について、当該言語・方言の保存・継承に関わる取組み等の実態に関する調査研究を行うという趣旨を受ける。従って、調査研究は以下の目的で行われた。

つまり、上記の趣旨を実現するため、以下の調査研究を実施した。

（１）消滅の危機にある言語・方言の保存・継承等に係る、官民を問わず行われているもしくは過去に行われた様々な取組み等（消滅の危機にある言語・方言の方言話者や地域住民、自治体職員等を対象とした、言語・方言に対する意識調査を含む。）に関する調査及び分析

（２）上記（１）の取組み等で使用されている教材（テキストや音声資料等）に関する調査及び分析

（３）上記（１）の取組み等の効果及び課題に関する調査及び分析

（４）その他、消滅の危機にある言語・方言の保存・継承に係る取組み等の実態把握のために必要な調査及び分析

アイヌ語は、ユネスコから消滅の危機にある言語の一つとして指摘されたことを受け、現在、関係省庁において、アイヌ語に関する調査研究が実施されている。平成 24 年 6 月に出されたアイヌ政策推進会議（政策推進作業部会）の報告では「今後は、関係機関におけるアイヌ語の調査研究を一層充実・強化させるとともに、アイヌ語の研究を行っている大学等と連携を図りながら、その成果の普及啓発を行うこと、またアイヌ語の教育・研究環境の整備に努めることなどによって、アイヌ語の伝承活動を支援することが必要である」とある。本事業の調査結果はこのような提言に応えるための基礎資料となる。

また、「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会の報告」（平成 21 年 7 月）の「②広義の文化に係る政策（ウ）アイヌ語をはじめとするアイヌ文化の振興」では、「アイヌ文化振興法の制定以降、アイヌ語などアイヌ文化の一部に対する振興施策が充実されたことにより、アイヌ語学習等へ若い世代の参画が見られるなど文化伝承の裾野が着実に広がってきている。

しかしながら、アイヌ語を学びたい、アイヌ文化に触れたいというニーズに対して、それに応える場や機会が限られていたり、指導者や教材が不足したりしている等の課題があり、必ずしも十分に対応しきれていない面もある。このため、アイヌ語等に関する講座や指導者の育成等の既存のアイヌ文化振興施策の充実強化はもちろん（本文略）アイヌ語等のアイヌ文化に学び触れる機会を更に充実させていくべきである」とあるが、当事業の調査結果はこのような指摘に応えるための基礎資料でもあ

る。

上段落の指摘通り、現在、ニーズに対応しきれていない面もある。ましていまやアイヌ語を取り巻く状況は複雑さを極めている。準ネイティブスピーカーである古老の近年における急激な減少という痛手に加えて、北海道教育委員会の補助金を基に運営されていた道内の「アイヌ語教室」（実施主体は、財団法人北海道アイヌ協会〔以下「アイヌ協会」〕）が、補助金の停止等の理由から資金的に運営困難になり、大半の教室は活動中止になっているか、規模を大幅に縮小せざるを得なくなっている。一方、財団法人アイヌ文化推進機構（以下、「推進機構」）が実施するアイヌ関連事業は増加しており、また、上記の「アイヌ語教室」に代わるものとして、北海道教育委員会主催の「用語講座」が導入され、教育の現場は新たな運営や教授体制の構築に迫られている。

このような混乱した状況を反映してか、本調査研究事業で行われた聞き取り調査およびアイヌ語指導者に対する記述式アンケート調査では、アイヌ語施策の充実強化を渴望する人から、アイヌ語関連施策や施策の実施主体である北海道教育委員会、推進機構や本事業の主催者である文化庁自体に対する批判の声は少なくはない。これらの声を、今後のアイヌ語関連施策を実施していく上での切実な課題として当報告書には掲載している。一方で、これら上記の批判を裏付けるかのごとく、アイデンティティの保持上、アイヌ語自体が持つ重要性を示す数多くの発言と回答も寄せられている。

これらの事実から、本調査研究事業の上記の四つの目的の内、報告書の記述は項目（3）と（4）にウェイトが置かれている。言い換えれば、当調査の結果分析を行う上で、それぞれのアイヌ語継承の取組みについての詳細な分析よりも、アイヌ語全般を取り巻くマクロレベルの環境を理解する必要があるととらえる（中川 2009 参照）。このような状況背景についての説明は次節に譲る。

また、アイヌ語継承自体をめぐる課題は多く、ひいてはその効果・課題を短期間で調査・分析することがほぼ不可能であることを示す好例は当調査が集めた大学におけるアイヌ語継承に関する調査データであるが、このような理由にもより、当報告書の基本的構成が妥当と判断する。

## 現在のアイヌ語保存・継承の状況背景

当調査を終えた時点で以下の三つの課題が明らかになったと思われる。1）財政上の問題、2）アイヌ語の教育・継承取組みの位置付けの曖昧さ、3）和人とアイヌの関係性の曖昧さ。

これらの課題についての状況背景を少し述べてみたいと思う。

明治以降に展開された同化政策が、厳しい民族差別と相まった結果、出世をするために日本語を話さなければならないという社会的ニーズや、アイヌに対する差別の中でアイヌ語を話すメリットが見いだせなかったことが要因となって、大正時代以降生まれのアイヌ語話者はほとんどなく、現在アイヌ語で会話ができるエカシやフチは激減している。その点においてアイヌ語継承に活用できる「生きたアイヌ語」の提供できる人材はもはやいない。そもそもアイヌ語が言語としても複雑さと相まって、それを研究・教授するために必要な話者がいないこのような状況により発生する今後のアイヌ語継承運動を困難にする重大な課題もあり、それについては本文に譲る。

一方で戦後の日本の著しい経済的発展に伴って、残っているアイヌ語の話者の声を記録し後世に残す作業がアイヌの中でも盛んに行われた（北原 2007）。その結果、現在のアイヌ語継承活動につな

がった。これらのアイヌ語の記録者から刺激を受け、1980年代、二風谷の萱野茂を中心に始まったアイヌ語教育運動をかわきりに、一時期北海道庁から補助金を得て道内14か所でアイヌ語教室（実施主体は、財団法人北海道アイヌ協会）が実施された時代もあった。現在北海道ではアイヌ語関連講座は少なくとも7つの大学で開講されている（詳しくは付録8を参照）。また1997年のアイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律（以下「アイヌ文化振興法」と略記する）の制定後、アイヌ語を学習、発表する場が増えたことにより、アイヌ語の学習者層も拡大し、その中若いアイヌ出身の学習者も増加中であることは特筆に値する。

しかし、アイヌ語の継承状況は依然として厳しいということが当調査結果で記録された声からも明らかである。まず、補助金の打ち切りによるアイヌ語教室の活動停止、次に公私を問わず大学でのアイヌ語教育の相対的に低い地位、三番目に最近の若い学習者の増加傾向にも関わらず、差別に対する自己卑下的な考え方の存続等を理由に、現在でも多くの場合、アイヌ語を身に付けたいというアイヌ出身者自体が多くないことが挙げられる。逆に和人学習者の方が断然に多い。これらの課題の詳細については本文で敷衍するが、ここでまず強調しておきたいのが、このような問題は世界中の少数民族が同様に直面している問題でもあり、また、その対応が熱烈に議論されている点はアイヌ民族と共通していることである。この点は次節で述べる「研究視点」にも関わってくる。

基本的に一定の国家内に居住しその国家の恩恵を授かるどここの少数民族も抱える課題として、国の母体である政府からの補助を受けるか自立を目指すかというジレンマがある。補助に頼りすぎれば怠慢と依存症が発生するが、自立を目指すのに金銭的資本や社会的資本が不足することが課題となる。これのジレンマとセットとしてついてくるのは国家の多数民族との関係性である。個人レベルにおいて友情関係はあっても、しばしば集団レベルになると〈加害者－被害者〉関係になりつかず離れずの関係が成り立つ。

日本国でいえば、和人とアイヌも仲良くしなければならない。しかし、そこに和人による抑圧の搾取の歴史がある。これを掘り起しいつまでも個人間の壁にしていれば人種差別の壁は乗り越えられない。しかし、放置するのも人種差別の解決策でもないというのが最近注目を増しつつある少数者の権利（minority rights）、言語権（linguistic rights）が謳っていることである。この問題を黙認することはこの問題の歴史的和解だけではなく、現在でもつづく歴史的な格差の解決を引き延ばすことにもなり、そのために両者の間になお続く気まずさを解消する可能性を封じてしまう。両者に求められているのは冷静にしっかりと過去の行き過ぎを認めつつ、過剰になることなく、アイヌ民族の言語権とマイノリティの権利の理想的なあり様をさぐっていくことである。

しかし、日本と他国と大きく異なるのは、日本の民族構成や最近まで続いていたアイヌ民族の不承認という固有な社会的風土、マイノリティ観と対少数民族政策である。つまり、単一民族国家論と「出る杭は打たれる」の集団的心理のため、アイヌ民族がカミング・アウト（民族出自を名乗る）行為を肯定するような社会的風土がなかった。一方、近年まではそれを促す政策面の働きもなかった。

アイヌ語の学習との関連で述べると、アイヌ語講座が開講される大学や開かれた都市部では、民族的イメージの負担を背負わなくても動機づけを高めることが可能な和人の学習者が多く通学している。受講生数が多い大学では、アイヌ語講座を開講している大学の多くが関東圏である、また、アイヌの低い大学進学率から鑑みれば絶対的な学者数においては和人对アイヌがアンバランス（不均等）な状態にあることは理解するには難しくない事実であろう。（この点において、世界の少数民族言語の内、アイヌ語は非アイヌの学習者が最も多い言語といえるかもしれない）。

このような不均等をめぐって、一般に運営されているアイヌ語教室の多くは民族的出自を問うこと

なく、「去る者を追わず、来るものを拒まず」というポリシーをとっている。つまり、個人の和人学習者に対し、もちろん、全てのアイヌ出身者といってよいほど悪意を持つ人はいないだろう。無知な発言に対し不満を堪えるよう努力をしなければならないかもしれないというのも事実かもしれないが、アイヌ語やアイヌ文化の学習を通して少しでもアイヌが置かれている状況を理解しようとする者に対して多くのアイヌは歓迎する。実に、アイヌが最も集住している北海道において、混住が進み、混血もすすむ中で人種や民族性に対しこだわりを持ち続ける不毛さについて、ほとんどのアイヌは自覚しているようである。

また、多くの場合は和人学習者のおかげでその知識をアイヌに還元するレベルに達しており、そしてその場合、彼らのこのような貢献は歓迎される。

しかし、ここには萱野茂のことばを借りれば「踏んでいる方は踏まれている方の痛みがわからない」の通り、多数者和人の学習者の中には一種の平和ボケという現象が起こる危険性もありうる、そしてこの調査結果の中にも読み取れることもある。つまり、アイヌ民族に関する啓蒙運動が行き届いていない、ということである。

しかし、そこには異文化間の摩擦や軋轢がないわけでもなく、そしてその上で重要なことに、近年国際的に注目を浴びるようになった少数者の言語権（linguistic rights）や少数者の権利（minority rights）の人権的な観点から、さらに、言語復興を進めていく過程での物理的な観点からも課題が多く潜んでいる。「軋轢」に関しては本文に譲るとして、最近の言語復興研究では、当事者たちによる主体的な運動展開が大前提であることから、和人の学習者へ門戸を開く不効性が明らかである。

アイヌ語継承の関連で非常に重要なのは指導者の育成である。ここ数十年で、アイヌ語教育に携わることができる古老は急激に少なくなっている。現在、アイヌ語講師を始めその指導は、活動基盤がしっかりしており、かつ長年アイヌ語教育に専念してきた和人研究者・言語学者が担っている場合が多い。しかし、彼らが本来所属する大学等の高等教育機関に通学する学生のほとんどは和人であるという社会的状況がある。大学等の機関には、第二言語教育に関する知識や資料が集中しているが、当事者であるアイヌの立場に立ちながら、それをアイヌにいかに伝承、還元するかというと課題も多く、また、デリケートな問題が潜んでいる。

つまり、そこには一種の二面性の問題が潜んでいる。和人の門徒にアイヌ語の学習機会を保障することはこれらの問題への解決策とつながるため、正しい認識の中ではどんどん行われるべきであるが、それは多数決の原理により同時にアイヌ民族の学習権を危ぶむようなことにも繋がり得るが、その意味であってはならない。特に言語復興の話になるとその過程における様々な物理的な積極的是正措置への配慮が必要である。

世界の言語復興運動のいわゆる「成功例」、たとえばマオリの言語復興運動やハワイの復興運動をみれば、しばしばその活動の理論武装、つまり、共同体自身を中心とした動きの重要性を提唱する、①知識層に、彼らのよびかけに呼応する地域共同体で精力的に動く②当事者の二者がいることが分かる。

日本のアイヌの場合は萱野茂の次に動きがみられるようになるのはここ 10 年ぐらいのことであるが、上記の社会的情勢に対して、アイヌ民族出身者のみを対象とする「指導者研修」や一部の「上級」講座が見られるようになった。つまり、「指導者研修」の実施に責任を持った意識ある和人の研究者に意図的にこのような体制を取るという判断がされた（中川裕、当調査聞き取りインタビュー）。また、これに呼応する若いアイヌが指導者研修で指導権を得るようになると、そこを中心に広がる緩やかな知識ネットワークの形成がみられる。つまり、毎年一定の修了生＝アイヌ語指導者を生み出して



いる指導者研修において、現在のアイヌ語復興運動は方向づけられており、それは一部の研究者とアイヌの有識者がそれを仕切っている。

そこで、アイヌ語継承の課題を分析する際に、いわゆる「一般人」の意識と専門家の意識を区別しなければならない、言語復興を海外で行われた場合の課題点について専門的な情報を共有しうる大学教員や彼らから直接影響を受けるアイヌ語指導者を、「一般の学習者」と分けて調査をすすめる必要があると考える。従って、当調査では調査の対象者を①一般学習者、②子ども学習者の親、③アイヌ語指導者、④研究者・言語学者のように分別した。また、③のアイヌ語指導者と④の研究者にインテンシブ（集中的）な聞き取り調査を行った。

## 研究視点

まず、当調査の視点および結果を理解するために、危機に瀕した言語に関する研究の近年の研究動向を最初に説明しなければならない。なぜなら、上記で述べたように、少なくともアイヌ語活動における一部の有力者は世界の言語復興運動を直接的間接的に知り得る立場にいるからだ。また、彼らはアイヌ語活動の方向性を決定しているため、このような視点を無視するわけにはいかないということで、調査設定の段階から世界の水準に開かれた設定の必要性に迫られた。けれども、本文でも明らかになるように、世界の言語復興運動の発想は日本にも影響を与えているようである。

たとえば、上記で述べたように、文化庁から与えられた調査課題の半分（４項目中の２項目）は実態を把握しそれを記録することに向けた項目である。しかしながら、今回の調査結果の半分（統計挿入）はどちらかといえば、体制が行き届いていないことに関する不満である。仮にこの不満の大半は内部要因のために発生する単純純粋な思いそのままの反映だとしても、少なくともその一部は外部要因に起因すると考えなければならない。そこで、その原因を①世界各地で繰り広げられている少数言語の復興運動やそれに取り組んでいる人々との接触や、②その運動のことに精通しかつアイヌ民族との接触が多いアイヌ語の言語学者と捉える。つまり、このような発言の裏には、単なる記録行為に収まらない世界の言語復興運動のこれらの動向やそれらを支える理論、それらに関する理論が潜んでいるととらえる。

さて、アイヌ語継承の「効果」は学習能力や学習目的別にいくらかでも調査の項目設定基準や分析方法があり得ると考える。当調査の実施開始以前からアイヌ語の継承やアイヌ教育の研究に取り組んで、上述したアイヌ語を取り巻く環境の複雑な課題を把握していた調査者らは当調査において「言語生態学」（Muhlhauser 1996）の視点を取った。言語復興において全ての該当関係者の積極的な関与が要求されるという前提に立つこの考え方が近年、ユネスコの活動にも参照される少数言語復興に関する一連の社会言語学的研究（Fishman 2001, Goodfellow 2009, Hornberger 2011, Olthuis 他 2013, Patrick 2003）の基調を流れている。そこでは、少数言語話者の共同体が復興活動の方向性を決定する主導体であり、これを行政が政策を通してインセンティブ（報奨金）を提供することでサポートし、言語復興はマクロとミクロの両面から取り組まれるべきという言語復興のとらえ方が一般的になりつつある。この視点は日本ではアイヌ語実践面に密接に関わり支援に取り組んでいる千葉大学の中川裕（2009）や自身がアイヌ民族である北海道大学の北原次郎太（2007）に端的に表れており、また、もう一人の現場の中心的な当事者である太田満氏（旭川大学非常勤講師、当調査の分担研究者）にも支持されていることから、当調査の基本視点とするには妥当だと判断した。つまり、復興活動の方向性を決める主導体は当事者であるという視点が特に日本のアイヌ語の今後の継承に必要な、という当事者自身の立場に寄り添い調査に取り組もうとした。

なお、この視点では言語復興において学者が共同体の当事者に協力し、全ての該当関係者が実践面に取り組むことが前提であり、その点においてもこの研究視点は言語復興活動の「記録」よりも「改善」に置かれているというところで上記の現在、アイヌ語運動の第一人者達の志向に合っている。

なお、調査の質問項目設定の際、四種類のアンケート対象者である①一般学習者、②子ども学習者の父母、③アイヌ語指導者、④研究者・言語学者の内、これら上記先行研究の視点自体を意図的に前者二つの調査の質問項目には取り入れておらず、特定の回答を誘導する表現を使わないよう、なるべく自由回答式の質問に心掛けた。但し、上記の理論に従って、国際先住民族の言語復興運動の実践者やその理論に接触があると思われるアイヌ語指導者や研究者に対してこのような視点に開かれた設問を設けないことはあえて不自然と考え、現状維持を超えたことに向けた質問をすることもあった。しかし、現状維持を超えたことに向けた回答が指導者や研究者からのみならず、一般学習者や父母からも帰ってきたという事実は興味深い。

## 調査方法

序文で書いたように、アイヌ語教育に関する知識のほとんどがアイヌ語研究者によって占められているか、あるいは、彼らと直接的な接触が多いアイヌ語指導者に浸透している。また、上記で説明したように、今後アイヌ語復興を引っ張っていくような存在はもしも生まれるのなら、この層から出現するであろう。そのため、アイヌ語教育に長年携わっているこれらの人々にインテンシブな聞き取り調査を実施した。

実施概要は以下の通りである。

- アイヌ語指導者研修に携わっている人：6人（内6人とも大学で勤務中、和人が4人、アイヌが2人）。
- アイヌ語教室や旧アイヌ語教室の指導運営の豊富な経験者：5人（実施個所：平取、旭川、む川）（内二人は準ネイティブ話者の古老）。
- 民間のアイヌ語教室：4人（内二人が和人の大学教員、残りの二人はアイヌ）。
- アイヌ語教室子どもの部または親と子のアイヌ語学習事業の講師：2人

また、当調査の協力調査員の太田満と大野徹人がこの部類の人々に入ることも付しておく。なお、協力調査員の木幡寛、木幡弘文はアイヌ語の指導者や研究者ではないが、平取のアイヌ語教室の講師をつとめている木幡さち子フチの息子、孫にあたることなどから、アイヌ語やアイヌ文化関連の人的ネットワークを有していることを利用して聞き取り対象者にアポイントメントをとることができた。

対象者選定は協力調査員の太田、大野、木幡親子、および北海道アイヌ・先住民族研究センターの山崎准教授にヒアリングをし、行った。

主たる調査者であるゲーマンは長年の現地滞在調査によって調査の対象者に本音を聞き出すことに成功したと自負している。それは今回の調査においてもアイヌ語の継承をめぐる様々な課題を包括的にとらえるために正直な発言を数多く集められたことに現れている。近年のアイヌ語指導者参加者に関する傾向を明らかにし、現在のアイヌ語教育・継承の指導や教室運営に関連する課題が確認できた。

これらの聞き取り調査のほとんどは対象者が活動する現地で実施されたが、調査実施期間の関係で4つの聞き取りを電子メールにて実施した。

なお、調査者のジェフ・ゲーマン（以下「ゲーマン」）は平取と鶴川の（旧）アイヌ語教室でアイヌ語を習った経験があり、また、平取のアイヌ語教室子どもの部と親と子のアイヌ語教室、また旭川

で以前実施されていた親と子のアイヌ語学習事業を見学・参与観察（参加しながら観察する）したことがあり、データ分析の際に参考にした。

並行して①一般学習者、②子ども学習者の父母、③アイヌ語指導と④研究者・言語学者四種類のアンケート調査を郵送で実施した。

研究者・言語学者以外の対象者選定は基本的に全部北海道アイヌ協会とアイヌ文化振興・研究推進機構に依頼した。アイヌ協会は過去5年の指導業績がある講師の一覧表から特に平成21・22年度の業績が目覚ましい人68人を抽出した。推進機構の方は全国で現在実施されている親と子のアイヌ語学習事業を受講している父母17人の他に、平成24年度に講師または「話者」を勤めている人々のリスト25人を提供した。これらの人々の個人情報が入らないよう、ゲーマンが作成した5種類のアンケートは協会と推進機構それぞれに渡され、両組織に直接またはアイヌ協会の支部を通して郵送された。

学習者用のアンケートはアイヌ語教室が昔実施されていた14支部に一括で郵送され、そこからそれぞれの学習者への配布や再郵送は基本的に各アイヌ協会の支部に任されていた。

アイヌ協会と推進機構を合わせて配布された68人のアンケート中、「指導者のためのアンケート」は30人分の回答があり、当報告書にはその27人分は分析に反映されており、「教室に関するアンケート」は19人分（16教室を代表し）の回答があり、全員分の記述は当報告書に反映されている。学習者用アンケートに関しては回答者数が配布された450部のアンケート中、東京を含めて、188人であり、内171人分はこの分析に反映されている。子どもを対象とした教室の講師は兼任されることが多いことから、指導者用のアンケートと同封されていたが、全国の6つの教室から4つの回答があった。父母17人に配布されたアンケートの内、10個の回答が戻り、子どもに対するアイヌ語に対する関心の高さが伺える。

なお、二つの地域の音声目録を作成する予定であった。旭川に関しては川村久恵が70項目以上に及ぶ目録の作成に挑んだ。他の地域では内諾を得て個人宅に所蔵されている親戚の録音や全道を歩き回って書きとめられた資料の存在を確認できている。

## 調査項目の選定

「現在のアイヌ語保存・継承の状況背景」で触れたように①生きたアイヌ語がほとんど存在しない中で、複雑なアイヌの文法の構造、日常会話例の収集に関する問題、片仮名表記とローマ字表記の差異、方言を重視した標準語とするか、それとは逆に方言に左右されない標準語とするかの問題、学習教材の開発を困難にしているアイヌ語自体に関連したミクロレベルの課題（これらいわゆる「核」[corpus]関連の問題と呼ばれる）、また、②アイヌ語学習の内容が吟味されていないことに関する問題（たとえば、アイヌ文化学習とアイヌ語学習が不可分となっていること、より学術的なアイヌ語講座が存在しないことやアイヌ語の全体的な位置付けが曖昧にされていることに関する問題（大学教育と社会教育に偏っている事、教員養成や育成のシステムがほとんど存在しない事といった地位（status））に関連する問題、また、③アイヌ語に対する意識が上がらないという威信（prestige）の問題があげられる（上記問題の指摘の一部は北原次郎太氏による電子メール、2012年10月23日、井筒2006）。

今回の調査事業において、これらの課題の多くは以前取り上げられ、既に把握していたため、当調査におけるアンケート設問とし、そこから5つの紙ベースのアンケート調査の質問項目を対象ごとに作成した（付録1で見ることができる）。また、聞き取り調査の形で行われた地域のケース・スタデ

ィー（地域事例）に関しては、さまざまな人々がアイヌ語の継承に関わっているため、情報の攪乱を極力抑えるために一元的な調査項目を策定する必要はあったが、その作成は北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院所属の社会言語学者のK. マーティン氏に協力してもらった。この場合は自由回答形式の設問を中心とした。これにより、アイヌ語地域や主催機関の違いを超えた共通性の抽出が目指された。

残りのアンケート調査はゲーマンが作成したものを、北海道大学アイヌ先住民センターの数人の教員や研究員、アイヌ協会の事務局の方や推進機構の事務局の方に校閲をいただき、また、これらの人の貴重な助言に基づいてアンケートを作成した。但し、調査の実施期間の期日に関する不安のため、100%整理整頓されていないままでアンケートを印刷発送することになった。この責任は唯一ゲーマンにある。

なお、付しておくが、調査実施期間の最期の3週間の間に実施した研究者向けのアンケート（6つ目のアンケート、付録1参照）は最初の聞き取り調査の質問項目を多少加筆、訂正を加えたものである。質的研究において目指される常に調査の基本的問を洗練改善するという原則に沿っている。

### 当調査研究事業の貢献や限度

筆者が知っている限り、アイヌ語継承の取り組みに関して体系的な聞き取り調査やアンケート調査が行われたのは、今回の調査研究事業が初めてである。調査員チーム6人の内、アイヌ民族出身のアイヌ語指導者・実践者4人を取り入れたことをはじめ、当事者の立場に寄り添った形の調査が目指されたことも筆者の知っている限り、アイヌ語関連の研究では初めての試みである。また、アンケート調査の設問の一部（アイヌ語の使用環境やアイヌ語の動向、アイヌ語のイメージに関する質問）は見渡す限り、先行事例がない。

但し、非常に限られた研究の実施期間もあり、アンケート調査の設問の事前準備が足りなかったため、せっかくクロス集計が可能であった設問構成であったなら豊富なデータが得られたところ、これができなかったためにこのようなデータは追跡調査の実施まで期待されたい。また、全国のアイヌ語継承取り組みの一覧表の作成やアンケートの一部の集計作業や考察は、またの機会をまたなければならない課題となるが、そこも期待されたい。

今回の調査研究事業において、調査期間が短かったため、段取りの不足ととらえられたことに文句を言われることがあった。また、この点に関しては筆者は今回の対象者の発言や回答からいうと、限定されたトップダウン式の調査自体に対する不満を考慮し、政策を展開せざるを得ないと思われる。

たとえば、ある回答者は文化庁の調査に関し、次のように発言している：

「以前、私の関わったアイヌ語教材の編集事業についても、最初に予算ありきで、年度内にお金を全部使わなければならないということで、年度内に実現不可能な事業計画が示され、編集委員がそれは無理だと意見しても聞き入れられず、問答無用に予算通りのお金を使うための無理のある事業実施が要求されました。これでは公金を適切に使っていると言いがたいと思ったものです」。（壮青年 男）

### 聞き取り調査から見てきたアイヌ語継承の実態

ここの記述は聞き取り調査と記述式アンケートに基づいたアイヌ語継承の全体的な概要であり、また上述しているように分析は「研究視点」で述べた社会言語学からの視点に基づいている。これらの



分析の一部を補完するが、一部が異なる「学習者用のアンケート集計」は付録7を参照されたいが、研究者やアイヌ共同体の中心的な指導者が全くそこにはないことも留意されたい（調査締切との関係で、分析がもっと深まらなかった理由はそれ）。

### 2009 年迄の過去の実施状況

上述のように戦後からアイヌ語を記録・録音保存してそれを後世に残そうという人々の思いに触発され、1970 年代に二風谷や阿寒で始まったアイヌ語教育の取組みは、1982 年の二風谷でのアイヌ語学習塾の開講を経て、1987 年より道からの補助金の付与で本格的に定着し始めた。やがて道内 14 カ所でアイヌ語教室が学習活動を展開するようになる。この間、早稲田大学や千葉大学をはじめ、大学におけるアイヌ語教育は発展し、閉開講は繰り返されるがアイヌ語は少しずつアカデミー（教育機関）でそのプレゼンス（存在感）を増す（民間教室も浮き沈みがあるようである。全国のアイヌ語教室やアイヌ語関連の取組みについての一覧表は付録8を参照）。そして 1997 年のアイヌ文化振興法によって設立された財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（以降「推進機構」と略記する）が実施する様々な事業が加わり、アイヌ語の継承のための体制はそれまでにない経路と幅広さを見せる。例えば、推進機構の管轄下で行われている S T V ラジオアイヌ語講座、上級者講座や指導者研修は大学などの研究機関に席を置く又は置いた事のあるアイヌ語の専門家が講師として招聘され、専門的なアドバイスを与え、指導を行っている。何年か前の指導者研修から若い世代のアイヌを重点的に選定するようになり、また 2009 年から白老で開始された「担い手育成事業」も若い世代を中心に人選が行われたこともあり、若い世代の中のアイヌ語学習者は増加中である（中川裕 当調査インタビュー）。

しかし、そこに課題がなかったわけではない。

### アイヌ語とアイデンティティについて

個別の聞き取り調査から、ひとつ著しく際立ったキーワードとして浮かび上がったのはアイヌのアイデンティティである。アイヌ語を継承していくことはアイヌの人々にとって、単なる技術的な過程では決してなく、自分のルーツへと戻る手段であり、旅であり、アイデンティティの本心を表すもつとも直結した方法であり、「アイヌ語は自らの権利を取り戻すためのものだ」「言語が民族復興には必ず必要である」ということがひしひしと伝わったのである。「〇〇先生[和人]や〇先生[和人]はアイヌの心を伝えることができない」という言及にあるようにそれはアイヌの民族性そのものを凝縮しているものでもある。

学習者には様々な動機が見られるがやはり、生きた文化や民族性とのつながりを持ちたいというのが確認できる。例えば、中には「昔を懐かしむ、アイヌ語を話していた祖父母のこと」、「儀式の言葉、歌の言葉の意味を知りたい」、「先祖を偲びたい」、「アイヌ民族として民族の言葉を覚えたい」、「アイヌのウウェペケレ（民話・物語）の道德観・倫理観に触れたくて」といったような回答からこれらの動機づけが伺えており、一部のアイヌ、特に壮年より年上の世代ではアイヌ語の使用が生活の延長として生まれていることも伺える。

また一部の地域では、教室としてのアイヌ語活動が地域の集団的アイデンティティの構築に欠かせない事例がある。「[アイヌ語教室のメンバーが]文化保存会、支部行事には積極的に参加（支部はアイヌ語教室のメンバーのサポートで成り立っていると言っても過言ではない）」という記述式アンケートの記述回答にみられるように、少なくとも一部の地域の「アイヌ語教室」はその地域におけるアイヌの集団的アイデンティティの一部をなしていたということがいえる。

## 道教委の資金打ち切りによる影響

2009 年の「不適切な会計処理」事件まで道内各地のアイヌ語教室は活動資金をアイヌ協会を通じて地元のアイヌ文化保存会（道内合計 19 組織、内 17 は国の無形文化財指定を受けている）に支給される北海道教育委員会からの補助金に賄われていた。少なくとも平均して月一回の頻度で教室が開かれ、平取のようにアイヌ語学習が盛んなところでは月 2 回の回数もあった。

補助金の停止等の理由から資金的に運営困難になり、大半の教室は活動中止になっているか、規模を大幅に縮小せざるを得なくなっている。道教委の資金打ち切りの後、アイヌ語継承の取組みの継続はよくても混沌とした状況の中で行われている。プライバシーの関係又は、調査期間が非常に限られた為、各々のアイヌ語教室に関して確実な情報を得ることは困難であったが、記述式アンケートによると継続されている教室は最低の場合 1 つ、多くても 5～6 教室であるということである。

推進機構の事業時間数はたとえば札幌市では 1 年で 2 日×3 時間、推進機構は 1 年で 15 日×3 時間、10 日×3 時間、12 日×3 時間ほどで合計 1 年間で 1 ヶ月程の教室実施日数と予め設定されており、また受講生に対して受講料は支給される等の理由で一般に公開されていないことから、スケジュールの面にしても開放性の面にしても以前地域のアイヌ共同体の重要な一部分を成していた「アイヌ語教室」にとって代わるものではないことが伺える。

また、以下で取り上げる北海道教育委員会主催の「用語講座」もあるが、変則的な開催や学習・教育上の条件のため、これもアイヌの人々の学習欲を満たすものとは思えない。

## 課題一般について

このようにして、課題が浮き彫りになる一つの転換期が補助金の打ち切りに関係しているようである。しかし、その前に課題がなかったわけではない。

この熱烈な愛着とは対照的に、限られた収入、時間の中で、自らアイヌ語継承活動を維持発展する余裕のないアイヌの人々を上から支える行政援助、それを教育の中で拡大していくための教育システムが行き届いていないこと、あるいは行政システムの干渉が逆効果を生むことに対する不満の声が目立つ。

「自民族の言葉を話せる」こともアイヌ民族の根本的権利であるという見識も一部にみられ、また、この見識から、国や道によるアイヌ語支援体制のあるべき姿に関するたくさんの発言や回答が集まった。序文で述べたように、これらの発言や回答は当調査研究事業自体の目的に疑問をかけるものも少なくなかった。

そこで、繰り返しになるが、結局のところ、アイヌ語継承の最終的目的は何であるかによって、最終課題が決まる。たとえば、「研究視点」であげた、ユネスコにも参照されている社会言語学の最新の指標で評価されるなら、今回の調査目標は非常に限定されているととらえることもできる。言語復興の成功例を例に見ると、様々なパターンがあるが、日本のように文化学習の一環として復興言語を学習・教授するというケースは見当たらない。そもそも、アイヌ語教育が文部科学省の管轄下に置かれていないことに疑問をいだく人々がいるかもしれない。アイヌ語復興の一元化やアイヌに特化した教育を限定させるこのような政策方針、分散式の縦割り行政はアイヌの児童のアイヌ語享受権を害しており、また、調査の回答中にこのような制度（トップダウン式、分散式）や施策の行き届いていないところに対する不満が顕著にみられる。この節でこれらの課題を順々にとりあげ、概観検討する。

順番でいうと、これらの課題は経済基盤がない中の活動資金調達の困難さ、補助金に頼る危険性、行政システムの干渉による逆効果である。教育システムの拡大に関しては後に譲ることとする。

## 財政の問題

活動資金獲得の困難はアイヌの経済全般に関係する、組織としてのアイヌ語教室の問題に限らない、同時に各々の受講生の切実な悩みで、もっとも重要な課題の一つである。

## 補助金への依存に対する不安や懸念

重要なことに、見渡す限りどこの先行文献が取り上げていない補助金への依存の問題があげられる。つまり、限られた収入、時間の中で、自らアイヌ語継承活動を維持発展する余裕のないアイヌの人々を上から支える行政援助が必要であって、また、マイノリティの権利からいえば当然のものでもあるが、補助金を目当てに取り込まれる活動の質の低下や形骸化の問題が意識のある人々の中でかなりの不安や懸念が生み出されているという問題である。

発端の一つは 1997 年のアイヌ文化振興法の制定に伴って設立された推進機構（「アイヌ文化『財団』」の設立によって、文化活動やアイヌ語の学習・教育に携わってその時まで入っていなかった補助金が天から降ったように入手可能となった。当時から、新たな「アイヌ文化の商品化」や活動の質の低下や形骸化の懸念は聞こえていた。これは現在のアイヌ語継承に関連するところで次の引用文のように現れる。

「私の知る限り、アイヌ語教育に関わっているアイヌ人は往々にして楽観的で、その分現状に対する評価も甘く、日常生活にアイヌ語を取り戻すという目標を具体的にどう実現するのか、など考えたこともない人が多いように思います。古老とか伝承者とか有識者とか言われる人も例外ではありません」。(壮青年 男)

もちろんこの問題はすぐに解決されることはなく、アイヌ民族が日本国家の中で暮らしている限り永遠に議論され続けるであろうが、このような調査との関係で現れていることに鑑みればこの課題に関し広範囲にわたる調査と議論が必要とされていることが明らかであろう。

## 民間教室から見えてくること

今回の調査研究事業、とりわけ個別聞き取りの分を行っていく内に再確認できたのは、補助金目当ての活動に反対をする人々に親近感を持たれ、ほっとされる存在は民間のアイヌ語教室の主宰者であるということ。今回調査された四つの民間のアイヌ語教室の主宰者は四人ともアイヌ語やアイヌ文化に対する深い愛着で知られている人たちである、気前の良さでも知られている。筆者自身が行った二つの聞き取り調査では、対象者の生き生きとしたアイヌ語・アイヌ文化教育に対する誠実な気持ちも伝わった。

「お金は元々ないけど何とかやれるので、余分なお金っていらないですね。私も生きればいいという。余分に蓄財っていうことは、もうこれがアイヌなんだね。蓄財っていうのはね。あればあるほどケチなんですって。ある人の話で、なんか寄付してくださいって言ったら、ものすごくケチん坊の人がいると。でもその家こそお金持ちなんだって。うん。ところが私はそこから言ったら、何にも貰わなくてもいいということでやっている。でも生きればいいと。家にいて雨が漏らなきゃいいと。食べればいいと。

それはアイヌ的な物の考え方。あまり褒めたことじゃないんですけどね（笑）」。（アイヌ語の民間教室主宰者）

民間教室を開くことに向けた動機づけは様々あると考えられるが、筆者が直接行った二つの民間教室の主宰者への聞き取りでは、「アイヌ協会」の「しぼり」から自由でありたいことは活動言動のひとつだった。

「アイヌ協会とかあるわけでしょ。私は一応協会の人ではあるんだよ。会員であるんだけど、その運動からポーンと外れた状態にいます。それで自由にやっているんですよ。組織に入ってお金をもらって、アイヌ語教室をやるっていったらとってもやれない。何故かというところちゃんとカリキュラムというのかな。どうゆう計画を立てて、この為にはなんぼかかって、どうしていつからこの行事が始まって、終わったら報告出して、どうのこうのっていうことで全部縛られるの。その通りにしなきゃいけない」。

（聞き取り 年配 女）

興味深いことに、一人の主宰者は受講生たちに翻訳の宿題をやったり、テストをさせたりすることを通して受講生たちの学習自覚を促していた。おそらくかなりの成果を挙げていると思わせたのは次の発言である。

#### 行政システムの縛りや行政による干渉のための逆効果

今回の調査研究事業でみられた行政の矛盾やズレに関する発言は上記の民間アイヌ語教室の主宰者のそれにけして限られていない。

「確かにアイヌ文化振興財団の設立によってアイヌ語普及のためのさまざまな事業が行われそれらは数々の問題をはらみつつも一定の成果を出しつつあると私は思っています。

しかし、今後は財団だけでなく、国や自治体による、より組織的なアイヌ語の復興を支援する体制が必要ではないかと思っています。それは予算消化先にありきの公共事業のやり方でなく、言語や文化の担い手であるアイヌ民族自身の現状に即し、かつ民族の希望・意向を尊重し、それが十分反映される、これまでとは違ったあり方でなければならないと思います」。（壮青年 男）

「行政機関がもっとアイヌ民族のこれまで経緯を踏まえて、援助することが大切。現在では会計監査など過度な規制が多すぎる」（教室に関するアンケートの回答記述から）

#### 北海道教育委員会からの補助金の打ち切りについて

長年実施されてきたアイヌ語教室がほぼなくなり、アイヌ語復興運動は過渡期にある原因の一つに国や道からの変則的な財政支援があげられる。

2008 年に北海道道議の公開質問における訴えにより、北海道教育委員会は当時委員会から補助金をもらっていたアイヌ文化保存会があるウタリ協会（当時）の 19 支部を監査した。その結果「不適

切な会計処理」が発覚した（注釈）為、予算は打ちきりになった。その為、当時道内にあった 14 教室は現在、活動資金入手困難なため、大幅に活動を減縮しているか、活動を停止している。

特にアイヌ語指導者向けのアンケートではこれに関した回答がたくさんあったため、当報告書で取り上げるに値すると判断する。たとえば、

「だから、北海道アイヌ協会のアイヌ語教室というのは、実はもう全滅しているわけです。いま唯一生き残っているのは、この平取町二風谷アイヌ語教室だけです。だから、悲惨な状態だと思うね、ほんとに。アイヌ語の未来はかなり暗い、この状況では」（聞き取り調査から、壮年、男）

この補助金の打ち切りに関して、認定された「不適切な会計処理」という事実そのものの問題よりも、アイヌの人々はそれが狡い根拠に基づいた不平等な決断だったととらえている。この点に関して次の引用文はそのフラストレーションを簡潔に表している。

「北海道教育委員会が北海道議会で責められたら、その答えが欲しいがためにアイヌ協会を責めたり、アイヌ協会は今度は各支部にやったりしている。本当に生贄を探されて、その生贄にされたのかもしれない。全部とは言わないけれども。」（聞き取り調査、壮年、男）

「不正」の証拠を集めるために用いられた手段に対しても不満の声も上がっている。

「さっき言ったように契約書を交わした日付より前に事業を行っていて、講師謝礼を払っていたとか、そういうやつが結局、契約書を交わす前にやるのは何事だという話さ、向こうの話ではね。それ毎年もう、10 年以上前の話だからね。8 年か 9 年か。でも、それまでずっと継続してやっていて何ともなかったのに、それが突然何で 8 年たったならそうなるのかというのはおかしいし」。（聞き取り調査、壮年、男）

「北海道教育委員会が調査したら、いまから十何年前の古い話だよ。平成 16 年とか 17 年のやつ、ほんのちょっと前に来てさ、契約日からちょっと何日か前にやった事業についても、全部不適切な事例として、[私たちの町] 自身もとうとう何十万だかの返還もさせられたのだよ。そういうあと出しじゃんけんみたいなのを、十何年もたっているやつを、つい最近だよ、それ。北海道教育委員会のやり方はおかしいと思う、」。（聞き取り調査、壮年、男）

ある聞き取り対象者はこれを次のように述べている。

「まあ、そういうことで、私はちょっと不満を持っているよ、北海道教育委員会の対応及び北海道庁の対応。そこが一番問題だ。だから、片方の言い分しか聞いてないでしょう、ほんとに。

北海道教育委員会がアイヌ民族に対する報償金なのか助成金なのかは別としても財



政的な支援をしたとしても、受けた側とやった側とでは全然違うから、その両方から意見を聞くべきだよ、本当は。だから、アンフェア、不公平ですよ、本当に。(壮年 男)

この情報提供者は次にこの問題をアイヌ関連の縦割り行政につなげた。

「北海道教育委員会は、[国から細々と金を引っ張っているのを]やめて、アイヌ文化振興財団に全部任せますとやったほうがいいんだよ、本当は。だって、アイヌ文化振興財団なんて、親と子のアイヌ語学習事業、上級講座、あと語り部育成事業、そしてラジオ講座をやっているでしょう。そのほかに各地域の日常会話とか、そういうものをやればいい。それを阻止しているのが実は北海道教育委員会。自分たちの存在を誇示しようとしている。

国からどれだけ金を道教委が引っ張っているか、それが結果的に実績になるわけだからね。その金をボーンと財団のほうに行ってしまうでしょう。ある意味、行政の中での綱引きの中で、アイヌが不利益に置かれている状況にあるということ。これだって誰も言ってないから。本当はそこなのですよ。誰も気づいていないものね」。

「結論として北海道教育委員会は自分の立場を守ろうとする姿勢はやめてちょうだい、これが結論だ。金を国から引っ張るがために、アイヌにしわ寄せが来るのはやめてほしい、ほんとに。」(壮年、男)

最後にこの情報提供者は先住民族を巧妙に抑圧させる社会的構造にたとえた：

「明治政府の責任をきちっと明確にすることなく、自分たちがとってきた政策について総括もすることなく、反省することなく、現状維持でちょっと金をばらまいて、「あんたは少し静かにして」みたいな、そういう生かさず殺さず、何とか政策だよ。

で、力を持ったら困るでしょう。だから、あまり力を持たさないように。昔の参勤交代みたいなものですよ。力を持った大名がいたら困るから、あれはわざわざ江戸に来て散財させて金をためないようにするための、参勤交代というのはそれが目的なのだよ。だって、金をもうけて力を得たら、江戸幕府は倒されるかもしれないでしょう。」(壮年、男)

ここで付け加えなければならないのは、外部とアイヌの人々の問題提起にとどまらず、不適切会計処理の原因もアイヌ協会の内部にもある、という指摘があったことである。

「何を言おうとしているかという、北海道アイヌ協会という組織は、結局道教委なり文化庁なり国土交通省なりの金をもらって運営しているわけです。その使い方が云々かんぬんといったって、十分周知することなく、契約書もちゃんと各支部に見せるわけでもない、周知させるわけでもない。それで何か問題があったら、そのしりぬぐいを各支部にさせるという本部の体質がおかしいよ。本当におかしい」。  
(聞き取り調査 壮年 男)

## 和人とアイヌの関係性再び

アイヌ語の支援体制拡充での関係でいうと、要するにアイヌのアイデンティティ問題に突き当たる。というのもメリットがないところでは、たとえばアイヌ民族であってもアイヌ語やアイヌ文化の学習に取り組むものは居ないだろう。理想の世界ではその帰属性、つまり「私はアイヌだ」という意識でアイヌ語関連活動にアイヌ民族が携わるかもしれない。このような考え方から「アイヌ語活動に魂を戻すには推進機構をなくすべき」（壮年 男）といったような発言がある。

一方で経済的なインセンティブ（報奨金）がなければアイヌ語の復興運動は前へ進まないという意見が今回の調査に多く見られた。「研究視点」で述べたように、近年の社会言語学研究ではボトムアップとトップダウンの双方向的アプローチのメリットを説く潮流が強い。つまり、この見方では当事者が決めた道を実現できるように国は政策を通してそのインセンティブ（意欲刺激）となる環境を提供するべきである。また、就労時間により学習時間が制限されているアイヌの就労者や扶養家族が居る者達に対する支援助成などの体勢が不十分であり、アイヌの社会の中でも経済格差が起きており、後述するが、経済的及び生活水準の問題がそのまま言語学習の妨げになっている、という意見も見られた。そこから経済的なインセンティブ（報奨金）が必要とされる意見が出たと考察することが出来る。

ここで、言語継承活動の中身や形態の問題が出てくる。例えば、言語復興における公の教育からの貢献度については様々な議論はある（Hornberger 2011）が、一般的に先住民族言語が教授言語の教育が行わなければ、プラス方向の言語復興“話者数”を増やすことは不可能とされている。今回のアンケート調査において特に親と子のアイヌ語学習事業へ宛てた父母用アンケートからは、アイヌ語を積極的に学校教育に取り入れるという提案や要望はかなりの件数が見られる。そこで物理的な課題を多く孕む「民族学校」といった大事まで検討をもっていかなくとも、言語継承活動の中身と形態は問われるべきである。

井筒（2006 参）はアイヌ語とアイヌ文化の「不可分性」の現象を指摘している。つまり「道内のアイヌ語教室の殆どが、アイヌ語自体よりはアイヌ文化の継承にその活動の殆どを費やしているのが実情。アイヌ語自体を学習している教室は極めて少ない」という事を指摘した上で、アイヌ文化の学習・教育と明確に区別されるアイヌ語学習・教育の定義の必要性を指摘している。

上述したように、アイデンティティ強化とともに当事者出身のアイヌ語教員養成を目的に（中川裕 当調査インタビュー）既にアイヌのみを対象としたアイヌ語教育活動、すなわち「アイヌ語指導者研修」と（少なくとも一部の）「上級者講座」がアイヌ民族のみを対象に行われている。アイヌ語復興活動の強化充実をさらに図るのなら、これらの活動の中身に関する検討が必要であるということだが（中川裕 当調査インタビュー、佐藤知己 当調査インタビュー）、アイヌ語（のみ）の学習・教育の一つの先端的事例として値する。あるいは、これらの事業の講師を務める研究者の大学院のゼミも多大な示唆を与えるであろう。

一方で、これら上記の取組みは大学のゼミを除いて教育の場（小中高学校、大学）で行われていないことから、主流社会の構成員（日本の場合、和人）との混合教育の中でアイヌの子弟がアイヌ語能力を育成しつつ、アイデンティティ強化が機能する環境は有り得るか？ということも問わなければならない。

## 社会教育以外のところでのアイヌ語継承活動（大学および公立小学校）

上記でアイヌ語学習・教育のみに特化した場の必要性があるという声にふれつつ、そのような場が

我が国にはまだ存在しないと指摘し、最後に混合教育機関で高度なアイヌ語学習・教育の機能を果たしつつ、今後のアイヌ語復興運動に必要とされる強い民族意識を育成する場は有り得るかという問いをたてた。

### アイヌ語「用語講座」について

まず、アイヌ民俗文化財伝承・活用事業アイヌ用語学習講座（地元のアイヌ共同体の呼び名に習い、以下「アイヌ語用語講座と略記する）について述べると、聞き取りやアンケートの回答からいうと、北海道教育委員会によるこの事業の主催が変則的で、平成 24 年度は行われていなかった地域もある。

啓蒙資料（ピラサ 2009）でみる限り、この事業の主たる内容は「アイヌの人たちの文化に関連する文化財を理解するための基本的な用語を学[ぶ]」、といったものである。資料から判別できる限り、2009 年の実施地は平取町、むかわ町、登別市と苫小牧市の 4 地域で、前年度で同教委から補助金を得ていた「アイヌ語教室」14 地域の 1/3 に満たない。

平取町の取り組みでは、講師たちは個人的なつながりを使い、地元の博物館からマレク等の民俗道具を借りながら道具の用途を説明しつつそれにまつわるアイヌ語を取り入れた講座を行った。地元にある豊富な民俗財を引っ張り出し地域住民が集まる中でそれらにあえて注目することにより年配のアイヌから、使い方の実演やそれにちなんだ話が聞けたという成果があった。

一方で、教育委員会の担当の者から説明に名詞以外をあまり使用しないようにと注意されたことから、事業条件が講師の意図を限定させるよう機能したとされる。

これを受けて、用語講座と特定しないで指導者のためのアンケートで名詞のみを使用する学習法のメリットに関する設問を設けたところ、入門としては結構だという意見から、やはりアイヌ語学習の最終目標を会話とするなら、「おかしい」と事業を痛烈に批判する回答まででた。

### 大学におけるアイヌ語関連教育について

上記にあるように当調査の聞き取り調査の内、6 つの調査を大学教員に対して行っており、またその内の二つはメールのみにおいて行い、さらに「追跡」アンケートを 3 人に回答してもらった。特定の大学に関しての聞き取りは札幌大学と一定ほど、北海道大学と旭川大学で、大学におけるアイヌ語教育全般については千葉大学と、関東圏のいくつかの大学でアイヌ語を非常勤で教えている人への聞き取りであった。

なお、調査員であるゲーマンは以前個人的に苫小牧駒澤大学のアイヌ出身学生に対する支援体制を調査したことがあり、今回は追跡調査には至らなかったが、その時に得た情報をここで参考にしている。（全国の大学に於いて行われているアイヌ語関連授業については付録 8 を参照されたい。当付録は更なる追跡調査を行う必要があると筆者は考えるが、参照するには充分であり、以前アイヌ語関連授業を開講したことがあるか検討したことのある大学と現在授業を開講している大学とを比較すれば、大学におけるアイヌ語の浮き沈みが理解されよう。

まず、アイヌ語指導者の中で大学や大学院でアイヌ語を学んだ者はほとんどいない。「教室に関するアンケート」の設問（7）「あなたのアイヌ語経験について」「大学でアイヌ語を学んだ」の回答者は 27 人中 2 人であって、「大学でアイヌ語を専攻にした」と答えた者は 0 人であった。これらの数字はアイヌ語指導者のそのほとんどが大学などの教育機関からアイヌ語の教育を受けずに独自又は過去に行われたアイヌ協会、推進機構や個人が主催のアイヌ語教室などで補完し指導者足りえる技術習得がなされている。しかし、社会的には学業達成率が低いと見なされ、指導者として不適当とされか



ねない問題を孕んでおり、これにより今後のアイヌ出身者からのアイヌ語研究者を培う大きな課題の一つとして示唆されており、決して無視してはならない問題である。

これらの数字が示しているもう一つの事実は日本の大学全般におけるアイヌ語の比較的低い地位である。実は、しばしばアイヌ語に対する大学側のサポートは弱く、変則的な上に、学生や教員の中でも評価は一般的に高くない。このことから、大学でアイヌ民族のアイデンティティ強化に貢献するプログラムを設立したことに成功した札幌大学や苫小牧駒澤大学がなしたことは相対的に評価に値する。一般的な状況に関する大学教員の引用文を紹介する。

「どうにもならないと感じる。履修しても、まじめに学ぶ学生は正直、きわめて少数。得た知識がその後何らかの役に立つ、という可能性がないと思われるためだろう。大学で学ぶことの意義はすぐに役立つという点にのみあるのではないということ。授業の最初に言うが、試験やレポートで白紙に近いものを出す学生がいる。注意すると、「アイヌ語のようなものに時間を使うのは惜しい。無駄なことをしたくないから、単位だけよこせ」という答えが返ってくる。文学部の授業で他にも実社会でさして必要とされないものもたくさんあるのに、それらにアイヌ語と同じような態度を取る学生はあまりいない」。

上記の引用の研究者はそれ以上に深い考察を述べている。

「実は問題の根は深く、多くの日本のインテリ階層が深層心理ではアイヌ語やアイヌ文化に何の価値もないと考えて何ら恥じるところがないという、日本社会全体の病理が根底にある。大学だけの取組みで現状を変えることは非常に難しいと感じる」。  
(壮年 男 大学教員)

#### 札幌大学ウレシパ・プロジェクトについて

少しでも、経済的基礎がないアイヌの若者に勉学の機会を与えることを通してアイヌ社会の地位向上に貢献したいということから、アイヌ出身の学生のための支援体制を強めたり、奨学金プログラムを開始したのは北海道内の二つの大学、札幌大学と苫小牧駒澤大学、である。二つの大学とも、アイヌ文化学習やアイヌ語教育を通して一般のマジョリティ学生を啓蒙することに力を入れているのみならず、アイヌの学生が留学生を含めその他の民族性の出身者と一緒になり、アイヌ文化やアイヌ語の勉強を通じた多文化共生の構築を大学から始めようとしている。

調査状況との関係でここでは札幌大学のウレシパ・プロジェクトのみ概要と特徴を紹介する。

本田優子教授（札幌大学副学長）の話によると、現在札幌大学が積極的に展開しているウレシパ・プロジェクトを軌道に乗せるには並々ならぬ努力が必要であったとされる。また、この動きとの関連で当報告書において特に注目に値するのはやはり、「積極的是正」は実は逆差別だという意見の根強さ、また一方で、本田らが多文化共生をアピールして勝ち抜けたことであるだろう。

現在のウレシパ・プロジェクトには 20 人ほどの学生（内 10 人ほどがアイヌ出身）が企業等から奨学金を受けながら、札幌大学でふつうに授業を受けるとともにアイヌ語・アイヌ文化の学習と啓蒙活動に取り組んでいる。

ウレシパ・プロジェクトの発起人で現在その原動力を担っている本田教授から伺った話や、イベン

ト一つの見学、3 時間に及ぶ学生たちとのインタビューからの断片的な情報から考察すると、本田教授の熱烈なアピールが教授会や理事たち、ひいては協力企業の心をつかんだ後、自らがアイヌ文化研究者である本田に北海道大学の北原次郎太先生や佐々木利和教授が教育活動に加わり、教室内外で高い期待が学生たちにそれなりに応えさせた。

本田教授はアイヌ語の重要性が分かった途端アイヌ語の授業の成績が飛躍的にあがった生徒の話を語ってくれた。

この中で特にコメントに値するのは、アイヌ文化やアイヌ語に対する絶対評価である。学生たちはアイヌの精神文化は絶対に評価すべきものであることから、大学では自分の使命はそれに対する啓蒙活動であり、また、当然のごとく数少ない地元でも自分は継承活動を引っ張っていかなければならないという自信と使命感を体得できる。

札幌大学のアイヌ語教育は「アイヌ語入門」と「初級アイヌ語」からなっている。特に「頭に残る」(学生発言) 本田先生の授業スタイルは言葉の説明に自らの経験を交えるという教授スタイルに、本田が講師をつとめる「指導者研修」で開発されたゲームを取り入れ、とにかくこまやかな指導と学生とのやり取りを重視している。

一方で、「本田先生にテキストメールを送る時に、間違っていたら怒られるから最近送っていない」と笑いながらいう学生のコメントから、上記の高度なアカデミック基準も伺える。この刺激のためか、学生の学習欲は毎週平日の夜に行われているユウカラの書き起こし作業兼勉強会への学生たちの参加にみられる。

本田によれば、札幌大学におけるアイヌ語は「他の全ての学習活動をつなげる中軸という役目」を果たしている。

それでも、上記からみてきた経済的な基礎がないアイヌ社会の底上げにはまだまだ道が遠い。

「高等教育を受ける機会の不平等が圧倒的に大きい。アルバイトなどに追われて勉強の時間や機会を確保できない状況ではアイヌ民族の中から運動主体となる専門家を育成することは非常に困難である。経済的な基礎がない人間が勉強で経済的に恵まれた人間に勝つことはまず無理である」。(壮年 男 大学教員)

こまやかな指導の下で行われている札幌大学のウレシパ・プロジェクトプログラムの学生は、卒業後の厳しい社会環境の中でも道を切り開いていけるかという疑問の声は少なくとも一つ筆者の耳に届いている。

いずれにしても、現時点での札幌大学のウレシパ・プロジェクトは混合教育機関で高度なアイヌ語学習・教育の機能を果たしつつ、今後のアイヌ語復興運動に必要とされる強い民族意識を育成する場を果たしている一つのモデルといえるかもしれない。

### 先進的な教育的取り組みを行っている小学校について

アイヌのみを対象にしたアイヌ語教育のみでは不毛な結果しか生まれないという意見を持っている人を筆者はフィールドで多く出会っている。この人らはアイヌ民族のみを対象とした教育に対するバックラッシュも考えているだろうが、それと同じほど、和人を教育させるニーズをも考えているであろう。

【〇〇〇大学出身の学生でもアイヌ語について、アイヌ文化について詳しく聞くのは初めて、という人が少なくない。正直、大学で始めて触れるのでは手遅れで、学生もすぐ社会に出てしまうので、興味の発展のさせようがない。もう少し前の段階でアイヌ語、アイヌ文化に触れさせて、大学でもっと深く学ぶ、というような段取りになることが望ましいと思っている】。(壮年 大学教員 男)

y y g y 当調査のために行った父母に対するアンケートの中で、「もっと教育の中にアイヌ語を入れるべき」といった記述が多くみられた。これらの父母はアイヌ民族学校を想定してそのような回答を書いているのか、それとも民族混合の教育的環境を指しているのかわからない。

いずれにしても、公立小学校できちんに行われたアイヌ学習は児童生徒の民族的自覚を肯定的な方向に影響することは筆者の調査によって確認されている。今回の調査研究事業においては期間が短すぎたため、以前調査を長年行った平取私立二風谷小学校（ゲーマン 2009）や卒業生をインタビューをしたことがある千歳市末広小学校の取り組みは両者ともこのような働きをしていると筆者は結論しており、また、今回の調査で調べた限り、両学校の取り組みは本質的に変わっていない。これらの小学校はアイヌ語に特化した教育単元を行ってはいないが、低年齢の学習者に人気のある学習法を多く提示しているという点において、アイヌ・日本語の交互教育やアイヌ語に特化した教育によってさえ示唆に富んだカリキュラムを行っている。

当調査のために新たに調査を行った平取町紫雲古津小学校も、豊富なアイヌ文化学習の中にアイヌ語教育を取り入れている。たとえば、プ（アイヌの倉庫）の建設から、アイヌの手作業、手工芸、アイヌの植物に関する知識を学習する単元はそのなかのいくつかの例である。末広小学校同様、熱心な一人の教員が学校のアイヌ学習を引っ張っていく中で、地域のアイヌの父母や住民にゲスト・講師として学校に来ていただくというパターンである。紫雲古津小学校では、この教師は学校や地元の平取アイヌ語教室でアイヌ語劇を実現することにより、アイヌ文化を体現しながらアイヌ語を身に付ける効率的な学習法を学校のみならず、地域でも成功させることに貢献した。

#### 和人「研究者」とアイヌ民族出身のアイヌ指導者、学習者との関係性について

筆者は当調査を始める前に、あるアイヌの有識者から、調査をするにあたって、S T Vアイヌ語ラジオ講座に現地のアイヌ出身担当者がサポート役として（当時）入っていたアイヌ語研究者のサポートにおける「関わり方」を特に注目をするよう助言を受けた。当時研究者は、学生たちを連れてアイヌ語の有識者に聞き取りを行っていたと聞いていたので学生たちの勉強にもなるが当事者たちの意向も大切にする斬新な取組みだと考えた。しかし、ラジオ講座のサポートについて結局聞けたのは「ラジオ講座は準備の時間や打ち合わせが足りなかったので番組の作成が危ぶまれたが、メールで台本をやりとりして検討することによって補ったこと」や「直接収録現場で問題が生じた時は相談して解決したということ」だけであった。それでも、この説明はある意味で成功させることの決意をも反映していると捉え、成果として考えられるのではないかと考えられる。

いずれにしても、「一般」のマジョリティ社会の構成員よりも当事者たちのことを理解しようと何倍も努力をしているのに自分の専門とはまた別に、二足のわらじを履かなければならないのに、学者は世界中どこへ行っても当事者から敵視されやすいことから、当調査で収集した困難に関する情報は驚くに値しない。30年前の時代に少し緩和されたとはいえ、和人の学者のみならず地元出身ではな

いアイヌ語講師に対する「軋轢」がまだまだアイヌの当事者との共同作業につきものとして残りそうである。一言でいえば、「うちの婆ちゃんはそう言わなかった」「そんなアイヌ語聞いたことがない」という言葉がもっともよく表しているように、外部の「有識者」が一番浴びている態度は「何様と思っているか?!」である。

教室ではこのような状態を上手に会話のやり取りを交わし解決することは可能だろうが、おそらく今後この問題が一番顕著に表れるのは教科書開発におけるところであろう。教材開発にかかわっている学者からの次のアンケート回答記述はこのジレンマを簡潔に表している。

「話者がほとんどおらず、方言資料も少ないアイヌ語で、良い教材を作ることは無限の困難を伴う。学問的に正確であろうとすると、奥歯にもののはさまった、わかりにくいものしかできない。反面、わかりやすいものを作ろうとすると、研究者が自己の判断で勝手に作文して例文を作らなければならなくなり、学術的に正確なものではなくなる。理想を言えば、学術的にも正確で、詳しく、しかもわかりやすい教材が必要だ」。(壮年 男)

ところで、このようにどうしても納得にいかない対立に比べて割と軽い話題に移ると、和人のコミュニケーション・スタイルとアイヌの人々のそれを比較し筆者に説明した太田満は笑いながら「日本人は人を話し相手にしたい場合は『はい』と答えるが、アイヌはその場合相手の言い分に対して『いや』と反応する。これを知らなければえらい目に合うし、気づいていなければ『いや』といわれた時に反論をしなければアイヌをがっかりさせ、相手にされなくなるから損よ。でもこの傾向を知っていれば相手の言わんとしていることを先読みして『いや』『いや』と言わせながら自分の説得させたいところに導いていける！」これを聞いた筆者は今後、和人とアイヌの異文化によるコミュニケーション・スタイルの違いについて益々研究されるべきだと考えた。

また、いずれにしても、1. 専門的にアイヌ語が学べる場や2. 専門的にアイヌ語やアイヌ文化について議論をし、知識を深める場があれば、アイヌ和人双方のもっとより良いコミュニケーションにつながると思われる。

### 子どもを対象としたアイヌ語教育の取り組みについて

上記のように、父母用のアンケートでは学校教育にアイヌ語をもっと取り入れて欲しいという記述が見られたが、このような子どもに対するアイヌ語教育の最終目的について議論の余地は多いにあり、次の調査を待たなければならないところである。

いずれにしても、「吸収力が早い」子どもへの期待も、責任も大きい。

「子どもの教育が大人よりも重大。子どもの未来なので。責任をもっておこなうことが何よりの課題だと思っています」。(聞き取り調査より 壮年 男)

どこの教室も遊びやゲーム、ウポポ（アイヌ語の歌）等を取り入れており、子どもが飽きることなく親しみやすい環境を作り出せるよう工夫している。

場所によっては野外活動や合宿も取り入れており、少なくとも平取町のアイヌ語教室子どもの部は成人と子どもが共演するアイヌ語劇を地元の文化祭で披露し、教室という空間的な



場を超えて世代も越えてアイヌ語活動に取り組んでいる。

東京の八重洲まで、静岡から孫たちを新幹線に乗せて親と子のアイヌ語教室に参加させる家族も見られ、「アイヌ語に触れられる」ことの大切さを感じさせる。

親と子のアイヌ語学習事業では、一緒に取り組める学習活動を工夫できたところもあれば「確かに学習のペースは違う」とコメントをしたところもいた。一般的に親は子供の学習能力の速さに期待していたのと、家族で一緒に家でアイヌ語が使えることのメリットに言及した人は多かった。

一度に一地域では 3 家族が参加できないという推進機構の条件に対して、不満の声もあがり、行政主導の活動の限度を感じさせる課題である。静岡在住の方は札幌まで孫たちを連れて行ったのに特別な歓迎は何もなかったことにがっかりしていた。

最後に、上記でも触れているように、親と子のアイヌ語学習事業だけではなく、一般の学校教育にもアイヌ語学習活動を取り入れて欲しいという要求はたくさんみられた。

### 東京におけるアイヌ語継承の取り組みについて

今回の調査研究事業のために調査をした教室の中で一番特徴的なのは東京である。それは、北海道にいればごく自然に見たり聞いたりする機会があるようなことが、アイヌであるのに、東京にいると見る機会や聞く機会がないため、全然知らないわけである。つまり、北海道ではアイヌ語の話とかアイヌの話をすれば、説明しなくても分かるようなこと、見なくても全ての人が知っているようなこと、たとえば植物の名前が、東京では知られてない。そのために東京でのアイヌ語講師は、北海道では知っていて当たり前のものを疑似体験できるよう、映像や写真を見せたり、音を聞かせたり、実物を用意する工夫が必要であるということであった。

或いは、もう一つのバリエーションとして北海道で育ったアイヌの中年や年配の学習者に若い時の経験を他の学習者に共有してもらったりすることもできる。(筆者が見学をした日、教材は八雲の子守歌であったが、講師はそれぞれの地域の参加者に自分の出身地の節の付け方を質問した。その後にマキリ(アイヌの短刀)を参加者一人一人が触れるよう回し、最後にアイヌの名前の付け方の説明のところで、筆者に同行していた平取町出身の木幡寛の育ての祖母のあだ名についての逸話を通して学習者にポイントを押さえた)。

講師はこのように、彼が東京で北海道のアイヌを中心とした「場」づくりに取り組んでいることを説明した。

### ネットとアイヌ語継承について

近年の著しい IT 技術の発展に伴って、人間は日ごろ増えつつある形態を通じて互いへのコミュニケーションが遠距離であっても可能になった。筆者が聞き取り調査を行ったネットコミュニティの創始者は①スカイプと②ニコニコ動画を通じてアイヌ語の継承に取り組んでおり、東京や旭川と言った遠く離れた住まいをしている人々の集う場をインターネット上で構築した。

少なくともスカイプにおいては複数人の同時通話が可能で、両方においても通話をしながらチャット(キーボードを使って相手が見られる画面にメッセージを書くためのツール)が可能だが、この二面性により通話についていけない参加者は文字を通じてお互いに会話の意味を確認することもできるというメリットがある。

ニコニコの方は放送のような機能もあり、コミュニティ(共同体)のメンバーが互いが保存した放送

を一週間も見られるため、不都合で参加できなかった人は後からでも見られるようになっている。

柄が悪いというイメージさえ気にしなければ、ニコニコの使用は無料のため、気軽にアイヌ語を学習する場は提供されるが、コンピューターが苦手な人（たとえば年配者）には多少敷居が高いかもしれない。

## 参考文献

- アイヌ政策推進会議（政策推進作業部会）報告 24 年 6 月  
[http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainusuishin/dai4/siryou3\\_2.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainusuishin/dai4/siryou3_2.pdf) 2013 年 3 月 11 日にアクセス。
- アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会の報告（平成 21 年 7 月）  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainu/dai10/siryou1.pdf> 2013 年 3 月 11 日にアクセス。
- ゲーマン ジェフリー 2012『土着の知に基づいたアイヌ文化継承に関する研究―「カルチュラル・セーフティ」論を中心に―』九州大学大学院人間環境学府 提出博士論文。
- ゲーマン・ジェフ 2009「地域と文化に根ざした教育についての考察―二風谷小学校の取り組みを中心に―」『飛梅論集：九州大学大学院教育学コース院生論文集』第 9 号 九州大学人間環境学府教育専攻教育システムコース 2009 年 3 月 67-86 頁。
- 井筒勝信 2006 講演「アイヌ語教育の現在」国際ワークショップ「地域に学ぶ 伝統に学ぶ」2006 年 12 月 3 日（日）於北海道教育大学岩見沢校。
- 北原次郎太 2007 「アイヌ語学習の今」『原教界』台湾政治大学発行 V18, December, 2007, 60-65 頁。
- 文化庁「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業報告書」（平成 23 年 2 月・国立国語研究所）  
[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/kokugo\\_sisaku/kikigengo/pdf/kikigengo\\_kenkyu.pdf](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kokugo_sisaku/kikigengo/pdf/kikigengo_kenkyu.pdf)  
2013 年 3 月 09 日にアクセス
- 北海道教育庁学校教育局義務教育課 北海道アイヌ教育相談員 『ピラサ』平成 22 年 12 月 21 日 19 号 北海道教育庁学校教育局義務教育課発行。
- 中川裕 2009 「アイヌ語学習の未来へ向けて」アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会（第 5 回）会議（2009 年 12 月 26 日）における専門家ヒアリング。  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainu/dai5/5gijigaiyou.pdf> 2013 年 3 月 11 日にアクセス
- Fishman, Joshua A., Ed. (2001). *Can Threatened Languages Be Saved? Reversing Language Shift, Revisited: A 21st Century Perspective*. London: Multilingual Matters.
- Goodfellow, Anne Marie, Ed. (2009). *Speaking of Endangered Languages*. Newcastle upon Tyne: Cambridge Scholars Publishing.
- Hornberger, Nancy M., Ed. (2011). *Can Schools Save Indigenous Languages? Policy and Practice on Four Continents*. Hampshire: Palgrave MacMillan.
- Muhlhauser, P. (1992). *Linguistic Ecology: Language Change and Linguistic Imperialism in the Pacific Region*. London: Routledge.
- Olthuis, Marja-Liisa, Suvi Kivela and Tove Skutnabb-Kangas. (2013). *Revitalizing Indigenous Languages: How to Recreate a Lost Generation*. London: Multilingual Matters.
- Patrick, Donna (2003). *Language, Politics, and Social Interaction in an Inuit Community*. Berlin, New York: Mouton de Gruyter.
- UNESCO (2008). *Atlas of the World's Languages in Danger*.  
<http://www.unesco.org/culture/languages-atlas/> 2013 年 3 月 10 日にアクセス。

## 付録一覧

- 付録 1 アンケート原本
- 付録 2 指導者のためのアンケートの結果・集計
- 付録 3 アイヌ語の学習に関するアンケート（学習者用）集計結果
- 付録 4 教室に関するアンケート 記述式回答一覧
- 付録 5 アイヌ語教室子供の部又は親と子のアイヌ語学習事業に関するアンケート（講師用）  
記述式回答一覧
- 付録 6 アイヌ語教室子供の部又は親と子のアイヌ語学習事業に関するアンケート（父母用）  
記述式回答一覧 覧
- 付録 7 教室に関するアンケート質問 1.、2. 集計
- 付録 8 学習者用アンケート設問（1）の 1. 人種別集計データ
- 付録 9 全国のアイヌ語教育の取り組み一覧表  
木幡寛、大野徹人、ジェフ・ゲーマン
- 付録 10 川村カ子トアイヌ記念館所蔵アイヌ語関連音声資料目録  
川村久恵
- 付録 11 業務計画書
- 付録 12 テキスト及び音声資料について



## 付録1 アンケート

## アイヌ語指導者のためのアンケート

1. あなたの血筋を教えてください  
アイヌ 和人 外国人
2. あなたは何年アイヌ語を勉強していますか？ ○○○歳から
3. アイヌ語教室以外での教育経験はありますか？  
① はい ② いいえ  
「はい」と答えた方へ、それはどこですか？
4. あなたはいつ頃からアイヌ語を教え始めましたか？  
( )
5. あなたは現在でも教えていますか？今現在教えていない場合は、これ以降の質問に対しては最後に教えた時の状況で答えてください。  
① はい、教えています ② 今は教えていません
6. アイヌ語はどこで勉強しましたか？  
① アイヌ語教室 ②アイヌ語に詳しい人から個人的に教わった  
③ インターネット ④アイヌ語ラジオ講座  
⑤市販のアイヌ語教材を使って ⑥音声資料を聞いて
7. あなたのアイヌ語経験について  
A) 弁論大会出場の経験  
① ある ② ない  
B) 弁論大会入賞  
①あり( 回) ② なし  
C) アイヌ語ラジオ講座を担当  
①している 又は したことがある ② したことはない  
D) 上級者講座を受けた ①はい ②いいえ  
E) 指導者講座を受けた ①はい ②いいえ  
F) 大学でアイヌ語を学んだ ①はい ②いいえ  
G) 大学でアイヌ語を専攻にした ①はい ②いいえ  
H) その他(具体的に) ( )

## アイヌ語教育全般について

1. どのようにすればアイヌ語の教科書が使いやすくなると思いますか？

(例：『アイヌ語エクスプレス』はよりたくさんの生活場面にちなんだシナリオを含むべき)

2. それぞれの地域の方言を教えることは大切なことだと思いますか？

① はい                      ② いいえ

その理由を教えてください。

3. アイヌ語の教科書においてはそれぞれの地域の方言を含めるべきだと思いますか？

① はい                      ② いいえ

その理由を教えてください。

4. 現在、主に物の名前（名詞）についてのみのアイヌ語学習が行われていることについてのご意見をお聞かせください。

5. アイヌ語の音声資料の保管や利用に関してお聞きます。

アイヌ語の音声資料はどのようなところで保管されているでしょうか？

あなたが知っているところすべてに丸を付けてください。

① 大学の研究室      ②博物館      ③研究機関      ④個人宅  
⑤ その他（                      ）

- A) あなたはアイヌ語を勉強する時に、CDやテープなどの音声資料を活用していますか。

①はい      ②いいえ（＝アイヌ語の話者や講師から直接習ったり、本などで勉強しただけの場合はこちらになります）

「はい」と答えた方は B),C),D)について答えてください。

「いいえ」と答えた方は E) へ進んでください。

- B) 以下は、「A」で①と答えた方のみ答えてください。

「いいえ」と答えた方は E) へ進んでください。

あなたはどのようにして音声資料を手に入れましたか（複数回答可）。

- ① 自分で古老などから録音した  
② 家族もしくは親戚が持っていたものを譲ってもらった、もしくはコピーしてもらった



## アイヌ語の動向

1. 下記の中でアイヌ語学習または教育に影響を与えている機関はありますか。  
(複数回答可)  
① 社団法人北海道アイヌ協会 ② 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構  
③ 北海道庁 ④あなたの自治体  
⑤ その他(具体的に )
2. 上記の質問 1 で、該当ありと答えた方、それらはどのように貢献していますか。
3. アイヌ文化の人気はここ数年変化していると感じますか。  
A) 感じている(その理由)  
  
B) そうは思わない
4. アイヌ語の人気はここ数年変化していると感じますか。  
A) 変化している(その理由)  
  
B) そうは思わない
5. 上記 3、4 で (A) と答えた方、この変化はアイヌ語学習に影響を与えていると思いますか？  
A) 影響を与えている(その理由)  
  
B) そうは思わない
6. 将来、アイヌ語の現状を向上させるために、またアイヌ語教室や講座に参加しやすくするために何をすべきだと思いますか？
7. アイヌの言語復興について、下記のそれぞれの項目は、どのくらい重要になってきますか。  
A) 個人：①とても重要 ②重要 ③どちらとも言えない ④あまり重要ではない  
⑤全く重要でない  
  
B) 家族：①とても重要 ②重要 ③どちらとも言えない ④あまり重要ではない  
⑤全く重要でない  
  
C) 地域共同体：①とても重要 ②重要 ③どちらとも言えない  
④あまり重要ではない ⑤全く重要でない

D) インターネットコミュニティー：①とても重要 ②重要 ③どちらとも言えない  
④あまり重要ではない ⑤全く重要でない

E) アイヌ語教室：①とても重要 ②重要 ③どちらとも言えない  
④あまり重要ではない ⑤全く重要でない

F) 学校におけるアイヌ語教育：①とても重要 ②重要 ③どちらとも言えない  
④あまり重要ではない ⑤全く重要でない

G) 大学におけるアイヌ語教育：①とても重要 ②重要 ③どちらとも言えない  
④あまり重要ではない ⑤全く重要でない

H) アイヌ語を支援する政策：①とても重要 ②重要 ③どちらとも言えない  
④あまり重要ではない ⑤全く重要でない

I) アイヌ語が使える職場環境：①とても重要 ②重要 ③どちらとも言えない  
④あまり重要ではない ⑤全く重要でない

8. 下記の項目の中で、アイヌ語の言語復興に重要なものから順番に、最も重要なものを1としてランク付けしてください。

- \_\_\_ 個人
- \_\_\_ 家族
- \_\_\_ 地域共同体
- \_\_\_ インターネットコミュニティー
- \_\_\_ アイヌ語教室
- \_\_\_ 学校
- \_\_\_ 大学
- \_\_\_ アイヌ語を支援する政策
- \_\_\_ アイヌ語が使える職場環境

### あなた自身についての質問

1. アイヌ語を使う環境について

A) あなたはどのような環境でアイヌ語を話しますか。下記からお選び下さい（複数可）

- ①インターネット ②家 ③ご近所さんの家 ④地域のアイヌ語教室 ⑤個人によるアイヌ語教室 ⑥アイヌ文化財団によるアイヌ語教室（教室もしくは事業、講座名：\_\_\_\_\_） ⑦職場 ⑧アイヌ文化保存会の集まり

⑨アイヌ協会の集まり ⑩アイヌ協会講座 ⑪地域共同体の集まり（詳細：\_\_\_\_\_） ⑫アイヌ語弁論大会 ⑬職業訓練校 ⑭学校、大学 ⑮その他のコースや講座（詳細：\_\_\_\_\_） ⑯市役所 ⑰その他

B) 上記のそれぞれの場所で、どんな種類のアイヌ語をどれくらいの頻度で使っているか、詳しく書いて下さい。（例：祝詞 アイヌ文化保存会の催しで年数回）

C) 上記のリストの中で、あなたにとってアイヌ語を使ことが重要だと思う場所はどこですか。

## 2. アイヌ語と帰属性（アイヌであるということに対する気持ち\*）について

\* アイヌの血筋ではない方、アイヌ語指導を通してアイヌ民族への貢献に対する気持ちという観点から答えてください。

A) あなたは現在アイヌの組織やアイヌの関連団体に所属していますか？所属しているのなら、組織や所属の動機を教えてください。（例：アイヌ文化保存会 動機：仲間とともにアイヌ文化を実践する）

B) あなたのアイヌ・アイデンティティ（アイヌとしての意識\*）は時間を通じて変化しましたか？変化した場合、どのように変化したのか教えてください。

\* アイヌの血筋ではない方、あなたのアイヌ民族への貢献に対する気持ちという観点から答えてください。

C) アイヌ語を勉強し始めてから、あなたのアイヌ・アイデンティティは変化しましたか？変化した場合、どのように変化したのか教えてください。

## 3. 現在、あなたが理想とするやり方でアイヌ語を勉強できていますか？

① はい ② いいえ

その理由を教えてください。

## その他の質問

1. アイヌ語は今後どうなっていくと思いますか？
2. 上記の回答以外に、アイヌ語の保存・伝承に係る取り組みなどの実態、成果や課題に関するご意見やコメントがあれば、お書きください。

## アイヌ語の学習に関するアンケート（学習者用）

質問 1. あなたの家族構成およびアイヌ語の学習経験についてお聞きます。

(1) 家族構成・年齢・性別等について

続柄	年齢	性別	アイヌ民族の血筋	アイヌ語
本人（あなた）		男・女	アイヌ・和人・外国人	話せる・話せない
		男・女	アイヌ・和人・外国人	話せる・話せない
		男・女	アイヌ・和人・外国人	話せる・話せない
		男・女	アイヌ・和人・外国人	話せる・話せない
		男・女	アイヌ・和人・外国人	話せる・話せない
		男・女	アイヌ・和人・外国人	話せる・話せない

(2) 住所について

（ ）都・道・府・県 （ ）市・町・村

(3) あなたのアイヌ語の学習経験についてお聞きます。

アイヌ語を学習したことがありますか（学習していますか）。

① 学習している → 質問 2. にお答えください。

② 学習したことがあるが現在はしていない → 質問 2. と質問 3. にお答えください。

③ ない → 質問 4. にお答えください。



質問 2. 質問 1. の(3)で①もしくは②と答えた方にお聞きします。

(1) アイヌ語を学習してみようと思った理由を教えてください。

( )

(2) どこでアイヌ語を学習しましたか (学習していますか)。

① 自宅で両親や祖父母等から教えてもらった (教えてもらっている)。

② 地域のアイヌ語教室等で教えてもらった (教えてもらっている)。

③ 自分だけで学習した (学習している)。

④ 小・中学校で教えてもらった (教えてもらっている)。

⑤ 高等学校・大学で教えてもらった (教えてもらっている)。

⑥ その他 ( )

(3) (2)で①・②・③と答えた方にお聞きします。

アイヌ語を学習しはじめたのは何歳頃ですか。 ( ) 歳頃

(4) (2)で②と答えた方にお聞きします。

アイヌ語教室等において学習の他に楽しかったことはありますか (あてはまるものをすべて選んでください)。

① 同世代のアイヌの人々と知り合いになったこと

② 年上のアイヌの人々と知り合いになったこと

③ 年下のアイヌの人々と知り合いになったこと

④ 和人や外国人と知り合いになったこと

⑤ 同世代のアイヌの知り合いと色々な話ができたと

⑥ 年上のアイヌの知り合いと色々な話ができたと

⑦ 年下のアイヌの知り合いと色々な話ができたと

⑧ 和人や外国人の知り合いと色々な話ができたと

⑨ その他 ( )

(5) (2)で③と答えた方にお聞きします。

どのようにアイヌ語を学習しましたか (学習していますか)。

① ラジオのアイヌ語講座を利用

② 市販されているアイヌ語教材を利用

③ インターネットにおけるアイヌ語に関する情報等を利用

④ その他 ( )

- (6) アイヌ語をどのくらいの頻度で学習しましたか（学習していますか）。  
（日・週・月）に（ ）回、1回に（ ）時間程度
- (7) アイヌ語の記述ではローマ字とカタカナのどちらが読みやすいですか。  
① ローマ字                      ② カタカナ
- (8) あなたのアイヌ語学習の目標はどの程度でしたか。  
① ほとんどの話題について日本語と同程度に会話できるようになる  
② 日常的な会話を日本語と同程度にできるようになる  
③ 簡単な文章をアイヌ語で話せるようになる  
④ 日常的な挨拶をアイヌ語でできるようになる
- (9) あなたのアイヌ語学習の成果についてお聞きます。  
(a) 現在、アイヌ語をどの程度話せますか。  
① ほとんどの話題について日本語と同程度に  
② 日常的な会話ならば日本語と同程度に  
③ 簡単な文章をアイヌ語で話せる程度に  
④ 日常的な挨拶をアイヌ語でできる程度に  
⑤ まったく話せない  
(b) 現在、アイヌ語をどの程度聴きとることができますか  
① ほとんどの話題について日本語と同程度に  
② 日常的な会話ならば日本語と同程度に  
③ 簡単な文章をアイヌ語で聴きとることができる程度に  
④ 日常的な挨拶をアイヌ語で聴きとることができる程度に  
⑤ まったく聴きとれない
- (10) アイヌ語を学習したことにより、あなたがアイヌ語で話す機会は増えましたか。  
① 増えた                      ② 変わらない                      ③ 減った
- (11) アイヌ語を学習するうえで、不便だと感じたことがあれば教えてください。  
例) 近所にアイヌ語教室がなく、毎週札幌市まで通わなければならなかった。  
( )
- (12) アイヌ語の学習をとおして、よかったと思えることがあれば教えてください。  
例) アイヌ語の学習をとおして、伝承されてきた昔話をたくさん知ることができた。

( )

質問 3. 質問 1. の(3)で②と答えた方にお聞きします。

(1) またアイヌ語を学習したいと思いますか。

- ① 思う                      ② 思わない

(2) (1)で①と答えた方にお聞きします。

(a) またアイヌ語を学習したいと思う理由を教えてください。

( )

(b) 現在、アイヌ語を学習していないのはなぜですか。

- ① 忙しくてアイヌ語を学習する時間がとれないから。  
② 近所にアイヌ語を教えてくれる教室・施設等がないから。  
③ 日常生活において、アイヌ語があまり必要ではないから。  
④ アイヌ語が難しくて学習してもなかなか成果をあげられなかったから。  
⑤ その他 ( )

(3) (1)で②と答えた方にお聞きします。

(a) アイヌ語を学習したいと思わない理由を教えてください。

( )

(b) アイヌ民族にとってアイヌ語はどのくらい重要だと思いますか。

- ① とても重要              ② あまり重要ではない      ③ どちらともいえない

質問 4. 質問 1. の(3)で③と答えた方にお聞きします。

(1) いつかはアイヌ語を学習してみたいと思いますか。

- ① 思う                      ② 思わない

(2) (1)で①と答えた方にお聞きします。

(a) いつかはアイヌ語を学習してみたいと思う理由を教えてください。

( )

(b) これまでアイヌ語を学習してこなかったのはなぜですか。

- ① 忙しくてアイヌ語を学習する時間がとれないから。  
② 近所にアイヌ語を教えてくれる教室・施設等がないから。  
③ 日常生活において、アイヌ語があまり必要ではないから。  
④ その他 ( )

(3) (1)で②と答えた方にお聞きします。

(a) アイヌ語を学習してみたいと思わない理由を教えてください。

( )

(b) アイヌ民族にとってアイヌ語はどのくらい重要だと思いますか。

- ① とても重要              ② あまり重要ではない      ③ どちらともいえない

## アイヌ語教室に関するアンケート（代表講師用）

1. ここでの取り組みについて聞かせてください

A) 地域には他の教室・講座等がありますか？（あるものすべてに丸）

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

（上級講座・親と子のアイヌ語学習・語り部育成事業）

社団法人北海道アイヌ協会

大学

その他民間

B) この教室の学習講座の種類（子どもの部等）

C) 対象者は            ① 大人            ② 子ども            ③ その他

D) 指導者数            (            ) 名

E) 指導者のアイヌ語指導の研修・訓練の経験（あてはまるものすべてに丸）

講師 1    ①指導者育成講座    ②上級講座    ③大学アイヌ語を学んだ

④大学でアイヌ語を専攻にした

講師 2    ①指導者研修    ②上級者講座    ③大学アイヌ語を学んだ

④大学でアイヌ語を専攻にした

F) 指導者の系譜（指導者の恩師は誰々、またその恩師は誰に習ったか）

指導者名	指導者の恩師	恩師が教わった人

G) アイヌ語教室としてどのような会場を使用していますか。

①生活館    ②その他の公共施設(公民館など)    ③個人宅又は施設

④チセ    ⑤その他

H) その会場の使用に関する規制があれば、具体的に教えてください

2. 運営体制について聞かせてください

A) 事務員がいる場合は、その責務について教えてください

( )

B) 学習者の数 ( ) 人

C) 学習者の年齢層

① 小学生( )人 ② 中学生( )人 ③ 高校生( )人

④ 成人25－34歳 ( )人 ⑤ 成人35－44歳 ( )人

⑥ 成人45－54歳 ( )人 ⑦ 成人55－64歳 ( )人

⑧ 成人65歳以上 ( )人

D) 学習者の構成

① アイヌのみ ② アイヌと和人・外国人

(割合: アイヌ %: 和人 %: 外国人 %)

E) 学習者の学習動機(あれば教えてください)

[ ]  
[ ]  
[ ]  
[ ]  
[ ]

3. 団体と連携がある場合、連携の内容について具体的に教えてください

(例: 文化保存会 合同イベント開催)

4. 使用されている教材、音声資料について

A) 教科書を使っていますか?

① 使っていない

② 使っている(教科書名 )



B) 音声資料をつかっていますか？

- ① 使っていない
- ② 使っている(具体的な音声資料名を教えてください)

C) 使用されている教授法

- ① 特にない
- ② 特定の教授法を採用している(具体的に教えてください)

5. 地理的な、又は 季節的な制限はありますか？(交通機関や冬の気候など)

6. 取り組みの強みや特質について

この取り組みの強み(特質)について教えてください

(アイヌ語話者、地域住民、自治体からのサポート・連携等。)

7. 取り組み(の発展)の障害・妨害となっていることがあれば教えてください

(例：資金繰り)

8. あなたが現在までに乗り換えた困難などがあれば教えてください。また、そのために  
なにか工夫した点などあれば教えてください。

(例：学習者の学習意欲の低下に対し、学習の内容・教授法を〇〇〇のように変えて、面白くした。)

9. (アイヌ語の継承・保存に関して)あなたが感じている問題点などあれば具体的に教えてください

(例：様々なアイヌ語能力を持つ学習者がいるのに、能力別に授業を分けるほどの講師人材が不足している)

10. 支援・協力体制について

アイヌ語を教える(継承する)ために、あなた(この教室)は何らかの援助を受けて

いますか？(人や組織などから) あれば具体的に教えてください。

### 教室・取り組みの効果・成果について

11. 受講生たちに特に人気のある学習法や学習活動があるなら教えてください。
12. 受講生たちにとって、ここに参加するに当たって、学習以外に何か楽しいことはありますか？
13. 学習者にとって、このアイヌ語教室で一番勉強になった事や役に立ったことについて何かあれば教えてください。
14. 使用している教科書がある場合、それは役に立っていると思われますか？  
また役に立っているとすれば具体的にそれはなぜだと思いますか？
15. (上記の質問で触れられていなければ) ローマ字表記 対 片仮名表記の都合の良い点、悪い点についてどのようにお考えですか？また、教室ではどのように対応していますか？
16. どのようにすれば、このアイヌ語教室が今後もっと良くなっていくと思いますか。  
もし意見があれば自由にお書き下さい。

アイヌ語教室子どもの部又は親と子のアイヌ語学習事業に関するアンケート  
(講師用)

(講師へ：「アイヌ語指導者のためのアンケート」も記入してください)

- 1) 子どもにとって、学習活動がより適切で魅力的になるように、あなたはこれまで学習活動に何か調整や創意工夫をしてきたことがあれば教えてください。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 2) 子どもの年齢層や学習能力レベルに対応した教育（たとえば学習活動・アクティビティの調整・工夫・創作）を行っていますか？  
                    はい                    いいえ  
A) 「はい」と答えた方、どのように学習活動を調整・工夫・創作している・したかについて教えてください。  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
B) いいえと答えた方、その原因と思われるものを教えてください。  
(例：講師養成の支援体制が足りない )
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 3) 子どもが親と一緒にアイヌ語の勉強をするメリットがあれば、それについて教えてください。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 4) 子どもが親と一緒にアイヌ語の勉強をするデメリットがあれば、それについて教えてください。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 5) 将来に子どものアイヌ語教育はどのように変わっていけばよいと思いますか？
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 6) 支援体制は整っていますか？充分でないとすればどのようなことが挙げられますか？

アイヌ語教室子どもの部又は親と子のアイヌ語学習事業に関するアンケート  
(父母用)

- 1) 親と子のアイヌ語学習事業、またはアイヌ語教室子どもの部の参加動機を教えてください。
- 2) 子どもが親と一緒にアイヌ語の勉強をするメリットがあれば、それについて教えてください。
- 3) 子どもが親と一緒にアイヌ語の勉強をするデメリットがあれば、それについて教えてください。
- 4) 将来子どものアイヌ語教育はどのように変わっていけばよいと思いますか？

## アイヌ語研究者・言語学者へのアンケート

アイヌ語教育の強化に向けた、研究者・言語学者とアイヌ語教室・アイヌ語指導者の共同作業の成果と課題について

- 1) アイヌ語教室・指導者の支援を目的に、あなたが現在まで行ってきた活動（あなた個人の活動またはプロジェクトの一人として関わった活動）について教えてください。

場所

時期または期間

対象

具体的な成果

- 2) この活動において、あなたやプロジェクトメンバーが直面した困難や課題はありましたか？また、これらの困難や課題をどのようにして乗り越えてきたかについて教えてください。
- 3) アイヌ語教室・指導者との関わりの中で、あなたが配慮している、あるいは重視している点（倫理等）があれば、教えてください。
- 4) あなたの経験上、アイヌ民族が、言語学・第二言語教授法に関する専門的な知識を共有することの妨げとなるものにはどのようなものがあるのでしょうか？

音声資料等へのアクセスについて

- 5) あなたの経験上、アイヌ民族が研究所・大学・博物館等に保管されている音声資料をアクセスしようとする時、障害となるものはなんですか？

アイヌ語教育のための教材開発について

- 6) アイヌ語の復興運動の中では、教材自体はどのような位置づけをされているのでしょうか？（どのように位置づけされるべきとお考えでしょうか）。
- 7) どのような教材が今一番必要とされているか（言い換えれば、どのような教材が一番不足している）とお考えでしょうか？
- 8) 将来的に新しいアイヌ語教材を開発するときに、最も難しい点はなんだと思いますか？

アイヌ語の継承について

- 9) 次の世代に①アイヌ語を学習することを奨励し、②教室以外のところでアイヌ語を使用することを促進する最も良い方法は何でしょうか？（つまり、若い世代の生活にとって意味があるものにするにはどうしたら良いだろうか）
- 10) ある研究者によれば、現在、「指導者研修」の対象はアイヌ民族出身のみとなっているようです。また、アイヌ文化振興・研究推進機構の「語り部育成上級者講座」は少なくとも一部の地域ではアイヌの学習者に限定されている。このようにアイヌ民族出身に限定させるメリット・デメリットに関してご意見があれば教えてください。

アイヌ語の未来について

- 11) アイヌ語教育の強化に向けた、研究者・言語学者とアイヌ語教室・アイヌ語指導者の共同作業の未来についてどう思いますか？

12) アイヌ語は未来にどうなっていくと思いますか？

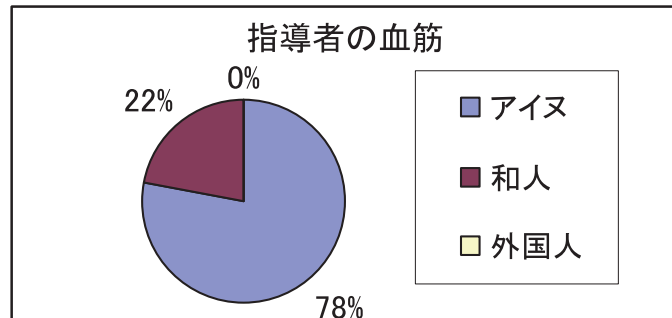


## 付録 2

### アイヌ語指導者のためのアンケート結果・集計

#### 1, 血筋を教えてください

血 筋	人 数
アイヌ	21
和人	6
外国人	0

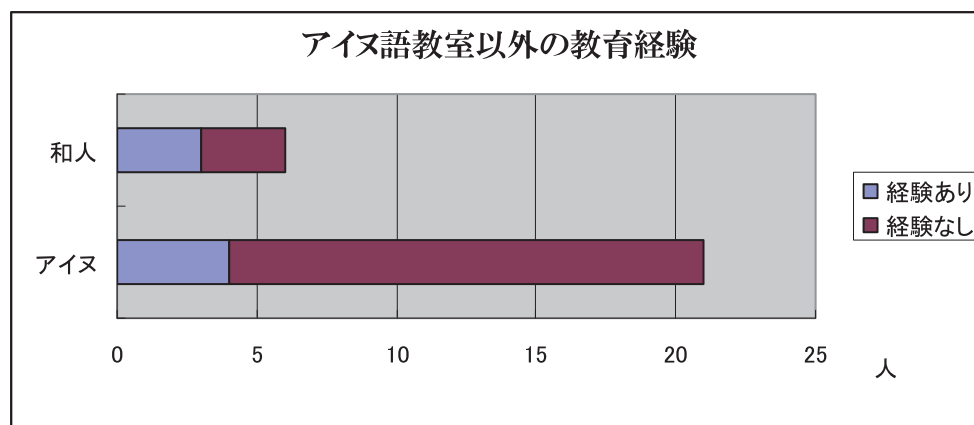


#### 2, あなたは何年アイヌ語を勉強していますか？

5年から39年の間で3, 4歳からという回答もあり(実際何年間という記載なし)  
言葉を覚えたとき身近にアイヌ語があったなど。

#### 3, アイヌ語教室以外で教育経験はありますか？

教室以外の教育経験	アイヌ	和人
経験有	4	3
経験なし	17	3



#### 経験有の場合、そればどこですか？

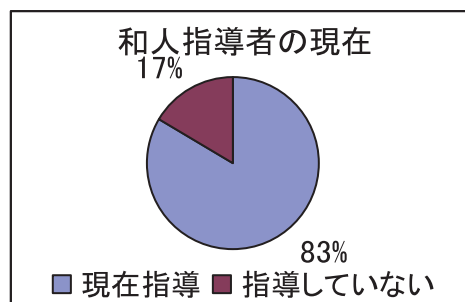
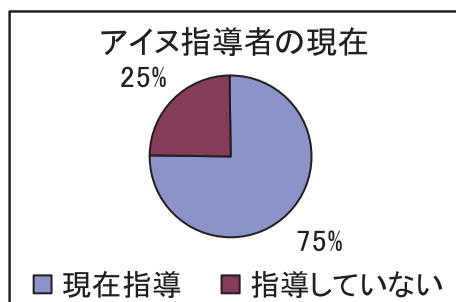
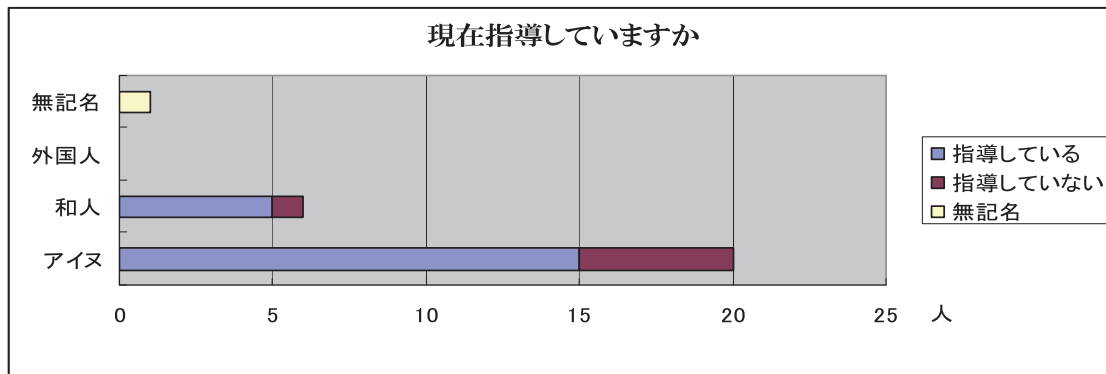
小学校と中学校、自宅、地域で、ユウカラ講座、アイヌ語上級講座、大学など、アイヌ協会指導者研修の講師など

#### 4, アイヌ語はいつ頃から教えはじめましたか？

回答がさまざまで集計不能。

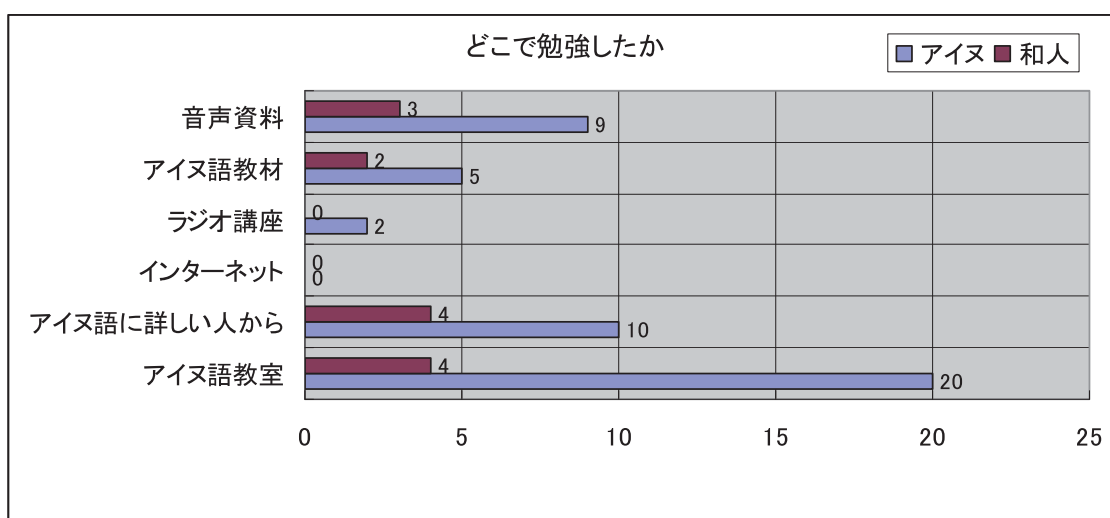
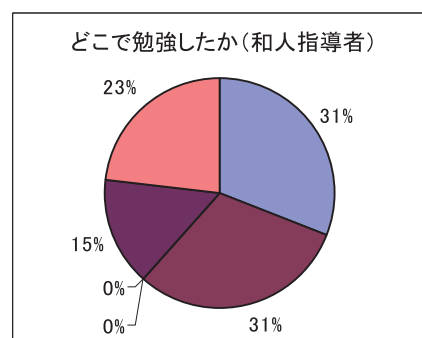
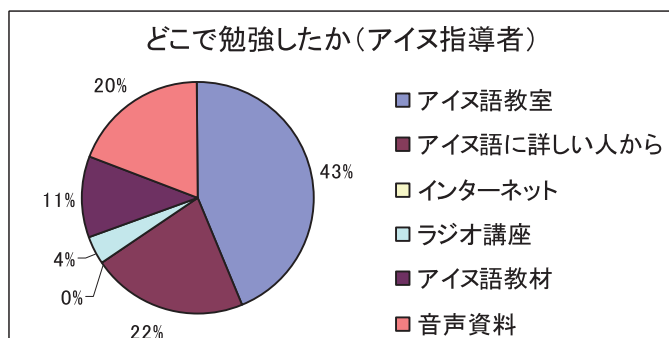
## 5, 現在でも教えていますか？

現在状況	現在指導している	指導していない	無記名
アイヌ	15	5	
和人	5	1	
外国人	0	0	
無記入			1



## 6, アイヌ語をどこで勉強しましたか？

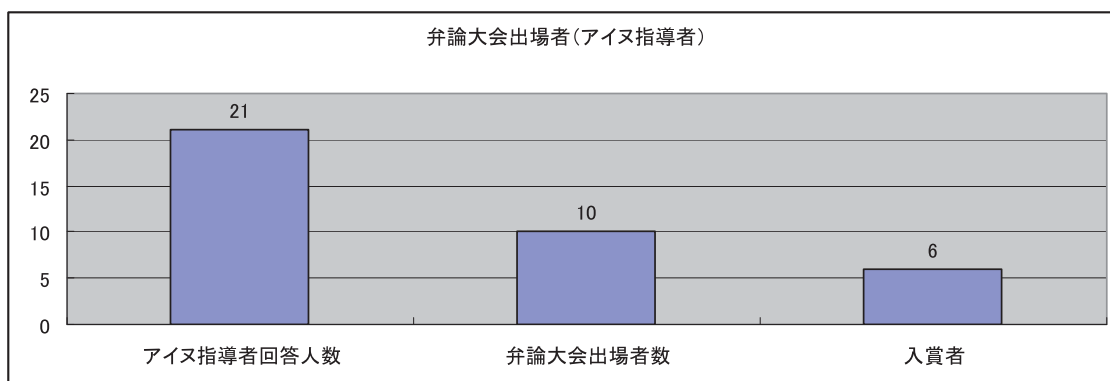
	アイヌ	和人	外国人	合計・人
アイヌ語教室	20	4	0	24
アイヌ語に詳しい人から	10	4	0	14
インターネット	0	0	0	0
ラジオ講座	2	0	0	2
アイヌ語教材	5	2	0	7
音声資料	9	3	0	12



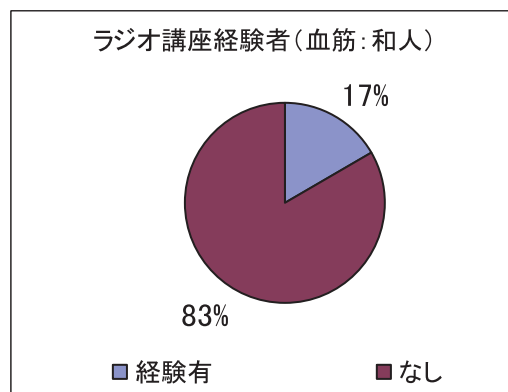
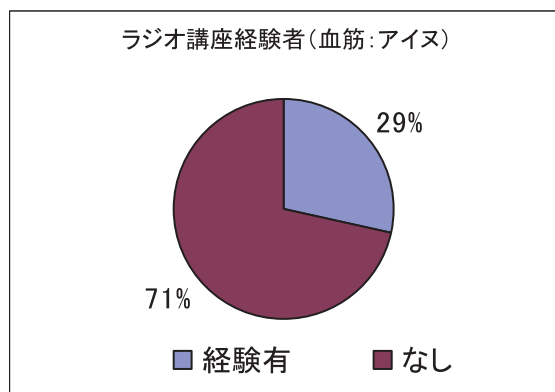
## 7. あなたのアイヌ語経験について

弁 論 大 会	アイヌ	和人
出場したことがある	10	0
出場経験者で 入賞経験のある人	6	

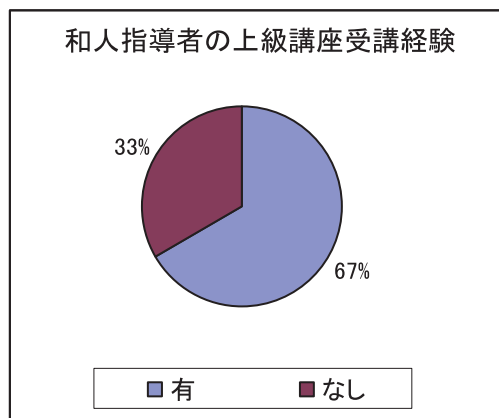
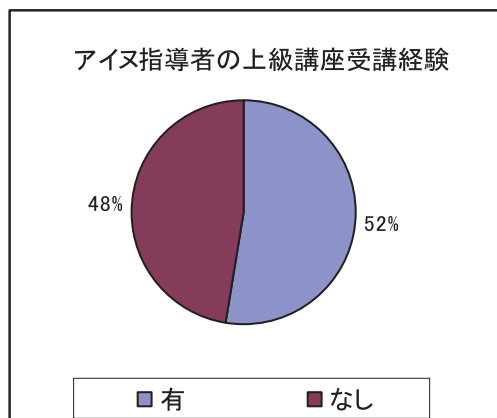
入賞回数は1回 3人 2回 1人 3回 2人



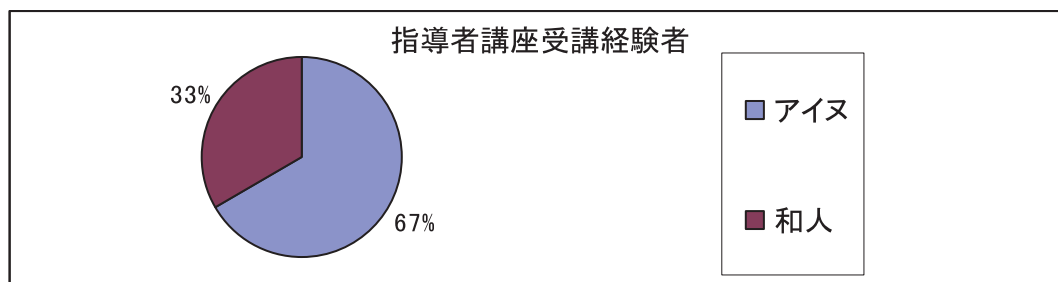
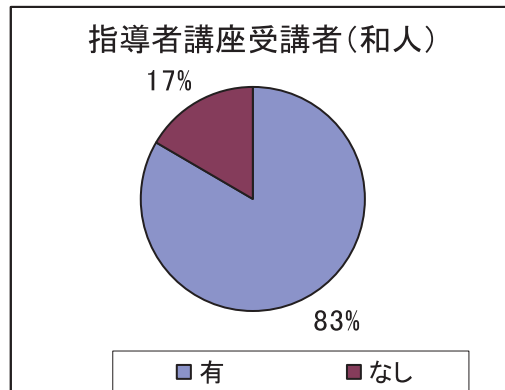
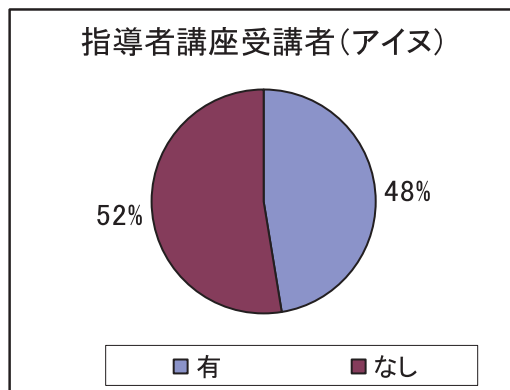
ラジオ講座の担当	アイヌ	和人	合計・人
経験有	6	1	7
経験なし	15	5	20
合計・人	21	6	27



上級講座	アイヌ	和人	合計・人
受講	11	4	15
いいえ	10	2	12
合計・人			27



指導者講座	アイヌ	和人	合計・人
受講	10	5	15
いいえ	11	1	12
合計・人			27



大学で学んだ、専攻したひと…該当なし

#### その他の経験として

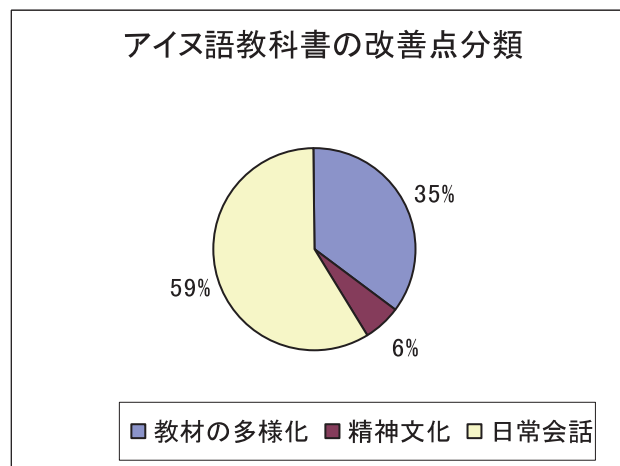
- アイヌの指導者に習った
- 話者として/2 人
- 小さい頃アイヌ語を話す人が身近にいた
- 親子アイヌ語講座で教育用テキストを作成していた
- 語り部
- 千歳の白沢ナベフチ、澤井トメノ両者から学んだ
- イオル伝承者育成事業、白老Yukar教室(大須賀るえ子先生)
- 蓮池悦子ユーカラ講座、2年間
- 大学の市民講座にアイヌ語があった。
- 「アイヌタイムズ」にアイヌ語の記事寄稿

## アイヌ語教育全般について

### 1, アイヌの教科書を使いやすくする工夫

- 例のとおり(「アイヌ語エクスプレス」はより沢山の生活場面にちなんだシナリオを含むべき)(2件)
- 生まれるときどうして生まれたの、彼らの役割はなど、アイヌ精神から入ると良い
- 日常会話の例を沢山掲載してほしい
- 難しいことですが、今の生活をアイヌ語で表現できる様新しい言葉を盛り込んだ教科書にすること。
- もう少し子ども向けの短い文が沢山あったらよいと思う。
- レベルに応じた内容の教科書の種類が必要。小学生から上級者まで。古い資料や分類別(ユカラ、サコロペ、トゥイタクなど)の教科書
- 会話の例文が多いもの良いと思う。
- 多くの教材を多くの方が出版すればいいと思う。
- 会話場面を増やす
- 日常使える例文が沢山あるといい
- アイヌ語で語られすぐに日本語で語り、「英語のスピードラニング」の様なアイヌ語の物語があればいいと思う。
- 会話の例文が沢山あると良い
- 日常会話を沢山増やして各地域の教科書を作成したほうが良い。(アコロイタク)
- アイヌ語をカタカナ・ローマ字のいずれでも表記しても発音を示す表音記号でも書くべき。会話文の例文が沢山あったほうがよい。
- ハンドブックのようにかばんにいれて持ち歩けるような本もあればよいと思う。教室で机に向かうばかりよりハンドブック片手に外へ出てみるとか。
- その地に伝わる言葉の意味を書いた本など。人物別のほんの解説。

回答項目	分類数
教材の多様化	6
精神文化	1
日常会話	10
回答者数	17





## 2、それぞれの地域の方言を教えることは大切なことだと思いますか？

重要	22 名
重要でない	2 名

無記名 2 名

### 重要でないその理由

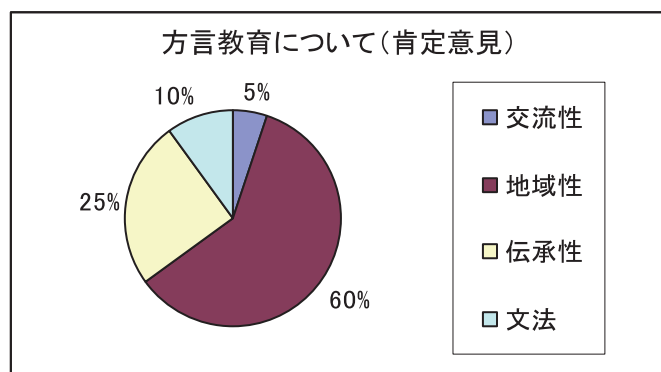
地域性にこだわるとどうしても他とのかかわりが薄くなると思う。他と話をする上でも方言にこだわらないほうが良いと思う。

### 重要な理由

- 地域では『こんなふうにする』と誤った覚え方になると思う。
- 地元のアイヌ語がすべてと思っている人が中にはいるので
- 最低限の名詞の違いは知る必要がある
- 同じ意味ながら違う単語と言ひ回しを覚えられる
- アイヌ語の方言を教えることはアイヌ語を教えることに等しい
- 地域の方言は生きているアイヌ語である。他地域方言では言葉が通じない場合がある。その地域独特の言ひ回しは血の通ったアイヌ語と思う。
- 地域の文化の違いを知るためにも大切。
- 自分の肉親、祖先の使った言葉を知ろうとすれば方言が入ってくるのは当然。
- 域の特徴を尊重すべき。地域によって多少の言ひ方が違うものがある。
- 今方言を教えなければいずれ忘れ去られてしまいます。
- 自分の直接の先祖やその地域が使っていた言葉だから。
- その地方で伝えられた言葉だから、それぞれ各地の文化がしっかり伝えられていく
- 地域の特徴を大切にしたい
- 地方によって言ひ方が違うから
- 地域の特徴を大切にすべき。
- 昔から使われている言葉が地名にも使われていると思われます。
- 地域差を尊重すべき。
- 浦河のように沢山の方言は残ってなくても地方の言語は大切なことだと思う。
- 地方により考えや言ひ方が違うので。

項目	分類数
交流性	1
地域性	12
伝承性	5
文法	2
回答者数	20

※交流性については否定意見のみである。



### 3, 教科書に地域の方言を含めるべきか

はい	20
いいえ	4

無記名 3名

いいえと答えた理由

<多様性>

- まず基準となるアイヌ語を決めそれで教科書を作る。その次に方言を学ぶ。
- 共通語を学びその後で地域の言葉を興味を持ったものが学ぶ。

<地域性>

- 個人的には沙流方言の教材づくりに力を入れたい。他の地域の人それぞれ頑張ればいいと思う。
- そのほうが多くの人が使え、その考えがわかるので。

はいと答えた理由

<多様性>

- 教科書には標準語と言われるような言葉のすみずみまで研究されている地方を基準にして、わかりやすい方言辞典とセットで学ぶのもいいのでは。
- 一つの方言を覚えた後に、他の地方の言い方など覚えるのがいいのでは。
- 地元のアイヌ語がすべてと思っている人が中にはいるので
- 方言の教科書とスタンダードアイヌ語の教科書を分けて作ればよい<伝承性>
- 地域差を知ることにより自分の学習しているアイヌ語の理解がより深まる。

<文法>

- 最低限の名詞の違いは知る必要がある
- 同じ意味ながら違う単語と言ひ回しを覚えられる
- アイヌ語に方言差があるということを知るため

<伝承性>

- 地域では『こんなふうに言う』と誤った覚え方になると思う。
- アイヌ語とわからず方言とか言っている一般人もいるから。

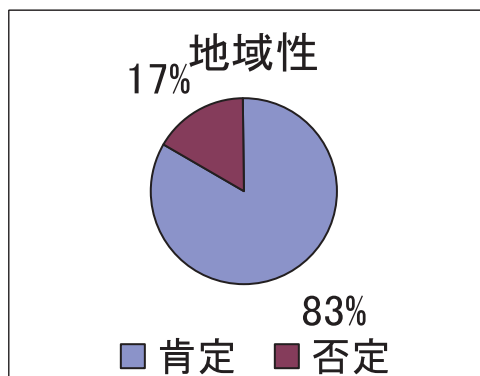
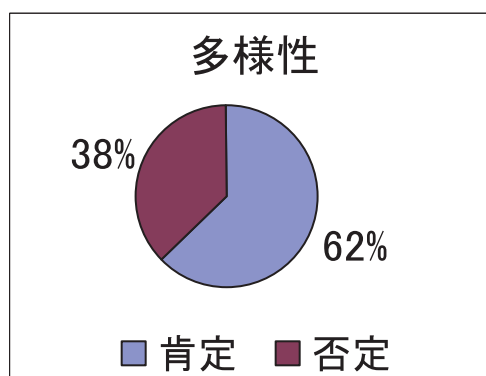
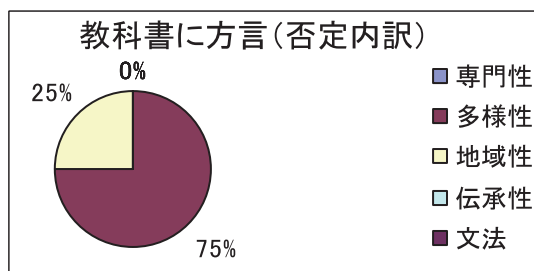
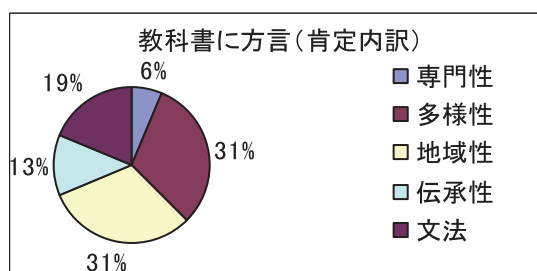
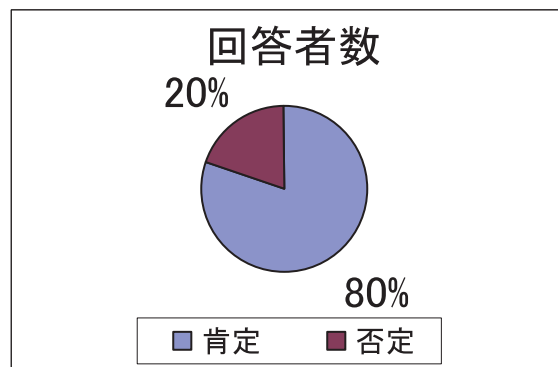
<専門性>

- 他の地域の言い方(方言)は教科書にならない

<地域性>

- 地域によって言葉が違う。
- 地方ごとの文化を大切にすべきだから。
- 自分の地域の言い方でないものは教科書にならない
- 地方によって言い方が違うから
- 地域毎に互いがあるので配慮すべき。

項目	分類数	肯定	否定
専門性	1	1	0
多様性	8	5	3
地域性	6	5	1
伝承性	2	2	0
文法	3	3	0
回答者数	20	16	4



#### 4. 名詞教育についての意見

##### <名詞は基本>

- 基本はしっかり教えるべき
- 基本だからしっかり覚える必要がある
- 基本なのでいいと思う

##### <文法に関して>

- 名詞だけでは アイヌ語を学んだことにはならない。難しいが動詞も大切。短文を沢山覚えることが基本だと思う。
- 初歩としては大切なことですが、文法を理解しなければアイヌ語は話せません。（早く理解できない）
- 小学生レベルでは名詞でも良いと思うが、動詞も必要だと思うし、文法も一緒に勉強すべき。
- まず名詞からだとは思いますが、動詞もあわせて必要だと思う。

- はじめはやさしい言葉から
- それを含めて単語を覚えるのは良い。

#### <日常会話が大切・否定意見>

- 会話を流暢に出来るようにならなければ駄目だと思う。
- 会話は必要。
- 私はそういう授業はしていない。会話を中心にしたら良い。
- 実際の日常会話を学ぶことが大事。会話の中で必要な単語はついてくる。そこで学ぶことも良いと思う。
- もっと会話を大切にしたい。

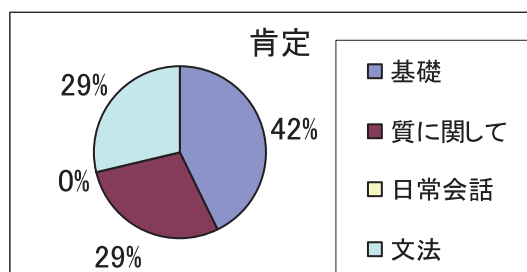
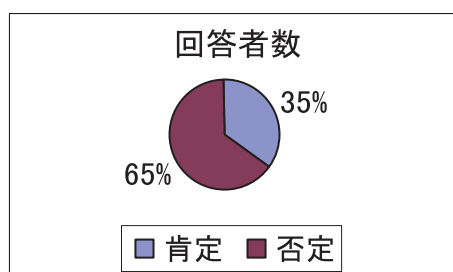
#### <質に関して>

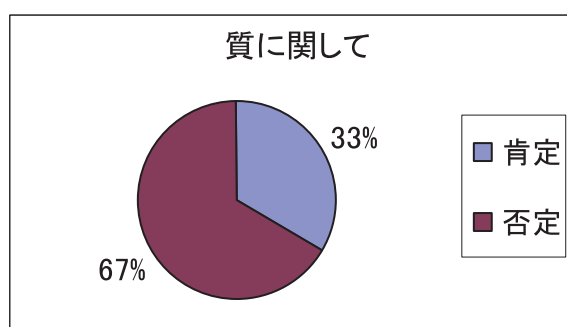
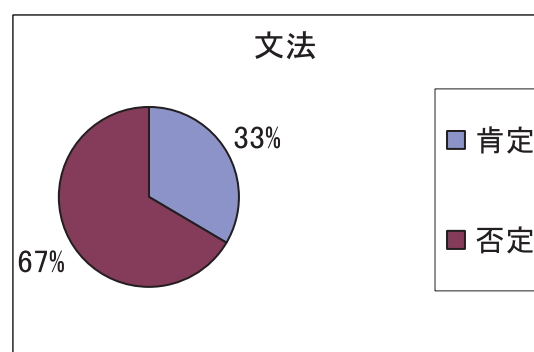
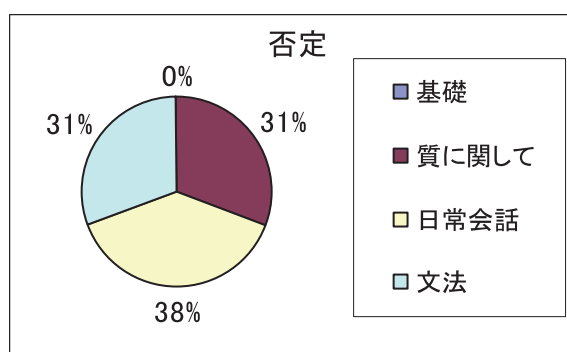
- 受講していないので良くわからない。「者の名前についてのみ」といってもその背景やら意味合いなどが教えられていれば他の授業との違いはないのでは
- 新たな言葉を覚えることは非常に難しいこと。私の経験からボリビアへ行った時はじめて覚えたのありがたいのクラス。言葉は使う方法・場所によって違うのでなんともいえない。

#### <質に関して・否定意見>

- それではアイヌ語学習とはいえない。無意味である。名詞だけ覚えて何になるのか？短くとも文を学習すべきである。
- 『アイヌ用語学習講座』はアイヌ語の教育の質の低下を招いている。
- 名詞を覚えることも重要だが、それでは興味もわかず深みもないように思う。
- アイヌ語学習の質が下がっている。

項目	分類数	肯定	否定
名詞は基本	3	3	0
質に関して	6	2	4
日常会話	5	0	5
文法など	6	2	4
回答者数	20	7	13





5, アイヌ語の音声資料の保管や利用についてお聞きします。  
アイヌ語の音声資料はどのようなところで保管されているでしょうか？  
あなたが知っているところすべてに丸をつけてください。

場所	人数	場所	人数
大学研究室	14	個人宅	14
博物館	16	その他	10
研究機関	15	無記名	4

A) あなたはアイヌ語を勉強するときに、CDやテープなどの音声資料を活用していますか？

音声資料の活用	人数
はい	18
いいえ	6
無記名	3

⇒いいえの場合「E」へ

B) あなたはどのようにして音声資料を手に入れましたか？（複数回答可）

入手場所	件数
自分で古老などから録音した	6
家族もしくは親戚から譲ってもらった、もしくはコピーしてもらった	9
研究者から提供してもらった	8
友人・知人の持っていたものを譲ってもらった、もしくはコピーしてもらった	4

アイヌ語教室もしくはアイヌ協会支部所蔵のものを提供してもらった	9
図書館や博物館、研究機関にあるものを提供してもらった	6
本屋などで市販されているものを購入した	6
アイヌ文化振興財団などの出版助成金で作られたものをもらった	4
インターネットで手に入れた	2

#### C) 音声資料を利用するに当たってよいと感じたこと

##### <生の音声を聞くことの利点>

- 実際にアイヌ語を話していた人の言葉を聞くことが基本
- 生の発音を聞くことができた。(3件)
- 聞き取れない音を資料で読むことで理解度が上がる。
- まず正確な発音と正確な単語を教われた
- 母語をアイヌ語とする人の話し方を知ることが出来る。
- 話者の声で学べるのが大切だと思うから。
- 耳を鍛え発音の上達に必要不可欠だと思う。
- アイヌ語の発音等を覚えるのに良かった。
- 昔の発音を聞いたことが良かった。放送局に保管されているものを提供してもらった。

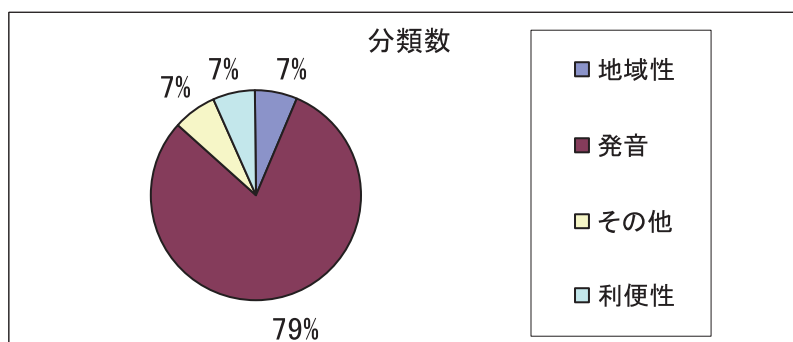
##### <各地方の方言など>

- 各地方で方言差や地域の文化の違いがわかる。
- ユーカラの音声資料は白老になかった所以他地域の音声を何度も聞き何度も自分で歌ってついに自分の節を得られて自分の講座で歌っているので良かった。
- 提供者の行為によるところが多い。

##### <ネット>

- ネットなどは手軽でよいと思った。

項目	分類数
地域性	1
発音	12
その他	1
利便性	1
回答者数	15



#### D) 音声資料を利用するに当たって不便と感じたこと

##### <記録媒体の劣化>

- 古い音声資料は音質が不良なので何を言ってるのか聞き取れないことが多い。新しい技術で音声良好な資料に再生できないか？

##### <資料に関して>

- 当たり前のことながら、質問することが出来ない。言葉の意味がついた資料が少ない。



- 聞き取れないときに、資料がない場合。
- 利用しやすいテキストがそれぞれ付いていれば良いと思う。
- 図書館、博物館、研究機関などの利用をもっとしたいが今はガードが固いのではない  
か？どんな資料がどこにあるのかオープンでない気がする。知らないと入手困難。買うこ  
とになる場合もある。提供者の行為によるため提供者の負担が大きいから欲しいといい  
にくい。
- 研究機関や博物館にあることは知らなかった。身近に持っている人がおらず手に入れる  
方法がわからない。
- 不便でも仕方がない。音声の本人が亡くなっているなど。

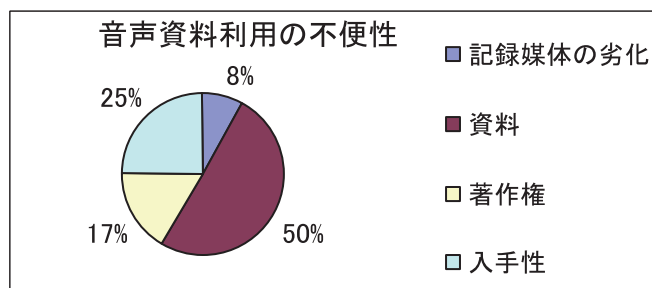
#### <著作権問題>

- 外部で発表する場合には著作権者の保護が足かせになる場合もある。
- 著作権などの問題があるので使用しづらい

#### <その他>

- コピーを頼まないと入手できない。
- 最近のCDは良く出来ているので不便とは思わない。
- まだまだとてつもなく難しい単語が沢山あったこと

項目	分類数
記録媒体の劣化	1
資料	6
著作権	2
入手性	3
回答者数	12



E) 「いいえ」と答えた方、その理由を教えてください（複数回答可）

理由	件数
知らない	1
方法が不明	2
断られた	1
ややこしい	1
提供してもらえない	0
見つからない	0
必要なし	1
その他	0

F) その他、音声資料の保管や利用に関するご意見や感想があれば書いてください。

#### <記録媒体の変更>

- ビデオテープや録音テープを早くデジタル化したほうがいい
- 昔のテープがあるのでそれをCDに直したい。

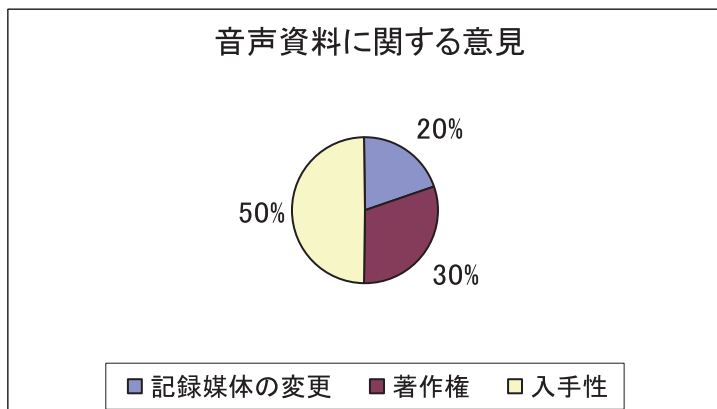
#### <著作権問題>

- アイヌ言語の汎用性を著作権を含めて確立しよう
- 著作権の問題があるのでなんともいえない。気軽に聞けるようになったらいいです。
- 口承で受け継がれてきたものに対する著作権の適用がなされようとしているのが疑問。本来誰のものともいえないはず。アイヌ同士のやり取りが余計やりにくなる。これも行為による提供と関係するのでは。

#### <入手情報が欲しい>

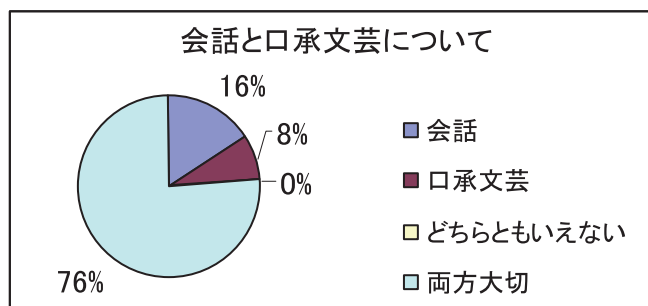
- どこにどんな資料があるのか、という情報が欲しい。
- 誰もが学習したいときに欲しいものにアクセスできる環境がさらに整備されればいいと思う。
- 今の時代難しいことだけれど、なるべく一般公開して欲しい。
- 個人宅で保管されているものでも、いろいろな場所で眠っているものは人の目に触れさせ私たちにその声を伝えるべきだと思う
- 著作権がフリーとなった音源は公開出来るシステムを作って欲しい。

項目	分類数
記録媒体の変更	2
著作権	3
入手性	5
回答者数	10



6, アイヌ学習において会話と口承文芸どちらが大切だと思いますか？

会話と口承文芸	件数
会話	4
口承文芸	2
どちらともいえない	0
両方大切	19



## A) その理由を教えてください

### <会話が大切な人の理由>

- 口承文芸は古い言い方や虚辞が含まれており会話文と違う点がある。
- アイヌ語の全般を理解することが重要。口承文芸はアイヌ語の一部と考えます
- より多くの人が日常使用することを目的に感じるから。

### <口承文芸が大切な人の理由>

- 口承文芸を覚えると会話も出来るようになる。

### <両方という人の理由>

#### <アイデンティティー>

- 会話することはとても大切だと思う。学生の頃アイヌが自分の母語を話すことによって自信を持てるようになる。アイヌがアイヌについて何か一つでも自信のあることが持てるようになればアイヌであることが嫌にならなくなる。

#### <会話>

- 日常会話が出来なければ意味はない。アイヌ語を覚えるためには口承文芸も必要。
- 話すことも聞くことも大事だと思う。(2名)

#### <文法>

- 簡単な文法をやりながら話者によるユカラ等音声を聞き取る学習が必要

#### <伝承>

- 口承文芸にしかない言い回しなども大切。

#### <発音>

- アイヌ語の発音が大切。(発音)

#### <理解力の向上>

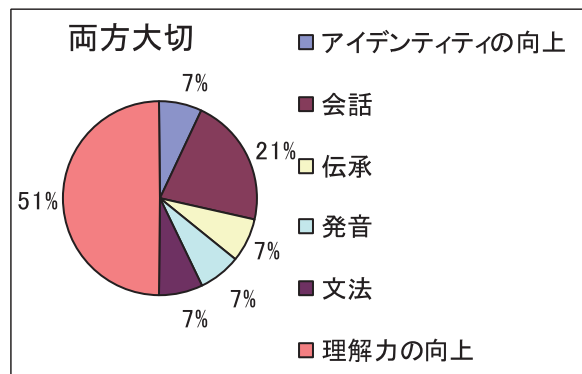
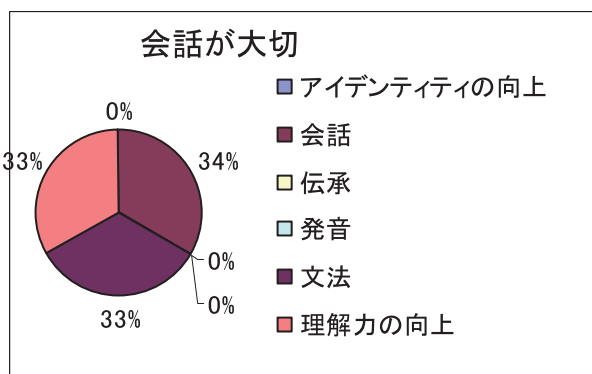
- 両方アイヌ文化だから
- 会話によって口承文芸も理解できると思います。
- 口承文芸からアイヌの精神文化がわかる。知識が深まるにつれて豊かな心を持つことが出来る。
- 両方関係しているので切り離せない。
- 両方を学ぶことによって相乗効果により理解が進む。

#### <その他>

- どっちと言っている場合ではない。
- ukoitakkus

ニーズ分類				
項目	会話	口承伝承	両方	分類総数
アイデンティティの向上	0	0	1	1
会話	1	1	3	5
伝承	0	0	1	1
発音	0	0	1	1

文法	1	0	1	2
理解力の向上	1	0	7	8
回答者数	3	1	14	18



B) ④（両方大切）と答えた人のみ答えてください。

教室における会話と口承文芸の学習において理想的な割合などについて具体的なお意見があれば教えてください。

#### <会話:口承文芸>の割合

##### <5:5>

- 割合は 5:5 どちらからも基本を学べる(5 名)
- 半分は日常会話、半分は口承文芸の学習が常に出来るのが理想。
- そのどちらもアイヌ文化だから
- 半々。相互に補完するものだから。
- どちらから学んでも基本を学べる
- 日常会話に重点を置き、口承文芸は最後に毎回練習する。

##### <決められない>

- 会話も口承もアイヌ文化の一部で割合は決められない。使い方・場所によって変わってくるのでなんともいえない。
- 対象となる学習者のアイヌ語のレベルで決める。
- 特に無いが各地域で考えるべきこと。
- 会話も覚えて話す楽しさがあります。物語等も覚えると人前で語ってみたいと思う。状況に合わせて。

##### <会話6:口承文芸 4>

- 会話 60%。会話が出来るようになると口承も特殊な言い回しのほかはわかるようになる。

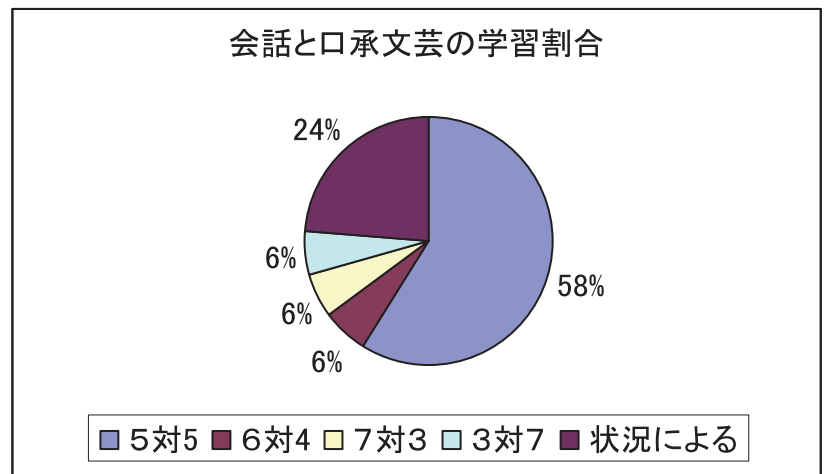
##### <7:3>

- 会話⑦:口承 3 くらいが良いのでは

##### <3:7>

● 会話 3 対口承文芸 7

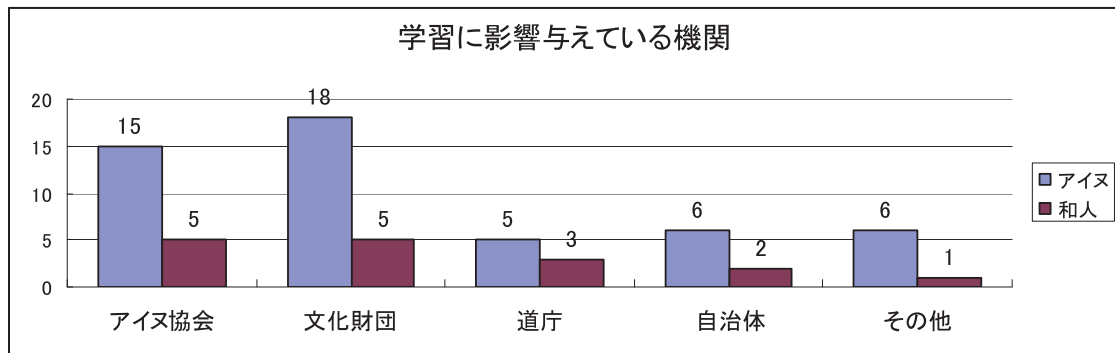
会話と口承文芸の割合	回答数
5対5	10
6対4	1
7対3	1
3対7	1
状況による	4
総数	17



### アイヌ語の動向

1、下記の中でアイヌ語学習または教育に影響与えている機関はありますか

下記項目	アイヌ	和人	合計
アイヌ協会	15	5	20
文化財団	18	5	23
道庁	5	3	8
自治体	6	2	8
その他(＊)	6	1	7



#### \* その他の機関の詳細

- 今後札幌市に期待
- イタカンロー。アイヌ語教室
- 北海道庁、教委から刊行されているユーカラシリーズの入手が出来れば幸い。
- 部数が少ないので入手困難は困る。
- 個人的に大学で勉強されている方
- アイヌ文化保存会

2、上記設問 1 で、該当ありと答えた方、それらはどのように貢献していますか  
<財政等>の意見

- アイヌ協会は組織づくりに。推進機構・道庁・自治体は予算獲得に
- 金銭的援助と人と人のつながりなどに対して
- 事業面
- 自治体からの補助金・財政援助
- 文房具や材料提供してくれている。

<行事・事業などの開催>という意見

- カムイノミ等、各保存会での行事等
- 財団は毎年イタカンローを開催している
- アイヌ語上級講座等、アイヌ語を学ぶ事業を実施している

- アイヌ文化振興財団が行っている「アイヌ語関連講座」は普及により影響を与えている。
- 交流事業など通して貢献している。

#### ＜学ぶ機会・交流の機会＞という意見

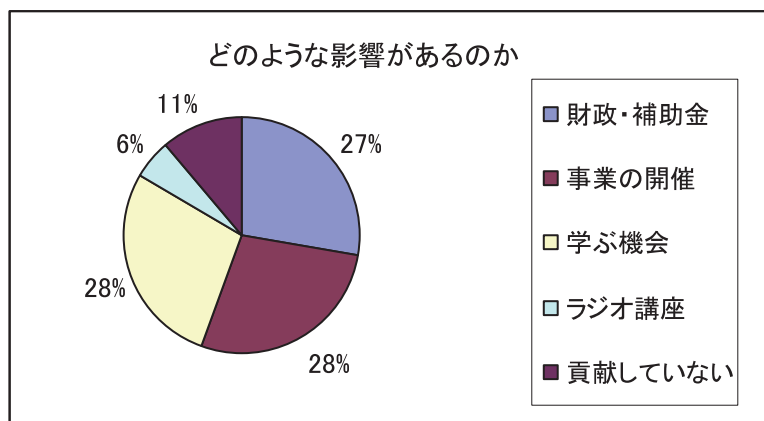
- 参加するものにとって集中的に学習する機会にもなるし、鑑賞する側も勉強になる。
- アイヌ語教室
- 少なからずアイヌ語教室をやっている
- 学ぶ機会を与えてくれている。なかなか自主的に学ぶ事できないけど、ある程度強制され引っ張られないと習慣になっていかない。だから１年で終わりじゃなく何年も続けることが大切だと思う。
- 若い人の取り込み。受講者に合わせた指導。

#### ＜ラジオ講座＞の意見

- ラジオ講座、副読本他

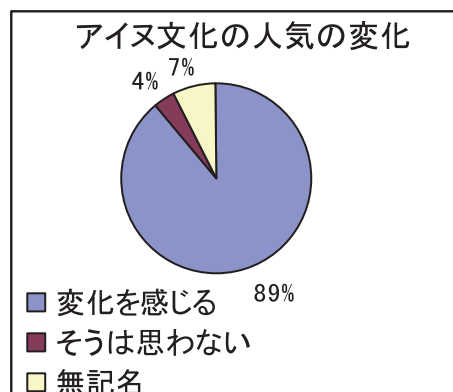
#### ＜貢献していない・規制＞の意見

- 貢献していない。
- 道庁、道教委は良い影響ばかりではない。規制を感じる。資料の提供、弁論大会の開催など



### 3, アイヌ文化の人気はここ数年変化していると感じますか

	アイヌ	和人	合計
変化を感じる	18	6	24
そうは思わない	1	0	1
無記名	2	0	2
合計	21	6	27





その理由

＜若い人達に影響与えている＞という意見

- 若い人が文化を学びいろいろな活動をするようになった。
- 若い層の人たちが活気付いてきて、若者の動きが目立ってきた。年配の人たちは少しマシな感じになってきた動きが見える。
- 若い人で関心を持つ人が少しずつ多くなっているように思う。
- 専門的に進む若い人が出てきた。(長く続けてほしい)
- 若者が自主的に行動している

＜注目度＞

- 工芸品などが新聞等メディアで取り上げられることが多くなった
- 各種の展示会や大会等あり新聞等にも取り上げられるのが多くなったように思う。
- インターネットで以前より情報がふえた
- アイヌ文様の入ったグッズが増えた。「多様性」に対する興味、関心の増加か？
- いろいろな所でアイヌ文化が注目されている。
- 新聞などでアイヌ文化が取り上げられている。
- 商業的に文様や言葉が使われている。
- アイヌ語がいろいろな場面で使われ、食料品、デパート他カタカナ表記され、カッコいい文様もすてき。
- アイヌ文化については知られるようになってきているかなと思いますが言語については？
- 学ぶ人が増えている。
- アイヌ文化が注目されている。
- アイヌ語を話したり知っているのは格好がよい。

アイヌ文化については興味を持っている人が増えた

＜催し物の開催の増加＞についての意見

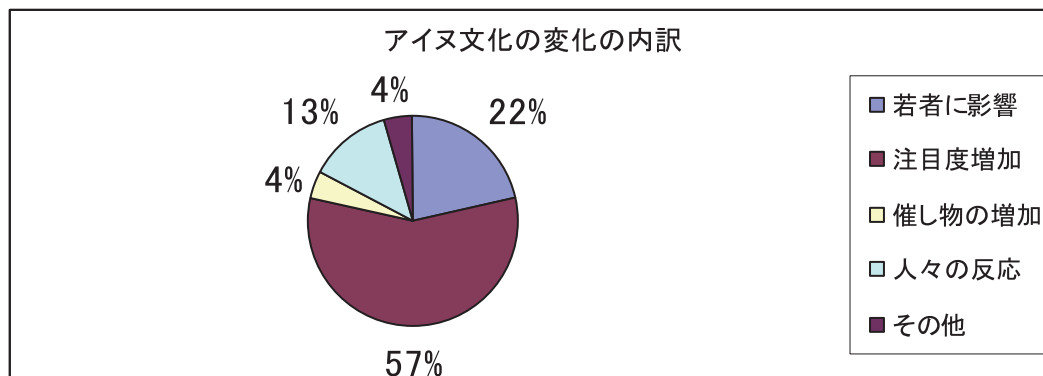
- 各地でいろんな催し物が開かれている。鑑賞する人はアイヌばかりではなく一般の人も大いに感激してみているので、普及啓発に役立っていると思う。

＜人々の反応＞についての意見

- up downの差がはっきりしてきた。専門的な考え方をしている人が出てきた。
- 関われる人の差がはっきりしたと思う
- 自然を大切に⇒これはアイヌが昔からやっていたこと

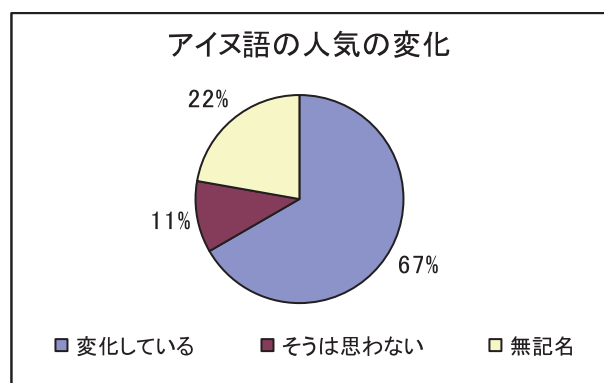
＜その他＞

- 当地では感じている



#### 4, アイヌ語の人気はここ数年変化していると感じますか

	アイヌ	和人	合計
変化している	13	5	18
そうは思わない	3	0	3
無記名			6
合計	16	5	27



その理由

##### <若者が関心を示してきている>という意見

- 数は少ないが若い人が伸びていると思う
- 若い人たちが出てきている。
- 若い人が嫌がってない感じ。
- 子ども達も親子のアイヌ語などで、覚えて素晴らしい。
- 若い人で関心を持つ人が少しずつ多くなっているように思う。

##### <アイヌ語人口・学習者の増加>という意見

- 学びたい人は伸びている。
- アイヌ語を勉強しようと思う人が増えている。
- アイヌ語学習者が確実に増えている。インターネット上でアイヌ語を話しているウェブサイトの存在など。
- 学習者が増えている。
- 「イタカンロー」に出演する人が増えている。

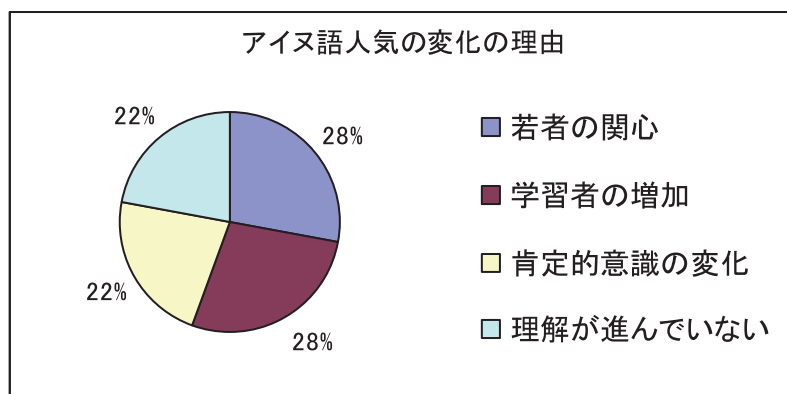
##### <肯定的意識の変化>についての意見

- アイヌ文化が広く知れ渡り始めた。「アイヌ」に対する差別、偏見の変化がある。
- 日本は単一民族ではないこと。国会にアイヌ審議会が設置されたこと。アイヌがメディアに登場するように(放映)なった

- 戸惑いながらも手探り状態でも頑張っている
- 日本語にはない言葉なので、ものめずらしく使っている。

#### <理解が進んでいない>という意見

- 今年のイタカンローに参加し見学者が参加者と家族・専門家以外ほぼ一般客がいらないような気がした。
- 楽器演奏や歌、踊り、影絵、劇は美しく楽しく見せ場がありよいと思うがアイヌ語自体が一般の興味を持たせているとは思わない。
- アイヌ語教室が各地に出来て広まって行ったが近年それもなくなくなり学ぶ場所もなく、一部地域をのぞいて下火になってしまったのではないか。
- なかなかアイヌ語に対する理解が進まない



5, 上記 3,4 で (A) と答えた方、この変化はアイヌ語学習に影響を与えていると思いますか？

	アイヌ	和人	合計
影響与えている	13	5	18
そうは思わない	3	0	3
無記名	6	0	6
合計	22	5	27

その理由

#### <学習人口の増加>という意見

- 若者が少しずつ専門的に学ぶようになったと思う
- 学ぶ人の増加。
- アイヌ語復興ブーム来るかも。
- 注目されれば勉強する人が増えると思う。
- アイヌ文化⇒アイヌ語にも興味を持ってくる。
- 興味を持つ人が増えているように思う。
- 弁論大会に沢山出場している。
- 年々勉強している人が増えているように思う。

- アイヌ語を知ろうとする人が多くなった。
- 単語一つとってもこの言葉は何？と教えたり興味がわく人が増えるかも。

#### ＜ネットの影響＞という意見

- ソフトバンクのCMに登場している父親役(カイ君)は北海道犬(アイヌ犬)なのでその事実を知った人々がアイヌ語に興味を持つのではないか。「白老のアイヌ民族博物館」には白い北海道犬を見に来る人が多数いる。
- まったく関係のない人が「ネットで見た」と教室に入ってくる

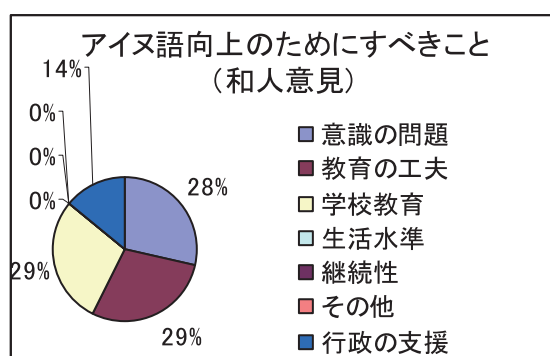
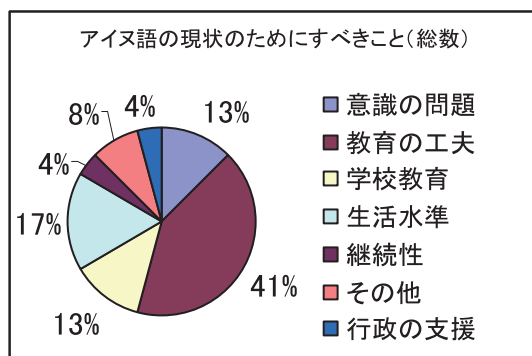
#### ＜その他の変化＞について

- 少しずつだが世代交代に入ったのかな
- 嫌だという意識が減れば当然無影響はある。
- 他地域の人も連帯しやすくなって着ていると思う。
- 将来アイヌ語で生活し結婚できると思っている。仕事としてやりたいと思っている。夢を破らないようにすべき。その時の反動が怖い。
- 言葉を守ると言う意識が強くなってきたのでは。
- 熊谷たみ子さんがアイヌ語の歌を発表したこと。

#### ＜減少している＞という意見

- アイヌを理解してもアイヌ語を学習するにはいたってない。アイヌ語を学ぶ生徒数は減っている
- アイヌの人々に広くアイヌ語を学びたいというきもちがなくなる。(学ぶ場所がなくなり下火になっていることで)

### 6, アイヌ語の現状を向上させるために、またアイヌ語教室や講座に参加しやすくするために何をすべきですか？



#### ＜和人意見＞記述

##### ＜意識＞

- 言語の重要性に対する意識の向上。一人ひとりの更なるcommitment(関与)に対する決意。

- アイヌ語を学習してその次に何があるのかはっきりとした目標を作る。

#### ＜教育の工夫＞

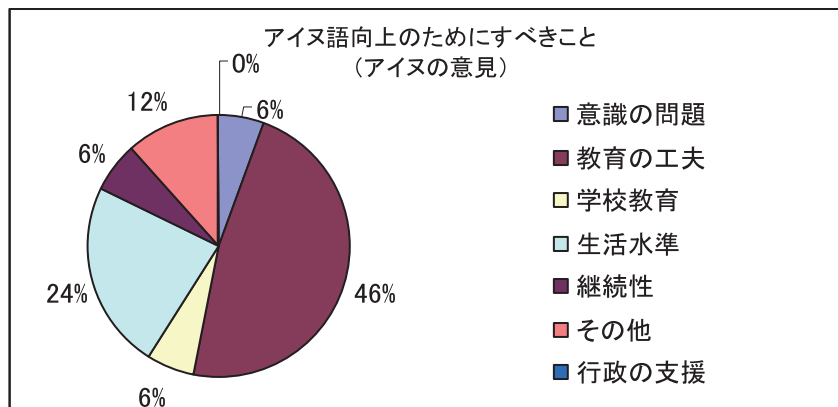
- 定期的に一年間を通じて開催する。
- 使う機会、学ぶ機会を増やす。例えばテレビ、学校の授業など

#### ＜学校教育＞

- 必須科目の一つとして学校教育の中にもっと時間を使う。
- 義務教育に取り入れるべき。

#### ＜経費・行政の援助＞

- 会場、テキスト等の経費等行政の援助



#### ＜アイヌの意見＞記述

##### ＜生活水準の問題＞という意見

- 当教室に学ぶアイヌはいない。生活が大変でアイヌ語を学ぶ暇がない。そこでアイヌの生徒に受講手当てを支給(長い目で見れば人員が増加すると思います)
- 文化、言語の継承は大事。しかしそれに伴う生活力の向上があれば行動しやすいのでは。
- アイヌ語を勉強して覚えても収入があるわけではなく、それで生活できない。根本的にここが問題と思う。勉強する人にも、教える人にも生活できるくらいの補助があればよい。収入を得るため他の仕事に就くから勉強する暇が出来ない。アイヌ語の試験に合格したものには報奨金を与えるなど勉強する意欲を持たせる必要がある。参加するだけでお金がもらえるというのは絶対駄目。
- アイヌ語を知りたくても生活があり働かなくてはならないのでその時間の生活保障があると参加しやすい。

##### ＜教育の工夫＞

- 授業(講座数)の増加。場所作り。研究機関(大学など)の協力(開放)⇒大学の授業も受けられるようにするなど。高度の知識。
- いろいろと講座を開いて欲しい
- 受講できる曜日と回数を増やす。
- 遠い地区から来る人のためにその地区で出前講座をすると良い。

- いつでもどこにいても気軽に足を運べる会場(施設)でアイヌ語講座を開くこと。
- 特に子供に対しては言葉の意味だけでなく、過程を小道具等を作って楽しめながら学ぶのもいい。
- 簡単に学ぶもっともっとやさしいアイヌ語を教えるべき。
- 楽しみながら勉強できること。

#### <学校教育>

- 多くの方はアイヌ語を学びたい(重要)とは思っておらずそのため講座を設けても参加は非常に少ない。小学校など小さいうちから学ばせる必要がある。

#### <意識>の意見

- まずアイヌの若者を優先させ生活権を。民族的アイデンティティーの構築を。

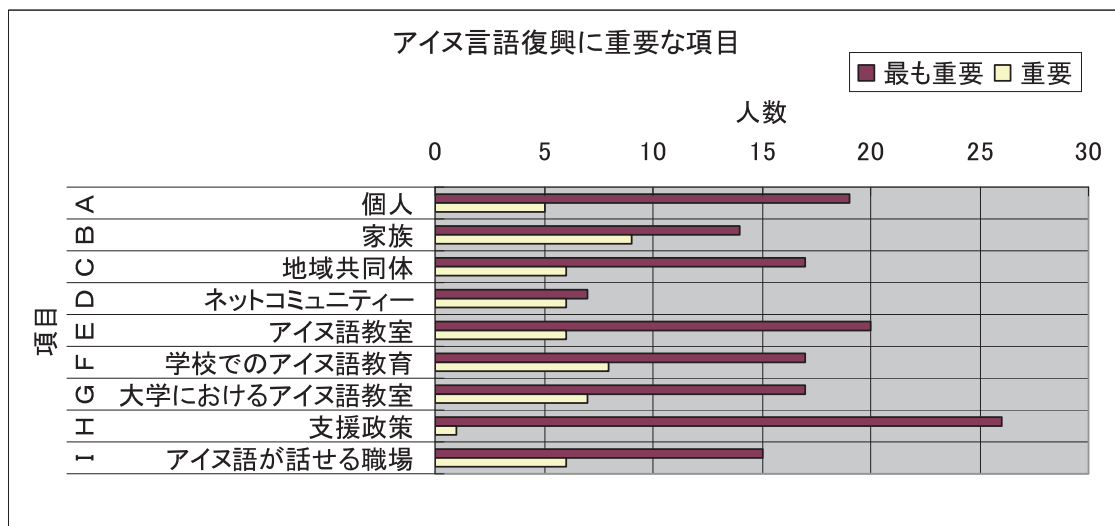
#### <継続性>

- アイヌ語教室ではお金が出るからいくという人がまだいる。その場限りで終わりではなく、長く続けることが大切で、その成果を大きな場で発表することも重要である。例えばイタカンローとか。こうなると逆に参加する人がいなくなる？

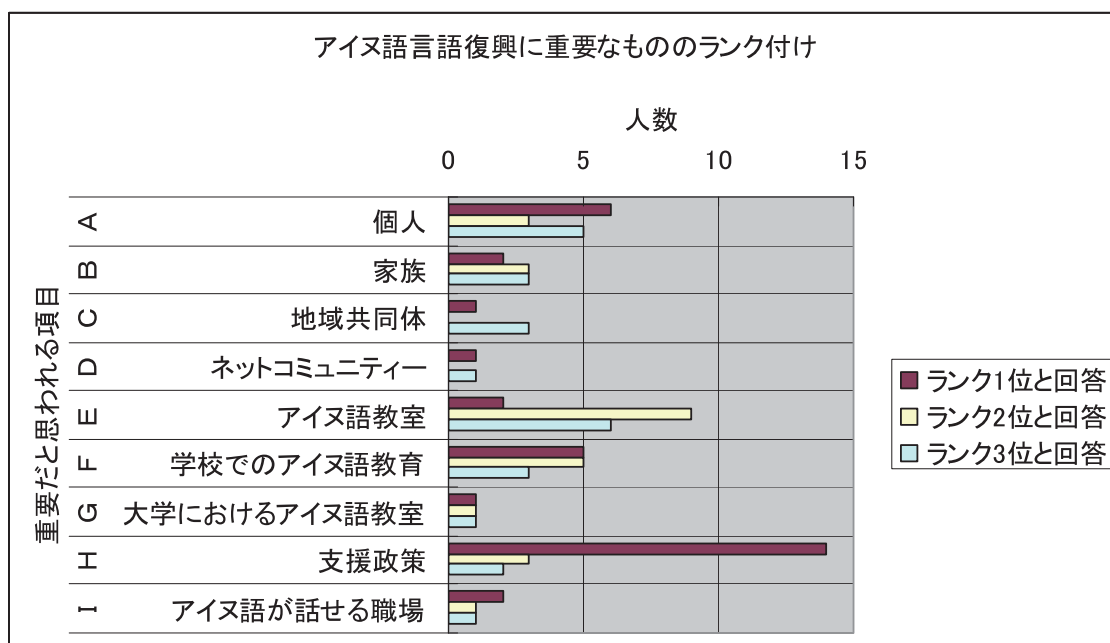
#### <そのほか>の意見

- 難しい。若い人に任す。
- まず声かけが必要だと思います

### 7, アイヌの言語復興について下記それぞれの項目はどのくらい重要になってきますか？



8、下記項目の中でアイヌ語の言語復興に重要なものから順番に最も重要なものを 1  
としてランク付けしてください

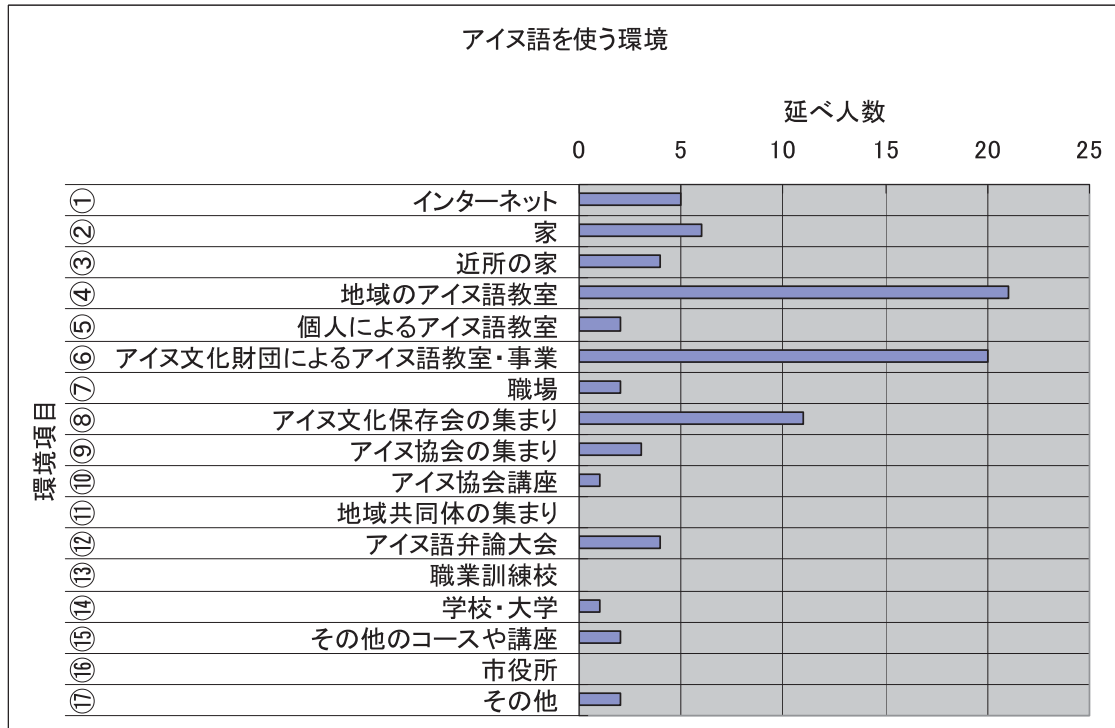




## あなた自身についての質問

### 1. アイヌ語を使う環境について

A) どのような環境でアイヌ語をはなしますか(複数回答可)



#### ⑥のアイヌ語講座名

- アイヌ語教室・二風谷アイヌ語教室
- 親と子のアイヌ語教室、
- 上級講座
- 語り部育成事業
- 白老楽しくやさしいアイヌ語教室
- 伝承講座
- ユーカラ講座

#### ⑪の地域共同体の集まりの詳細⇒なし

#### ⑮のその他のコースや講座名

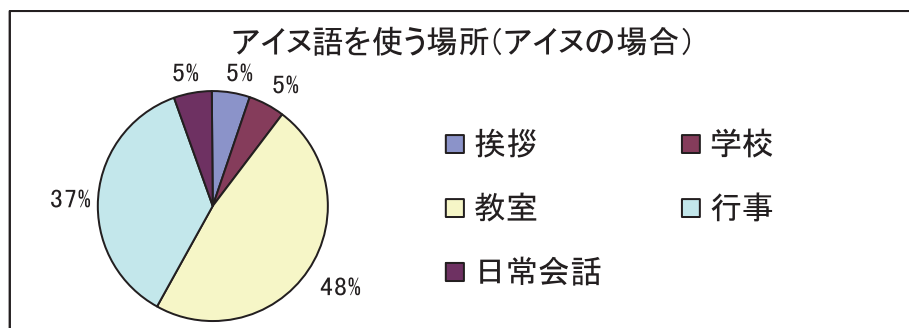
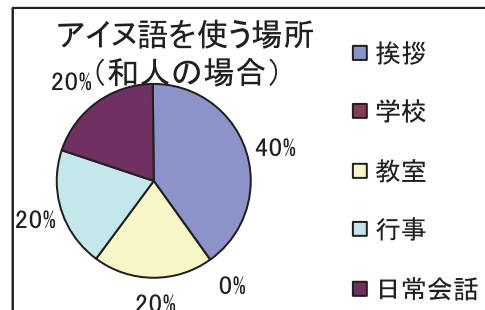
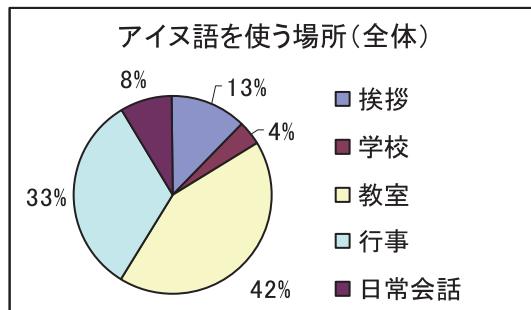
- ユーカラを楽しむツアー会(札幌市)
- ウポポ教室、刺繍教室

B) それぞれの場所でどんな種類のアイヌ語をどれくらいの頻度で使っているか

<和人の場合> 記述の詳細

- 挨拶～アイヌ関係行事(年数回)。仲間での会話で短い会話や単語～日常生活の中  
でなるべく使うようにしている。
- 家での会話はいつも。アイヌ語教室があった時代は1週間に一回。

- ほぼ単語のみ
- アイヌ語教室（会話、単語・・・年数回） 語り部（物語・・・年数回）
- カムイノミ、講座、古式舞踊など



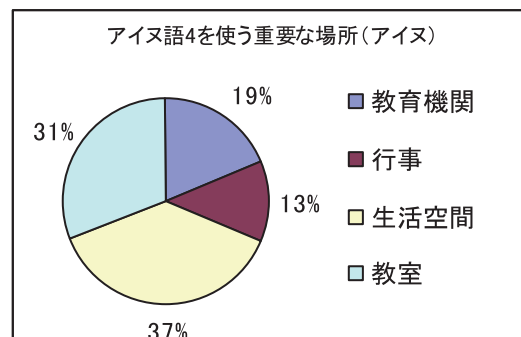
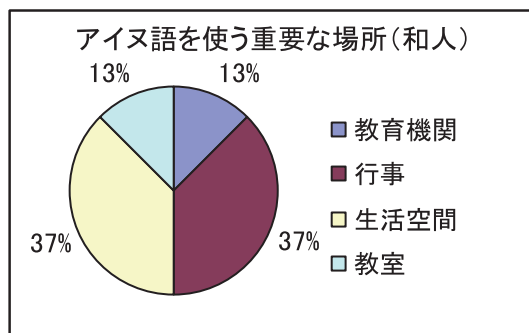
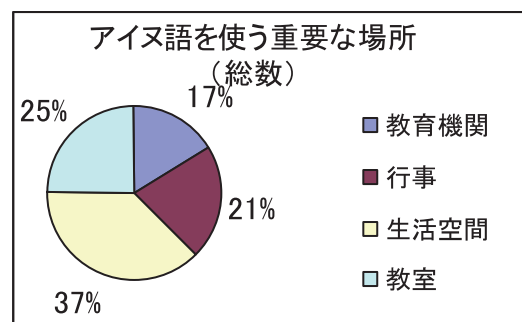
#### <アイヌの場合>記述の詳細

- 保存会行事(年5, 6回) 同年代の人(挨拶、昔話の折)
- アイヌ語協会支部の事業で行われるカムイノミ(年数回)
- 保存会行事(年5, 6回) 同年代の人(挨拶、昔話の折)
- アイヌ語教室で月2回
- 保存会等でカムイノミの中で年6～8回
- 文化祭やアイヌミュージックコンサートなどでユーカラ、ツイタク、4ウポポ、ハウキ、タブカラなどで使う
- インターネットの名前に使用。家族間で。アイヌ語教室。Yukar教室で。書き起こし。弁論大会。
- 年数回
- あいさつ、天気
- 札幌市エルプラザにおいてユーカラ講座を実施(年2回)約15分ユーカラを朗読して物語の意味、内容を解説する。毎週白老アイヌ語教室では、50分ユーカラ講座を実施朗読し、意味無内容を解説。後の50分は生徒が解説し、辞典を引きながら意味調べ。
- 単語レベルの短い単語が入る日本語を話す。歌や踊りの練習など、教室の指導の中で。
- 月に2～3回

- 祝詞:アイヌ文化保存会で年1,2回
- 簡単な言葉とか地名、ウポポなど。学校の出前講座、小中学校、高校、チセなど
- 月2回アイヌ語教室で。博物館へ来た修学旅行生への講話(年間10~15回)
- アイヌ語教室、保存会の集まり、あいさつ程度の会話
- 親と子のアイヌ語学習講座では、1回90分を24コマを担当。簡単な会話か早口ことばなど。
- 今はやっていないが地域でアイヌ語教室等。保存会ではウポポ、リムセ。語り部育成では1回3時間15回程度。
- 主に日常会話、単語、者の名前(木や草)

C)上記リストの中であなたにとってアイヌ語を使うことが重要だと思う場所はどこですか？教育機関

	総数	和人	アイヌ
教育機関	4	1	3
行事	5	3	2
生活空間	9	3	6
教室	6	1	5



#### <和人の場合>

##### <生活空間>

- 日常生活(2件)
- どこでも

##### <教室>

- 保存会の会合、アイヌ語教室を含む講座、友人・知人との会話

##### <行事>

- アイヌ協会の集まり
- アイヌの祭事
- 家族の会話、歌や踊りの練習のとき

＜教育機関＞

- 小学校、中学校

＜アイヌの場合＞

＜教育機関＞

- すべての教育の場
- すべての集まり、教育の場
- 市内・小中学校

＜行事＞

- カムイノミ
- 各カムイノミ

＜生活空間＞

- ベストは家族で話せること
- 家、個人・財団のアイヌ語教室、職場、保存会の集まりなど
- 家で自然に子供の耳に入り覚えてもらうこと。イタカンロー参加。書き起こし。
- 老人との向会話のとき
- 家
- 保存会やアイヌ同士の集まり等で話せたら楽しいかなと思います。自分たちにはアイヌの言葉がある。それを少しずつでも話せて相手に言ったときに理解して返してもらったらすごく嬉しいと思います。

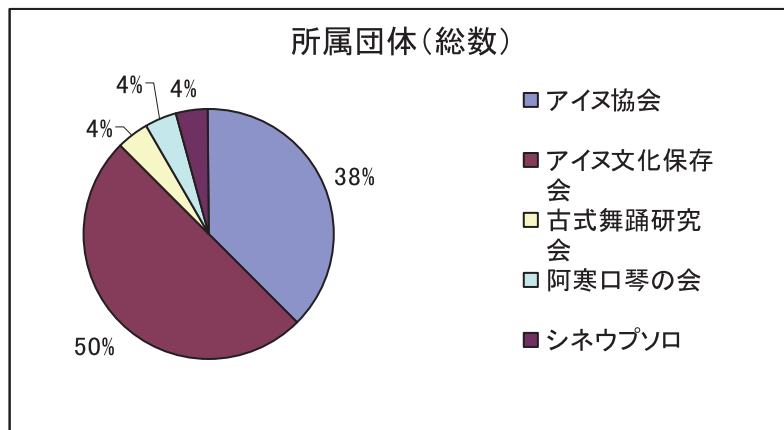
＜教室＞

- アイヌ語教室、語り部、
- 地域共同体が日常的にアイヌ語を使うことが望ましい。
- 地域・個人・財団のアイヌ語教室、アイヌ保存会・アイヌ協会の集まり、アイヌ協会などの講座
- 学校、アイヌ語教室、家族同士、イヤルパ会場
- アイヌ文化保存会の集まり、アイヌ語教室

## 2. アイヌ語と帰属性

A)あなたは現在アイヌの組織やアイヌの関連団体に所属していますか？所属しているなら、その動機を教えてください。(カッコ内は動機)

(記述 11 名)



- 千歳アイヌ文化伝承保存会(アイヌ文化について正しく知るため。(言葉、彫刻を学んでいる))
- アイヌ協会。(自分はアイヌなんだから入るのが当然だと思っていた。)
- アイヌ協会千歳支部(支部の役職の立場上)

千歳アイヌ文化伝承保存会(いまさらやめられない(保存活動の継承))

- 白老民族芸能保存会。白老Yukar教室。テケカラペ。
- アイヌ協会白老支部(子供の教育資金のため)
- アイヌ協会(アイヌ語教室のため、子供のため。)
- アイヌ文化保存会、アイヌ語教室(アイヌ文化伝承のため、次世代へつなぐ役割を持つから)
- アイヌ文化保存会(歌や踊りの保存のため)
- アイヌ協会様似支部、様似民族文化保存会
- アイヌ語教室、保存会など(地域の人とさらにアイヌ語が使われる状況を作りたいから)
- アイヌ文化保存会(仲間とともにアイヌ文化を実践する)
- アイヌ協会、アイヌ文化保存会(動機は先祖の悲しみを忘れない様に、アイヌはいなかったことにされないように、アイヌ文化に取り組んで生きたい。)
- アイヌ文化保存会(歌や踊りの実践、保存の為)
- 北海道アイヌ協会・平取アイヌ文化保存会(アイヌとしてのアイデンティティーの保持のため)
- アイヌ文化保存会、アイヌ協会、阿寒口琴の会(阿寒地方の歌や話を楽しく学ぶ為)シネウプソロの会(浦河地方出身なので母を中心として娘、孫などで継承・活動する。)
- アイヌ協会、古式舞踊研究会

B) あなたのアイヌ・アイデンティティー(アイヌとしての意識\*)は時間を通じて変化しましたか? 変化した場合、どのように変化しましたか教えてください。

\*アイヌの血筋でない方、あなたのアイヌ民族への貢献に対する気持ちという観点から教えてください。

#### <和人>

- 松前藩、明治政府などのアイヌ民族抑圧の歴史を知り自分も北海道の開拓者の子どもとして加害者の一人であったと自覚。真にアイヌの人たちと和解するためにせめて文化の継承のお手伝いをさせてほしいと思うにいたった。
- 言葉は文化を理解しなくては話すことが出来ない。アイヌ語を通して少しでも自分たちの文化、アイヌの精神を理解して欲しかった。自分の子供にもそれを伝えたかった。
- 先人の文化は認めて大切に継いでいくべきと思う。
- 私は自分が好きで関わっているだけです
- 言語が民族復興には必ず必要である。

#### <アイヌ>

##### <肯定的>

- 壮年になり自分がアイヌだということを強く意識するようになった
- 一日本人としての地位は確定しており、共にアイヌとしても自信に変化はない。
- すべて言語を通じて歴史や人権を学んだので精神や哲学を大事にしていきたい
- アイヌとしての意識は東京に出てから職場で北海道出身、アイヌですと次第に自然に答えるようになった。アイヌ文化を知るために他国の先住民族に興味を持ちボリビアに2年間暮らしその後子供にアイヌ文化を伝えられる親になりたいと思い自分はアイヌといえるようになった。
- アイヌ語を勉強するにつれて喜びを得られるようになった。アイヌ語の美しさ、成り立ち、意味を理解できて、素晴らしいと思った。知らないし損である。もっと勉強して多くの人に伝えたい。またユーカラの世界も広めていきたい。
- 家族を通して環境の中で培われてきた。
- 否定していたけれど肯定的に変わった。
- もっと早くからアイヌ語を勉強していればと思う
- 私は子ども～45歳位まで、アイヌは嫌だと思っていました。でも、母が保存会を一生懸命やっていて私も入っていろいろな事を勉強しました。そのうちしっかり勉強して伝えていかなければと強く思い今に至る。
- アイヌ語を使うことによって、強固になった。
- 活動することによってアイデンティティーは強くなる。
- アイヌ語の意味ややさしさを感じたので

##### <否定的な意見>

- 最近変化した。回りのアイヌの人たちの中にお金をもらってアイヌ語を学ぶという人が多くなって着ていることに残念に思っている。

C)アイヌ語を勉強し始めてから、あなたのアイヌ・アイデンティティーは変化しましたか？変化した場合、どのように変化したか教えてください。

#### <和人の場合>

- アイヌの人たちの自然観・宇宙観を知り生産性の向上ばかりを目指して来た和人の生き方の浅はかさを知った。これからの地球にとってアイヌの「思想」こそが大切であると思うようになった。

他無回答5件

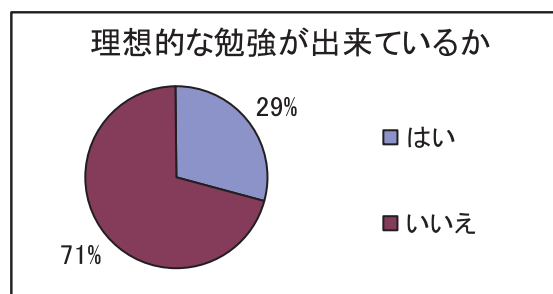
#### ＜アイヌの場合＞

- カムイノミができるようになりたいと思うようになった
- すべて言語を通じて歴史や人権を学んだので精神や哲学を大事にしていきたい
- アイヌ語が自分のアイデンティティーになるまではまだまだ力が足りないです。
- 良くぞアイヌに生まれたものだと思うくらい変化した。アイヌ文化と精神を感知してから自分の人生が豊かになった。自分の先祖の力を感じるようになった。生ある限りアイヌ語とユーカラの勉強に打ち込みたい。
- 勉強する前は言葉を通してアイデンティティーの変化はあるとは思わなかった。でもすこしづつ言葉の大切さを通してより強く自分自身変化も見えてきた。
- 漠然としていたが、具体的変化が見えてきた。
- 今はアイヌとして誇りを持てるようになった
- アイヌ語の素晴らしさとともに、アイヌの精神文化の素晴らしさ。子どもの頃嫌だったアイヌに生まれてよかったと思います。
- アイヌ民族として誇りを持てるようになった。
- 今はやる気をなくしている。
- アイヌ語を知ることにより誇りが持てるようになる。
- アイヌ語の大切さを孫達に残したいと思いました。

無回答8件

### 3、現在あなたの理想とするやり方でアイヌ語を勉強できていますか？

	人 数
はい	7
いいえ	13



#### 「はい」と答えた理由

##### ＜和人の場合＞

- 皆さん楽しみながら教室に通い、アイヌ語を勉強して成果を発表している。

##### ＜アイヌの場合＞

- 従来は本読みが主体であったが、近頃は読む、書く、話す、小テストを採用し理解度を高



めている。

- 今語り部が主なので母から教わる知識はすべて継承者に伝えられたと思う。
- すべて無知から始めたのであまり欲を出さず、2人のフチのイタクだけをするのができる
- 楽しく学ぶ、やりたい時に覚える。無理は長続きしないと思うから。
- 皆で楽しく勉強している。
- 教え子がイタカンローで成果を出していること。

「いいえ」と答えた理由

#### <和人の場合>

- 指導者としての不十分さからもっと指導法を改善していきたい。
- 本を買うには高い金額。資料をネットではなかなか入手できない。お金がかかる。
- もっと勉強時間を作り出せるのが理想的。
- 理想は親から子へと伝えられること

#### <アイヌの場合>

- 協力者の語学が乏しい
- アイヌ語教室は場当たりのなので、何年受講しても話せるようにはならない。
- 協力者が少ない
- どちらともいえない。まずは自分のやる気ですが子育てを主にし、次に仕事となり次にアイヌ文化なので、まだ努力が足りない。
- 講義に必要な資料のコピー代も自弁である。白老コミュニティーセンターの一室を借りて勉強会を開いていますが部屋代が必要だが自弁。最低限の補助があっても良いのではないかと思う。
- より総合的で頻度の高いやり方を望んでいる。
- アイヌ語教室がないから
- 私は頭も良くないしもっと簡単にアイヌ語がマスター出来たらいいなと、アイヌ語の先生方をお願いします。アイヌ語のスピードラーニングを制作して欲しいです。
- 教授法がわからない
- もっと生きた言葉で過去の痛みをわかっている人から当時の事を聞きながら教わりたい。

## その他の質問

### 1, アイヌ語は今後どうなっていくと思いますか？

#### <和人の意見>

- 黙っていれば「過去の言葉」として研究者たちだけが学ぶ対象となるだろう。そうさせないためにも、諸外国のように少数民族の言葉・文化を義務教育飲む中に取り入れていく必要があると思う。
- 実用的アイヌ語は広まらない。口承文芸的なものが残っていくのでは。今のアイヌ語は現実の社会の中(日常)では生きることとは出来ない。
- 話す人が多くなる。
- 継承されていくと思う。少しずつではあるが興味を持って勉強している人はいると思う。
- 話者(会話にしろ、物語にしろ)が増えて欲しい
- 一部の人達(興味のある人たち)だけで守られていく。

#### <アイヌの意見>

- 夏の終わりから秋に向かっていく感じがしてさびしいです。
- ネガティブな話者はいなくなり、一部の興味ある人たちだけが(イタカンローに出場するため)の特殊な言語となっていくだろう
- ちょっとさびしい気がする
- いずれ消滅します。理由はアイヌ語は経済力を持たないため。外国語を習得したものは大手会社に就職できるがアイヌ語を学んでも就職には無関係であるため。
- まだまだ継承者の数が増えてほしい
- 国や道の政策に期待する。子供たちがこれで生活、結婚できること。2、自助努力で大いに学び外に出てアイヌ語の素晴らしさを広めると永遠にピリカレイタク。
- 言葉は必要がないと使わないわけで使う場所がない限り(アイヌ語人口が)アイヌ語専門家以外増加するとは思えない。今年のイタカンロー参加で、一般見学者がほとんどいない様子で、残念だった。
- 先細りになっていくと思う。
- 自分たちの意識改革でいくらでも言語復活の道は開けると思う。
- より総合的(歴史、文化の教育などを含む)で、頻度の高い方法の確立により、やりたい人が増えてくるはず。
- 消えてしまうことは無いにしても話せる古老の方たちがいなくなった時、アイヌ語を話せるのは研究者や学者の方達だけになるように思います。
- 日に日に消えていくのではないかと思います。
- 復興していくと思う。
- どうなるかわかりませんが、私の希望は日常会話が普通にアイヌ語で交わされるといいなと。
- 復興する。
- あまり期待できない。

- 必ず復興する
- 大学で学んだ人達や研究者の人達の中で残っていくのだと思います。生活力の少ないアイヌの人達はおしみながら消えるのかとさびしく思います。

2、上記の回答以外に、アイヌ語の保存・伝承に関わる取り組みなどの実態、成果や課題に関するご意見やコメントがあればお書きください。

#### ＜和人＞のコメント

- 千歳には末広小学校のような優れた取り組みがある。ほとんどボランティアで支えられている。少なくとも道教委はこれを学び北海道全体の教育の場に広げていくべきだと思う。
- 国、アイヌ協会などアイヌ語をどうしたいのかアイヌ民族が自分の言葉で自分を表現するにはどうしたらよいのか、目標を出して欲しい。
- 先輩方がユカラを勉強して、発表するのを見て、自分も語れるようになりたいと教室に通い始めた方が、少しずつではあるが成果を出している。
- 多くの人にアイヌ語の重要性について意識の向上に役に立ちたい。

#### ＜アイヌ＞のコメント

- アイヌ語が生きた言葉となるためには、流通させなければならない。アイヌ語が話されている場が必要だ。例えば中華街のような、アイヌ語が話されている場を作る必要がある。
- 釧路支部の不祥事で道の査察が支部に入り、17支部あったアイヌ語教室は5支部に減少。道教委の施策はアイヌの振興ではなくアイヌの取り締まりに尽力している。道教委の力によるアイヌ語施策を改善しない限りアイヌ語の復活はないと強く思います。
- アイヌ語はアイヌ民族の言語なのだから、勝手にアイヌ側だけでやればよいという輩がいるが、それはだめだ。過去に侵略に対する猛勉強が大事。
- 育成事業終了後はアイヌ語をどういう形でもいいから続けたい。アイヌ語上級者教室はお金が続んでくるのでほぼその場限りになってしまう。発表や仕事に役立てることが出来毛羽続けていけるかもしれない。必要がないと使わないので、アイヌ語を必要とする場所がほしい。
- 簡単な単語を北海道の公用語として使用する。
- 正當にまじめにアイヌ語を勉強して成果を出している教室には補助金が欲しい。会場費や用紙コピー代に費用がかかっているがすべて自腹で運営している。国は組織から外れたものには目もくれない。何ら成果も出さない組織に組み込まれたものに補助金を出している。全く馬鹿げている。
- 幼児のアイヌ語学びが親は離せなくても子どもは話せるという時代が来るかも。目指すは子どもの第一言語がアイヌ語となる時代ではないでしょうか？まずは自分の出来ることから。
- 総合的にやりたい人が学べる環境づくりをするべきと思う。
- もっと沢山メディアに取り上げてもらい、アイヌ語をもっともっと身近なものにして行ってもらいたい。

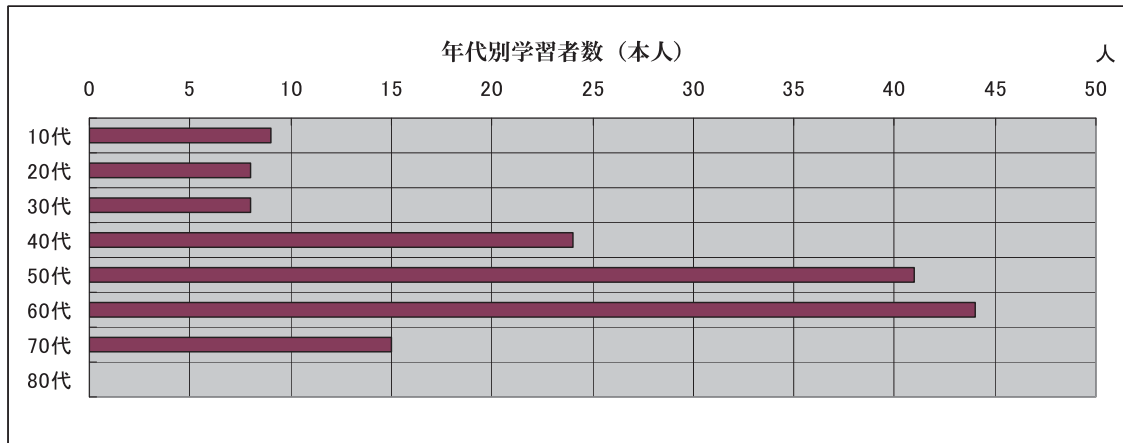
- 今アイヌ協会員や保存会員の生活向上が出来なければアイヌ語や文化の保存、伝承は衰退するかもしれないと④思っている。
- アイヌ語関連の書籍がアイヌ文化振興財団の助成金で作られると市販に流通しない点が欠点。
- 財団や教育局など、文書を書くのに慣れていない人達には冷たく落ち度を見つけては縛るばかりです。もっと適切な指導の下このような事でも使えますなど教えてくれるべきです。



## 付録3

### アイヌ語の学習に関するアンケート（学習者用）集計結果

質問 1. あなたの家族構成およびアイヌ語の学習経験についてお聞きします。  
本人の年代



#### 血筋

アイヌ	86
和人	56
アイヌ和 人	9

#### アイヌ語

話せる	27
話せない	112

#### 住所地

札幌市	20	旭川市	14	小樽市	1
白老町	18	日高町	1	伊豆の国市	1
新ひだか町	13	函館市	2	白糠町	3
様似町	14	平取町	10	我孫子市	1
浦河町	13	苫小牧市	13	帯広市	8
釧路市	10	日高郡	1	厚真町	1
鶴居村	2	愛別町	1	長沼町	1
池田町	1				

(3) あなたのアイヌ語の学習経験についてお聞きします。

現在学習している	42	⇒質問 2 へ
学習したことがあるが現在はしていない	93	⇒質問 2・3 へ
したことが無い	15	⇒質問 4 へ

## 質問 2.

(1)アイヌ語を学習してみようと思った理由を教えてください。(記述)

### ★アイヌの血筋の人の理由 (アイヌ和人を含める)

#### <文化継承・言語の継承など>

- 文化継承の為
- 祖父母コタン自分（帰属する言語を継承したい）
- 少しでも伝承に役に立てばと思いました
- 子供の頃、祖母が教えてくれたのを思い出す事がある。伝承として覚えておきたい

#### <アイヌ文化を理解したい等>

- アイヌ文化を知りたい
- 覚えたい。アイヌ文化の活動に必要
- アイヌ文化に興味があり、率先して勉強をした。
- アイヌ文化に興味を持っていたので

#### <アイヌ語が母語・身近にあった・血筋>

- 子育てが終り、時間にやや余ゆうができたのと、幼児の頃に身近かに聞いていた言葉の音(?)がなつかしくて。
- アイヌとしてアイヌ語を少しでも勉強したいと思ったから
- 祖先の言葉を覚えたい思いで
- 自分たちの母語は民族としての証しであるから必要
- 血筋というのもあったが興味があった。
- 両親のアイヌ語を聞いて自然に
- アイヌ人だから
- アイヌ語に興味があり、自分自身、アイヌの血を引いている為
- アイヌだから
- 先祖の言葉に興味があったので覚えたかった。
- 自分がアイヌなのにアイヌ語を話せないから
- 退職して、少し時間が出来て、先祖の作り上げた生活の知恵を知りたかった。
- 自分自身もアイヌの血が流れているし、アイヌ語の言葉に興味があったから。
- アイヌ語、母語を理解し話せるようになりたかった
- 自分がアイヌの血を引いてる
- 祖母がつかっていたため
- バーちゃんがアイヌ語つかっているから
- 自分の言語だから
- アイヌ民族として先祖の使っていた言葉を少しでも覚えたいと思い小さい頃祖父



母の話していた時に良く聞いていれば良かったと今となっては後悔しています

- なつかしくおもいだしました
- 親が少し話をしていた記憶があったので

#### <アイヌ語を理解したい等>

- アイヌ語おぼえるため
- 聞いてもわからないし、話せもしなかったから
- 単語は聞いたことがあるが、文章で聞くことはあまりなかったので学んでみたいと思った。
- かたことでも話したい分きたいと
- 1つでもいいからアイヌ語を覚えようと思ったから
- 意味を深く知りたと思った
- 興味があったから（4件）
- アイヌ語であいさつぐらいはしてみたかった。
- 知りたいアイヌ語があったから
- 挨拶ぐらいは覚えたいと思い通ったが続かずにいるので又通いたいと考えている。

アイヌ語教室に

#### <誘われた>

- 知人に誘われた（2件）
- 誘われて。興味もあったので。
- 主人に誘われて行った
- 人に進められ以前から気になっていたので
- さそわれたから。（3件）
- 母と一緒に通った。
- 人にすすめられた
- 友達と学んでみようかと？
- きっかけは祖母の物語りを知りたいと思った事です。若い頃知り合いの先生からすすめられました（アイヌ語など学ぶこと）

#### <何かのきっかけがあった>

- イオル再成事業承呼育成1期生として
- 支部の役員時、当時のアイヌ語の事務局であったから。
- 保存会で踊りをしているのと縫い物をしているから
- 孫が、アイヌ語を習いたいとの一言から
- 踊り、ししゅうをやっているうちに言葉も勉強したくなったから
- ばあちゃんと教室へ行った時です
- 小学生の頃、保存会で学んだ為
- アイヌ民族の諸行事に参加しているうちに学びたいと思った
- 支部で募集したので少しでも覚えようと思いました

- 教室があったから

#### <仕事などの為>

- 仕事でアイヌ語つかうから
- 仕事で役立つと思った

#### <その他>

- 特になし

### ★和人の場合の理由

#### <アイヌ文化・歴史への興味>

- アイヌ文化に関心があったから北海道の本当の歴史を学びたかったから。
- 北海道に住んでいるから。幼小の頃から文化にあこがれていたから。
- アイヌ文化について知りたいと思ったアイヌ文化に魅力を感じたから
- アイヌ（先住民）の自然信仰を学びたいと思った事が理由です
- 最も身近な異文化であり、北海道に住んでいてアイヌ語を含むアイヌ文化、歴史を知らないのはおかしいし、恥ずかしいと思ったので。
- 一人のアイヌ女性と知り合い、その彼女を通じてアイヌ文化についても、もっと知りたいと思ったからです。
- アイヌの物語にとっても興味を持ったから
- 和人がアイヌ語をアイヌ民族からうばったから
- 文化全般の理解を深めようと思いました
- アイヌの人たちとの交流の為
- アイヌ語の奥深さに感銘、ウパシクマを語ってみたいとの気持ちから
- アイヌの人の知識を少しでも学びたかったから
- 地名に興味があったから
- アイヌ文化に感心があったので。
- アイヌ民族の諸行事に参加しているうちに学びたいと思った
- アイヌ文化を知りたいと思ったから
- アイヌ文化の理解を深めたい

#### <アイヌ語に興味がある>

- みんなで一言でもアイヌ語で話したかった。
- 日本語と共通の歴史をもつ豊かな精神性をもつ言語だ。

教室がありアイヌ語で挨拶するのをおぼえたかったから

#### <誘われて>

- 語り部にさそわれて
- 友人に誘われて（3件）
- アイヌ語を習わないかと誘われたから

#### <仕事の関係から>

- 木村謙次蝦夷日記の現代語訳を行うため、特に地名と人名について
- 夫がアイヌ関係の仕事をしているので、学習してみようと思い。
- 仕事柄勉強する機会に恵まれた。
- ウタリ協会の会員だったから支部の事業の関係で…
- アイヌ刺繍を始めた時必要性を感じた。
- 展示場で品名など知るために自分で名称が判った方がよいので覚えたいと思っています。又、刺しゅうの形の意味み知りたいです。

#### <何かのきっかけがあった>

- 関東から北海道に移住し、千歳に教えてくれる場があると知ったので
- 日高に生きているから
- アイヌ語を使った劇をやったから
- 萱野茂氏の書いた本を読んで
- 日高の地名の理由を知りたかったのが始まりです
- アイヌ語教室があったから
- 親がしていたから

#### <その他>

- 息子に人間として差別の心をもってほしくなく相手から色々な事を教えてもらい知識を深めてほしくて！

### ★血筋無記名の場合の理由

#### <興味>

- 少しでも、おぼえようと思った。
- 他の人が話ししているのが意味がわかれば
- 現在、一般的に北海道と呼ばれる島に暮らす者が、その土地の言語を知っていることは自然なことです。
- 地域住民によるアイヌ語学習、継承の活動を知りたい
- おばさん達が話してるから興味あり
- アイヌの歴史を知るため
- アイヌ協会に入っている者で習うチャンスがあり、アイヌの生活生き方がわかるんじゃないかと思って習いました

#### <教室があった>

- 親と子のアイヌ語教室があったから
- 一度アイヌ語教室に行って楽しかったから。

#### <誘われて>

- さそわれて

- 親にやっという方がいといわれたから。
- 特に…

## (2) どこでアイヌ語を学習しましたか（複数回答可）

項目①自宅で両親や祖父母から教えてもらった・もらっている。

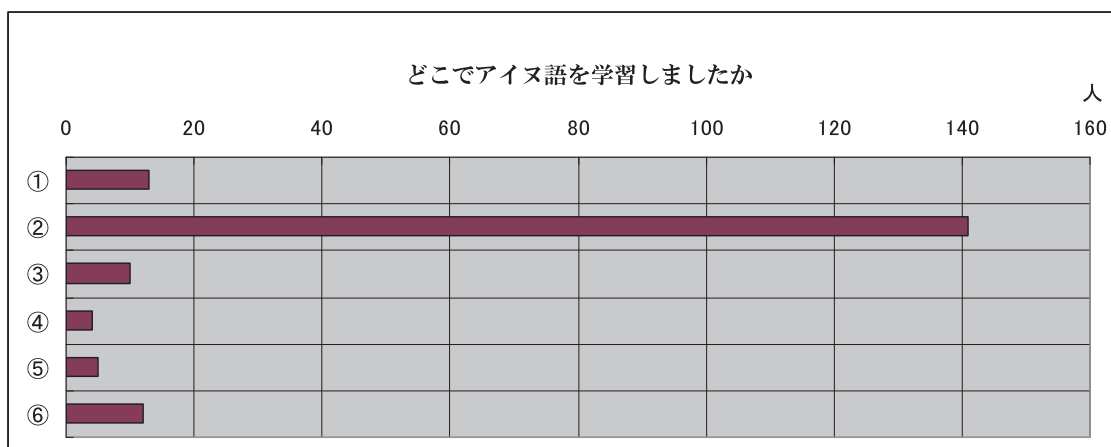
②地域のアイヌ語教室で教えてもらった・もらっている。

③自分だけで学習した・している。

④小・中学校で教えてもらった・もらっている。

⑤高等学校・大学で教えてもらった・もらっている。

⑥その他

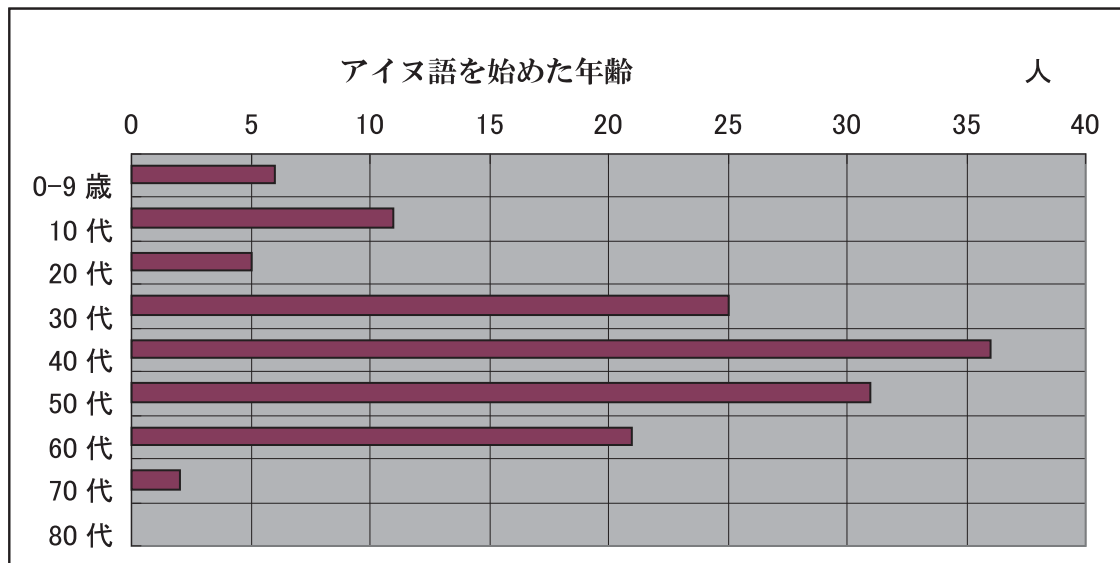


### ★⑥その他の回答

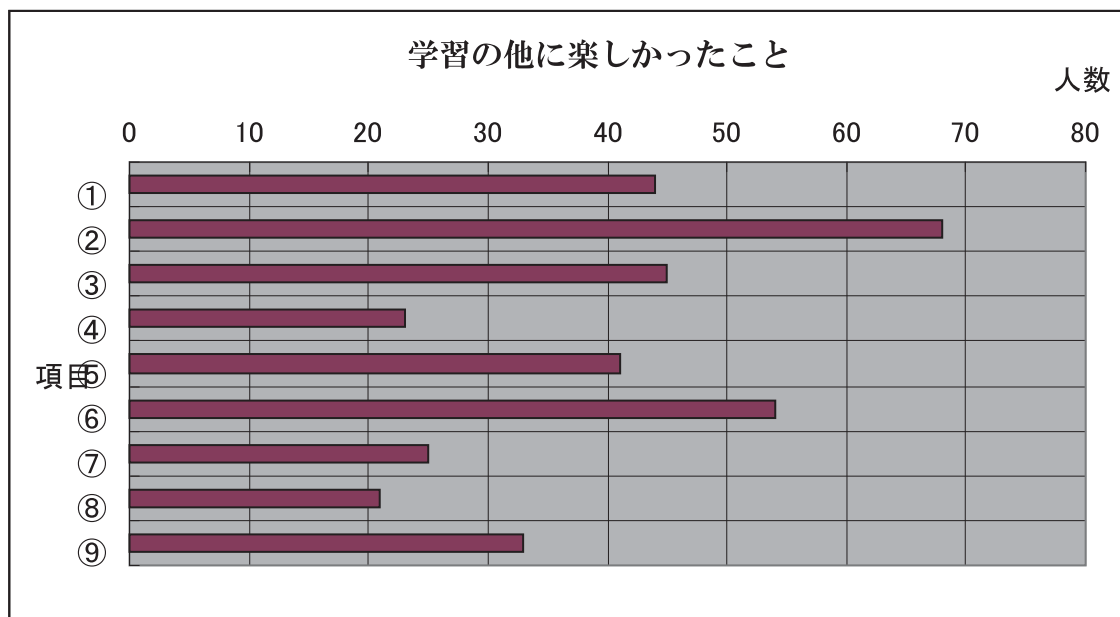
- 承呼育成事業とアイヌ語教室
- 東京アイヌ文化交流センター
- S T Vラジオアイヌ語講座
- 支部の講座があった。
- アイヌ語教室
- 機構の「親子でアイヌ語教室」参加
- 東京まで月2回通っている。
- 講座、書籍等
- 一度だけ札幌の方が来て（女性の方）受講したことがあります。又、夜は年が高いので日中ならば教えて下さる所があれば（旭川市内で）

(3) (2)で①②③と答えた方にお聞きします。

アイヌ語を学習し始めたのは何歳頃ですか



(4) (2) で②（地域のアイヌ語教室）と答えた方への質問・・・アイヌ語教室等において学習の他に楽しかったことはありますか（複数回答可）



項目①同世代のアイヌの人々と知り合いになったこと

②年上のアイヌの人々と知り合いになったこと

③年下のアイヌの人々と知り合いになったこと

④和人や外国人と知り合いになったこと

⑤同世代のアイヌの人々と知り合いいろいろな話ができたと

⑥年上のアイヌの人々と知り合いいろいろな話ができたと

⑦年下のアイヌの人々と知り合いいろいろな話ができたと

⑧和人や外国人と知り合いになりいろいろな話ができたと

## ⑨その他

### ★⑥その他と答えた人の回答

#### <アイヌ語・アイヌ文化の理解>

- 料理教室などもあり、言葉だけでなく生活文化を知ることができ、楽しかった。フチの子供の頃の話の聞いたりもできた。アイヌ語教室では、アイヌ民族の血筋のない私も一緒に学ばせてもらって、知識がなくても全く区別なく、親切に受入ってもらって、新しいことを学べて楽しかった。
- アイヌ語劇に参加させていただき発表会までのみなで力を合わせていったプロセスが大変印象深く楽しかった本と、アイヌ語教室のみんなで、地名勉強をしながらバスでめぐり、アイヌ文化のいろいろな事を学んだ事。
- アイヌ語を学んでいく中で、過去や現在の問題を教わり、自分でも興味をもってさらに調べ学習する機会を求めていった。結果、自ずと自分の視野が広がり、アイヌに関する事だけでなく様々なことをこれまでとはまた違った角度から考えられるようになったと感じるし、それを楽しく思う歌や踊り等も学び、年齢、性別、国や民族の違いを越えて、交流できることが本当に楽しい。
- アイヌ語の楽しさを知った
- アイヌ語だけでなく料理や手仕事も教えてもらった
- アイヌ刺繍の図案の意味が解り楽しかった。
- アイヌ語を学ぶ中で私達アイヌの歴史を学べる事
- 教室の講師や生徒との交流、アイヌ文化の学習等
- 年輩の方々から、昔のお話を聞くことができました。
- 年上の人の話を聞くのが楽しかった
- 人間として知りあいたかった。知り合えて色々気が付く思いでした。
- 昔の話がきけた事

#### <その他>

- あそびを取り入れた学習ができたこと
- みんなとあうのが楽しみだった
- 仲間と楽しく、勉強できたこと
- 皆さんの熱心な態度に感心すると共に先生方も好感持てる。
- 保存会の集まりで
- 勉強になった
- 先生、教室生とのふれあい
- 語源について学んだこと
- アイヌ協会活動の中
- 覚えることができて良かった
- 人があまりいなかったのも別に…

- 楽しくなかった
- 知り合が出来たということはありません
- 限られた人数だったので沢山の出会いとかは無かった

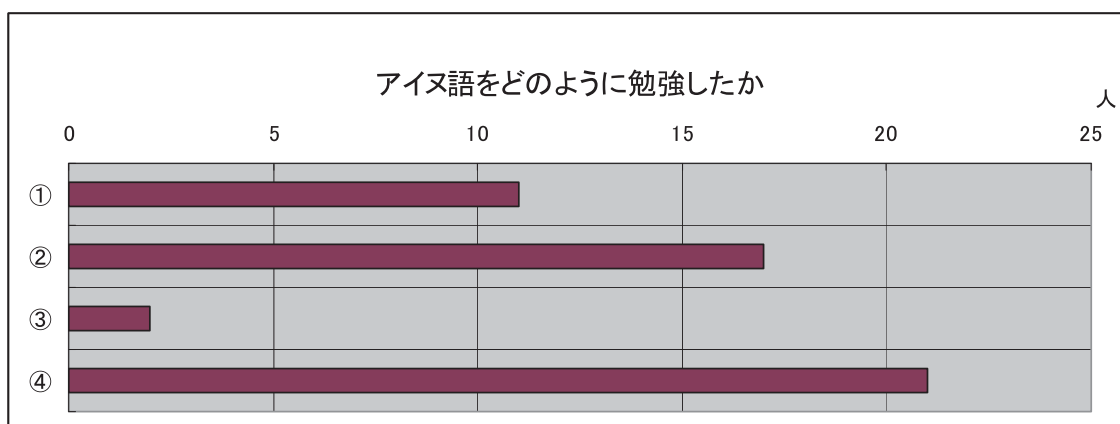
(5) (2) で③(自分だけで学習)と答えた方・・・どのようにアイヌ語を学習しましたか(していますか)(複数回答可)

項目①ラジオのアイヌ語講座を利用

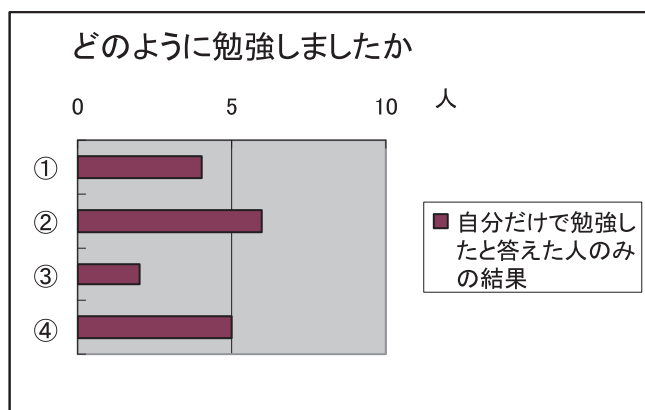
②市販されているアイヌ語教材を利用

③インターネットにおけるアイヌ語に関する情報等を利用

④その他



(注) (2) で③と答えた方としているが、それ以外の人も回答している  
 <自分だけで勉強したと答えた人のみの集計結果>



★④その他と答えた人の記述

<講師その他>

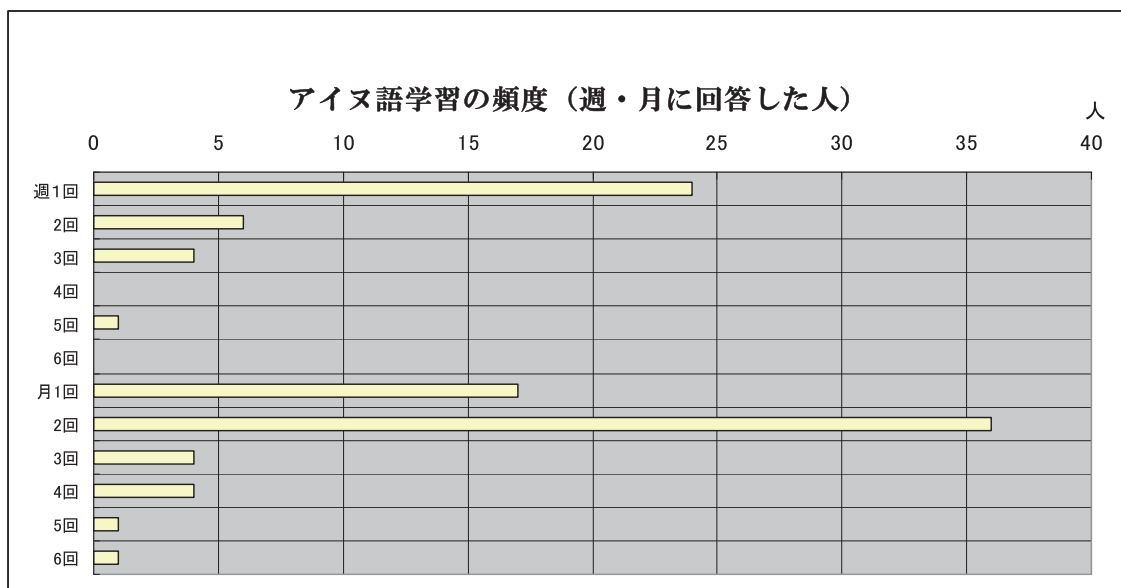
- 講師の先生に教えてもらいました。
- 講師を召いて
- おばあちゃんから習いました
- 語り部の知り合いに教えてもらった

<テキスト・本など>

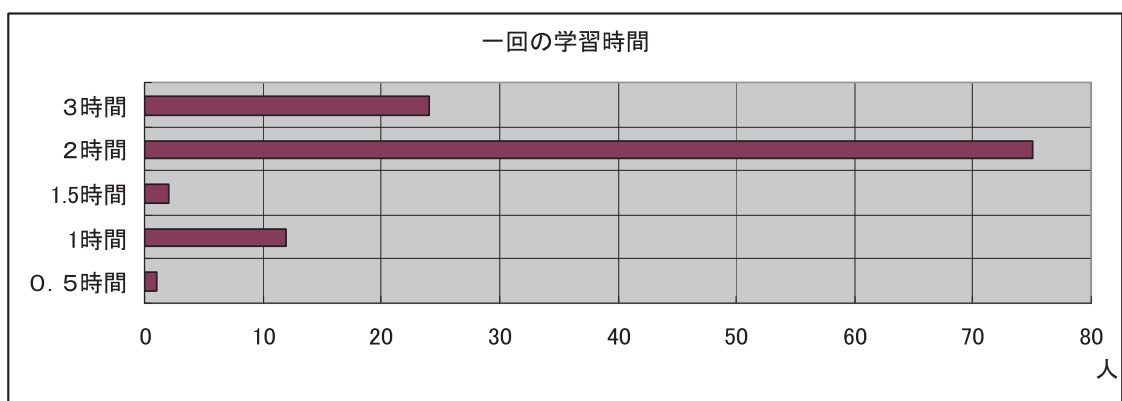
- アイヌ語教室で作ったテキストで学習した。
- 支部の教材
- 図書館の資料公共団体の刊行物
- 自分達で製作したサイコロやカルタ等も使用
- 辞典など
- 関係図書
- 学校の教科書
- 様似で
- 協会の講座
- アイヌ語講座で
- アイヌ語教室
- 今は全くしていません

(6) アイヌ語をどのくらいの頻度で学習しましたか(していますか)

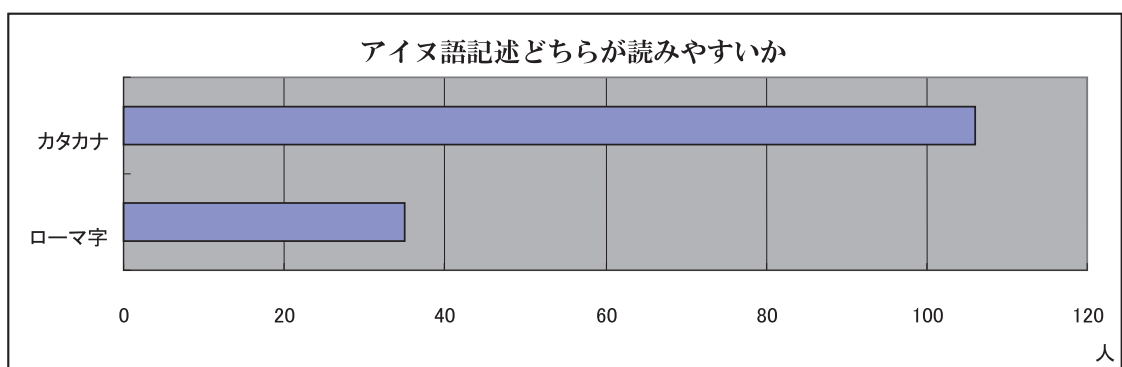
- 毎日 2名 学習時間 平均2時間







(7) アイヌ語の記述ではローマ字とカタカナのどちらが読みやすいですか？



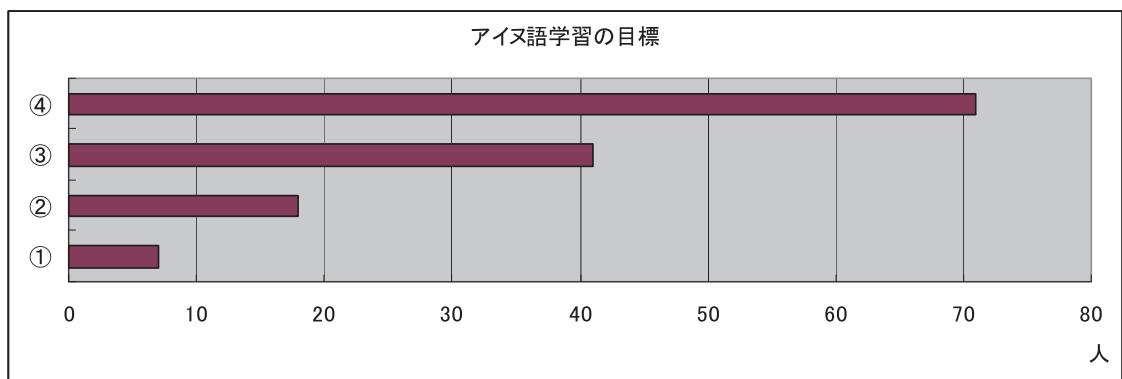
(8) あなたのアイヌ語学習の目標はどの程度でしたか

目標項目①ほとんどの話題について日本語と同程度に会話できるようになる。

②日常的な会話を日本語と同程度に出来るようになる。

③簡単な文章をアイヌ語で話せるようになる。

④日常的なあいさつをアイヌ語で出来るようになる。

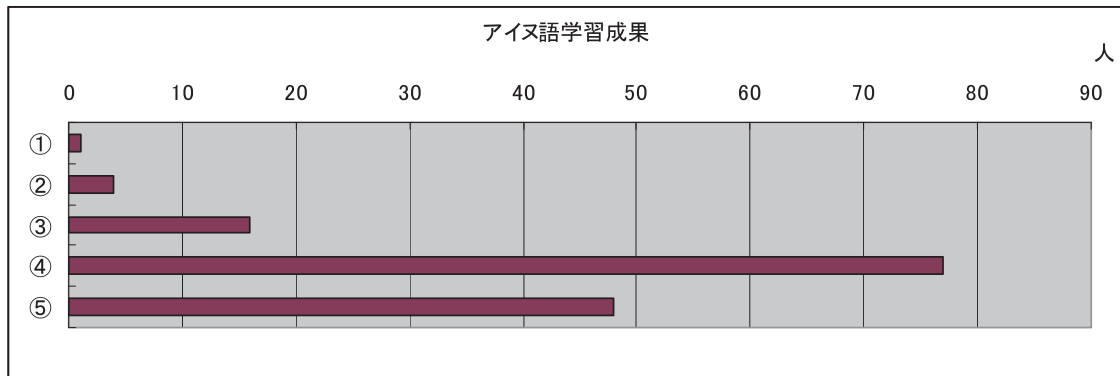


(9) アイヌのアイヌ語の成果についてお聞きします

(a) 現在、アイヌ語をどの程度話せますか

項目①ほとんどの話題について日本語と同程度に

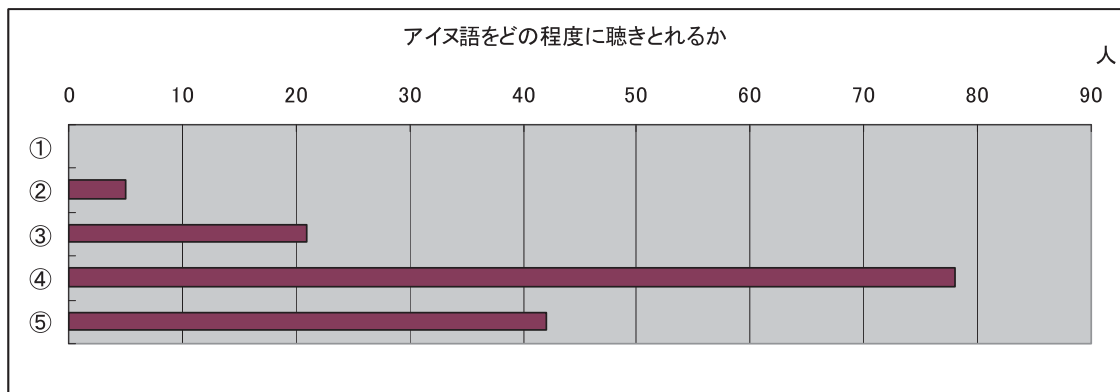
- ②日常的な会話なら日本語と同程度に
- ③簡単な文章をアイヌ語で話せる程度に
- ④日常的な挨拶をアイヌ語で話せる程度に
- ⑤全く話せない



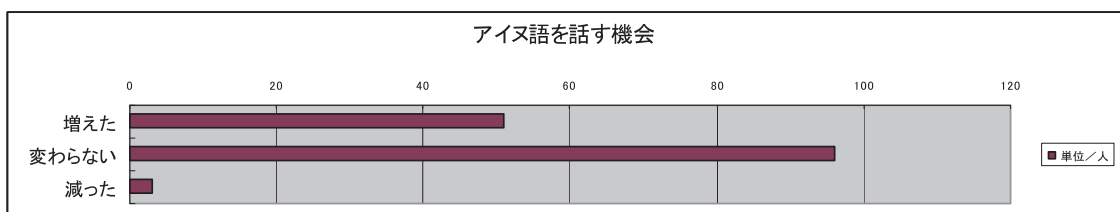
(b) 現在アイヌ語をどの程度に聴きとることができますか

項目①ほとんどの話題について日本語と同程度に

- ②日常的な会話ならば日本語と同程度に
- ③簡単な文章をアイヌ語で聴き取ることができる程度に
- ④日常的な挨拶をアイヌ語で聴き取ることができる程度に
- ⑤まったく効きとれない



(10) アイヌ語を学習したことにより、アイヌがアイヌ語を話す機会は増えましたか



(11) アイヌ語を学習する上で不便だと感じたことがあれば教えてください。

＜教室に関しての意見＞

- 全道各地、地方への引越も多かったが、札幌や千歳の教室で習っていたので通うのが大変だった。また夜間、公共交通で通うのも、ついおっくうとなる要因。教室が中心地、町はずれだと特に！
- むかわ町にアイヌ語教室がなくなった。
- 町内だったので不便はなかった
- 近所に教室がなく、千歳市まで通わなければならなかった。
- その年によって教室があったりなかったりするので不便
- 近所にアイヌ語教室がなく、毎週遠方各地まで通わなければならなかった。（２）アイヌ語を学習する場の関係者には、人種差別の姿勢を持つ方がしばしばおられ、同席に堪えません。（このアンケート作成者を含みます。）（３）アイヌ語教室の講師の方々は、会話力を習得するための教授法や訓練指導方法をご存じないようで、終始読み書きにこだわっておられました。読み書きの学習をすればするほど会話力は伸びなくなってしまうため、当然の結果として、どのアイヌ語教室でもアイヌ語で話そうとする人が皆無という残念な状況でした。知識のない方々に丸投げするばかりの主催者側にも大きな問題があると思います。本来、文字を持たないアイヌ語を習得するには読み書きが基本的に不用（役に立たない）であることに学習者含め皆さんが早く気付かれるよう願っています。
- アイヌ語教室に連続性がないこと
- アイヌ語教室がその年によってあったりなかったりすること
- 近くにアイヌ語教室がない
- 札幌までは行けない
- 近くにアイヌ語教室がないから月２回東京へ行かなきゃいけない。
- 近所にアイヌ語教室はあったが、内容的に不満が多かった。
- 地域にアイヌ語教室がなくなったので開いてくれはまだつづけていたと思います。
- 近所にアイヌ語教室がなく、むかわ町まで通わなければならない～交通問題。約２５Ｋ通勤
- アイヌ語教室が少なすぎる
- 教室が遠いです
- 学習したくても出来ません。まだまだ知らない事ばかりなので学習したいです。
- 地方に教室があればいい

＜教育システム等の意見＞

- 地元での教室でしたので問題はありませんが「アイヌ語教室」終了後に続けて学ぶ機会と場所がないのが残念。
- 学習＝訓練にして会話しながら６～１年学びたい

- 年令に合った段階の教室だと助かる。クラス別に。
- 不便と言う事よりも、学習時、文法ばかりが多く、たいへん理解に苦勞した。出来れば、もっと普段語の会話から入り、その中で、自然に文法につなげる指導であれば、なをも楽しく覚えられと思う。
- 同レベルの人が沢山ほしい
- アイヌ語学校があつたらいい

#### <教室の開講日時などの意見>

- 仕事をしているので教室の開講はなるべく休日が良い
- 毎週水曜日、中級講座を協同利用館で行っているようだが自身の都合と合わず行くことができない
- 日曜日は何かといそがしいので、夜に教室へ行けないこともある。

#### <アイヌ語指導者等の意見>

- フチ・エカシがいらない！（アイヌ語を知っているアイヌ）
- アイヌ語指導者不足
- 講師が身近に居ない
- 先生が少ないので質問することが難しい

#### <アイヌ語を話す機会等の意見>

- アイヌ語を話す機会が少なかった
- アイヌ語を話す人が居ない
- 習ったアイヌ語を活用（使用）する場（人）が教室以外にない（いない）こと。
- 一カ月に2回孫と東京に行って勉強其の他は、別々の家での生活、話す時間は、ありません。
- 教室に行かないとアイヌ語を話す人が周囲にいないこと
- アイヌ語を覚えても周りに知っている人がいない
- 日常アイヌ語を使う機会がないこと
- ふだん使わないのですぐ忘れてしまう（教えてくれる場所がない）
- まわりにアイヌ語を話す人がいないことです

#### <辞書・音声・資料・教材などの意見>

- 辞書が高額であること
- 辞書にない言葉がある。
- 音源（テキストとセットなもの）になかなかふれられない
- 音声資料の長文などインターネットで簡単に聞けない。
- 仕事等で時間がとれない
- 教材が少ない

#### <その他の意見>

- 仕事をしていると夜出歩くのがつらいかな？
- 不便と感じたことはありません。

- 年々出かけるのがおっくうります
- 日常が忙くてアイヌ語どころではなくなった事
- 教室が行なわれる日と、仕事とがぶつかり、なかなか参加できない
- 夜だった為に運転ができないので家族の協力が必要だった。
- 自分自身がおぼえが悪い事です。
- 他の人（友人）があまりアイヌ語を知らない
- 楽しくない！
- 知人が少ない
- もっと学習する場所が欲しい

(12) アイヌ語学習を通して、良かったと思えることがあれば教えてください。

**<アイヌ文化・アイヌの知恵の理解が深まった等の意見>**

- アイヌ文化を知ることができた。イタカンローに参加できた。
- アイヌの文化にほんのすこしより理解が深まった。
- アイヌ語から、当時の生活の仕方（？）等がわかった気がする。
- アイヌのウパシクマでアイヌ先人の知恵が理解できた
- アイヌの精神世界も学ぶことができた
- 1 おいしい料理 2、楽しいあそび 3、山菜きのこの採集 4、一般町民との出会い
- アイヌ語の学習をとおして、伝承されてきた昔話を沢山知ることができた。
- アイヌの人たちの生活文化や考え方にふれることができた
- 辞典や関係の本等、身近においてよく聞き、なるほどと思いその知識や知恵の豊富なことなど知ることができ嬉しいですね
- 少しはアイヌ語、文化にふれた事。3年間の学習でしたが、1年目がとても勉強になりました。
- フチの優しい心に触れることができた。
- アイヌ語の単語を一つでも理解出来る様になった
- 昔の事や、日本語だと思っていたものがアイヌ語だとわかり楽しかった
- 踊りや歌の意味がちょっとわかるようになった
- アイヌの人たちの自然を敬い、人と仲良く暮らしてゆこうという精神をよく理解出来たこと。言葉とは、その民族のアイデンティティであり誇りであると思います。積極的に学習しなければ絶滅してしまうとの危惧から。
- 地元のフチ、エカシとお知り合いになれたこと。子どもたちに地域の財産として伝えることができたこと。アイヌの精神性について理解が以前より深められたこと
- アイヌ語の学習を通して、白糠のエカシ・フチ達の残してくれた・アイヌイタック（アイヌ語）・ウチャシクマ（昔話）・サコロペ（英雄叙事詩）

- アイヌは正に日本人であること（和人以上に）を認識できたことをはじめ、文化や歴史についても学ぶ機会に恵まれたこと。感謝しています。これからもよろしくお願いします。
- アイヌ民族の考え方やたくさんのウエペケレなどに接することができた
- アイヌ語の学習を通して大勢のお婆さん（フチ）と知り合うことが出来、女の手仕事やアイヌ文化を教えて頂いたこと
- 各地区のウエペケレ、ユーカラ等を知る
- 伝承されてきた昔話をたくさん知ることができた。でも少々
- 歌や話が少しでも分かるようになった
- アイヌの人たちの考えを（知識や知恵）を知ることができた
- 普段私達が物や自然を大事にする事が大切なのよと子供達に言ってきましたがアイヌの人はそれ以前から自然と生活が共用していたのがわかりびっくりしました
- カムイユカラを2曲話せるようになった。
- アイヌの方々と共にサコロベなど、伝承に触れることができました。
- 昔話からアイヌの考えが学べる事。少しずつアイヌ語の意味が分かるようになり楽しくなってきました。オイナ、サコロベを沢山学びたいです。→少しずつ分ってきました。同じ言葉でも地方により全く違う意味だったり、とても驚いています。
- アイヌ語を通して、アイヌの人たちの習慣や考え方を学ぶことができる
- 年上の人の子供の頃のアイヌに関する日常話が面白かった
- むかしの生活を少し勉強できました
- 昔のことがよく分かった
- アイヌの精神文化が分かるようになった
- アイヌ語の学習をとおして、伝承されてきた昔話をたくさん知ることが出来る
- アイヌの歴史や考え方など色々勉強になった。
- 友人ができた。言葉を通してアイヌ文化の理解が深まった

#### <アイヌアイデンティティーなどの意見>

- 自分のルーツの言葉を知る事が出来た
- アイデンティが強くなった
- アイヌ同志民族としての悩み苦しみを語りあえる事
- 母語を覚えて良かった

#### <地名の理解等の意見>

- たまに出る母からのアイヌ語の単語がわかるようになったこと、北海道各地を歩いていて通りすがりの地名、川名、橋名など調べるようになった。
- 地名などでアイヌ語が使われていることが多いなど知ることができたこと
- 地名を知るとおもしろい
- 北海道の地名がアイヌ語で出来ている事がわかった
- 地名に関して、多少の知識が増えた

- アイヌ語の地名が少しわかる事が出来た

#### <新たな興味>

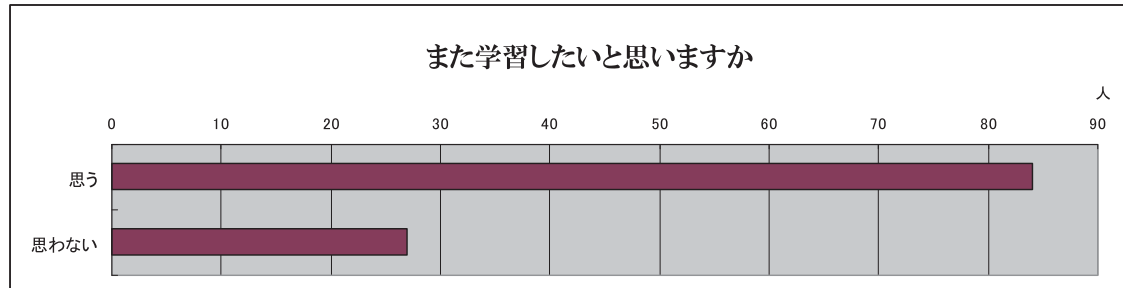
- 新しい世界が開けた。
- きょうみを持ちはじめた。
- 子ども達が興味をもってくれた事
- 北海道の話しなど孫にとって初耳な事ばかり、今の所喜んで勉強してますよ
- 言語の学習を通して、文化、歴史、地理、生物、環境変化、人間の性質などを学び、視野を広げることができる。
- あまり知らない源語を知ることができた
- 親子のコミュニケーションの場として参加し、普段の会話の中にアイヌ語を入れ、会話を楽しむ事が出来る様になった。
- 素晴らしい言葉があるので伝承していきたい
- 子どもたち（小学生）にあいさつ程度のアイヌ語を教え、楽しんでもくれること。
- アイヌ刺繍を楽しんでやれた
- 知り合いとアイヌ語で挨拶ができる近隣町の昔話しも知ることができました
- 身近な所でアイヌ語が使われているのを知って学ぶ事が楽しく感じる
- 数をかぞえるのが楽しい

#### <その他の意見>

- 良い事はありませんでした
- まだまだこれから
- 地方によっていいかたがちがうことがわかって楽しかったから
- 学習に来る人とのふれ合いが良かった
- 挨拶を学習したり子供たちと楽しく学習できたこと
- おもしろい所
- これはアイヌ語でなんと言うのですかの質問をするとすべて答えてくれるので良いです。（わかりやすくおしえてくれます。）
- 住民のアイヌ語を学ぶ熱意を知ることができた
- 主にフチが講師を努めていて、大変有意義であった事
- 聞いたことがある言葉の意味がわかった
- 和人につたえたくない事をアイヌ語で話している
- 知人がふえた事。楽しく学習が出来た事
- カタカナでアイヌ語を読み取れるようになった
- 意味がよくわからない
- うまく言えないが学習できて良かった

質問 3. 質問 1. で学習したことがあるが現在はしていない人へ

(1) またアイヌ語を学習したいと思いますか



(2) (1) で①と答えた方にお聞きします

(a) またアイヌ語を学習したいと思う理由を教えてください

<アイヌ文化の理解などの意見>

- もっとアイヌ文化を理解したい
- アイヌの人たちのものの考え方や文化を理解したい。保存したい。
- 異文化に接することができることです
- アイヌ民族の文化を覚えたい
- 口承文芸をききとて楽しめるようになりたい
- 現在もアイヌ文化に関心があるので。
- 文化交流を他の人々とかかわり合えたらと思います。
- 物の名称、植物の名称又は植物などの利用について (例ウバユリの取扱について等)
- 歴史を知るため

<会話が出来るようになりたい>

- スムーズな会話ができるようになりたい。
- 少しでも覚えたいと思うから (家族のため)
- もっと昔の生活を知っておきたいので
- 少しでもアイヌ語を話したい
- 日常的な挨拶がまだできていないので
- ほとんど話せないので目標に至っていない事や更に深くアイヌの歴史文化に触れたいから
- アイヌ語を話したい
- 普段の生活の中でも話したいから
- アイヌ語話したい
- もっとアイヌ語を話したいので
-



#### <民族に関しての意見>

- アイヌと和人が本当に和解するために
- 多数の民族で成立っている地球です。互いに手を取り合いましょう
- アイヌの伝統継続があたり前だと思うから
- 母語だから途絶える分にはいけない
- アイヌ民族なのにアイヌ語を話せないのはおかしい
- 民族として、民族の言葉を知らないのは恥ずかしいと思うから
- 先祖、親に会えるようで、子供頃を思い出したり、先祖親の知識等が今の時代にも通じて居ることを確認出来るため
- 自分の言語だから
- 先祖の言葉をなくしてしまうのはもったいない。日常の簡単な言葉くらいは覚えたいと思っています

アイヌだからです

#### <儀式などに関する意見>

- いつどこでもカムイノミを出来る様言葉をおぼえたい

#### <アイヌ語の理解についての意見>

- 知らずに使っている言葉もあるので意味がわかると楽しい
- まだまだ知らないことが多いから。
- 世界が広がる。ちしきが増える。
- アイヌ語の響きがとても心地良く、好きだから。継続してゆきたいと常々思っている。
- もっと知りたいから
- 頭がかたくなかなかおぼえが悪いけど少しでもおぼえたいです。
- 勉強が足りなかったから
- また勉強したい
- もっと、色々を知りたい
- 新らしい発見があるから
- 自分にとって生涯学習の大事な一科目だと思うので
- まだまだ勉強不足もあり、自分自信（子供も含めて）満足していないので
- 基本（文法）が全く判かっているからです。
- さらに、レベルアップをしたい。
- まだまだ学習すべきことが有るし、身についていないから
- いろいろな事をアイヌ語で覚える様になったから
- まだ知らないことがたくさんあるので
- 長く勉強をして少しは身につけたいです
- 覚えたいから！（2件）
- 友だちにも話してあげたいから

<アイヌ語学習が楽しいなどの意見>

- 教室で学習した時に楽しかったから
- 子供達がアイヌ語に興味があった
- また同じ世代と一緒に学びたい
- 楽しい教室だったのでまた学習できればいいと思う
- ラジオでは早くてききとりできません。ゆっくりおしえて下さった方
- 楽しから
- アイヌ語を学んでいて楽しかったから
- アイヌ語が好きだから
- 習っていた時は毎回新しい物を発見した様に生活週かんが変わりました
- 楽しく学習が出来た事
- 楽しかった
- みんなでワイワイしてるのが楽しい

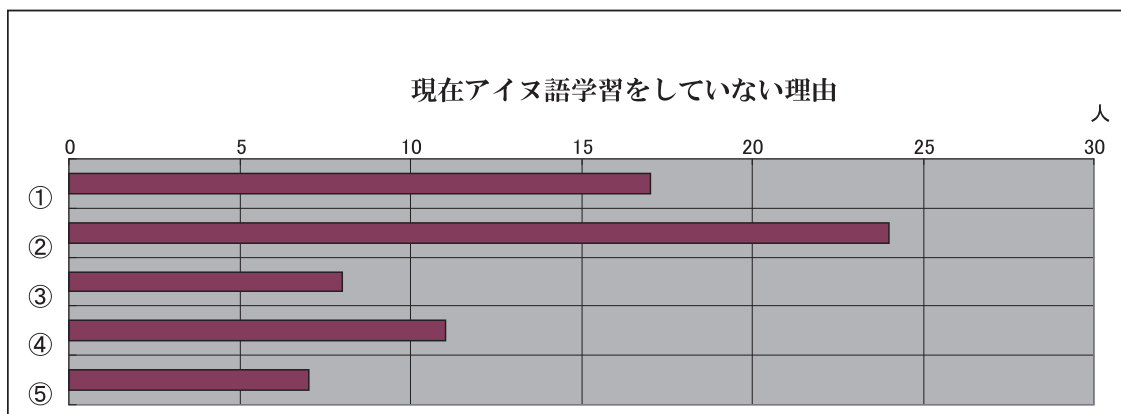
<その他の意見>

- 仕事と関わりがあるから
- お客さんに話をしてみたい

(b) 現在アイヌ語学習をしていないのはなぜですか

項目①忙しくてアイヌ語を学習する時間がとれない

- ②近所にアイヌ語を教えてくれる教室・施設等がない
- ③日常生活において、アイヌ語があまり必要でないから
- ④アイヌ語が難しくて学習してもなかなか成果があげられないから
- ⑤その他



<⑤その他の記述>

<教室・事業との関係>

- 今は語り部の育成がまだはじまらないから
- ウタリ教会の、期間での講習だったので（3年間）
- アイヌ協会で行なっていないため

<体調・健康など>

- 特にここ2年自分の病気や介護の責任があった。地方から公共交通で（宿泊の必要も）通うのは、好きなこととはいえ、時間もエネルギーもいるし、経済的なこと、また家族の協力（多少の遠慮）もいることなので。
- 大好きな先生が亡くなられたので自然と足が遠のいてしまった。…辛いので。
- 体の不調のため

特にここ2年自分の病気や介護の責任があった。地方から公共交通で（宿泊の必要も）通うのは、好きなこととはいえ、時間もエネルギーもいるし、経済的なこと、また家族の協力（多少の遠慮）もいることなので。<自分で学習>

- 日常、アイヌ同士、挨拶くらいしか話していません
- ラジオ等で放送されているのは聞いていますし小冊子も出ているのは知っていますが昼の時間での教室は知らないです

<その他>

- 私が怠情だけです。

(3) (1) で②（アイヌ学習をしたいと思わない）と答えた方にお聞きします  
(a) アイヌ語を学習したいと思わない理由を教えてください

<指導者等>

- 地域のアイヌ語教室には信頼できる指導者がいない。

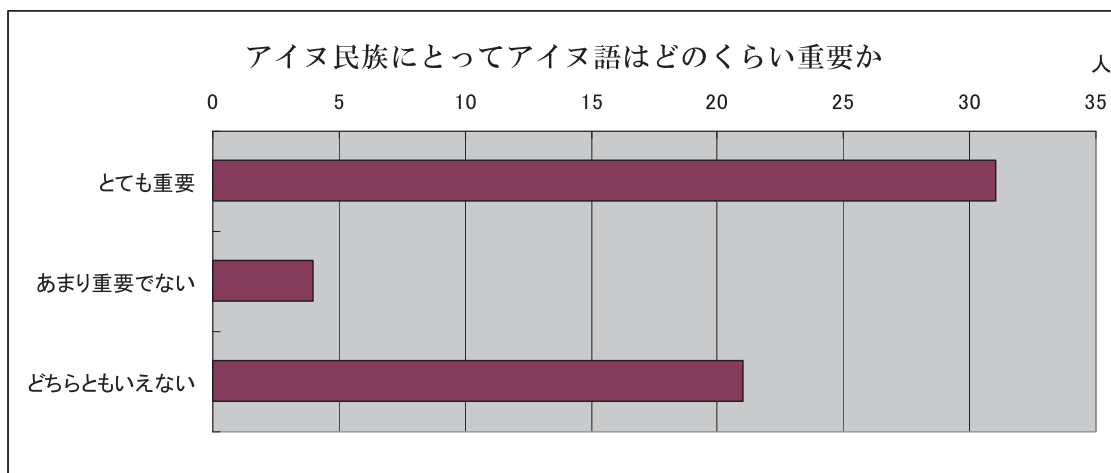
<興味が無い・必要性が無い>

- 木村謙次蝦夷日記の現代語訳を終たので。必要を今の所感じていない
- 楽しさや興味を持たなかった
- 日常生活に活用することがないのと、難しいこと、覚えることが大変でした
- 自分には関係ないと思っていたから。主人がアイヌで少し知ってみたいと思ったから
- 日常で特につかわないから
- 生活で使用しないため

<難しい>

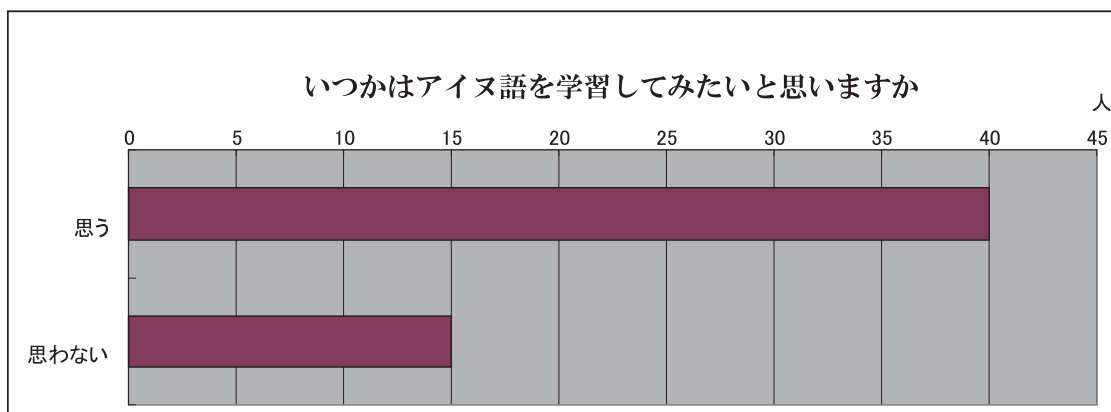
- 難しく覚えられない…。
- 年令的に覚えるのが困難だから
- 日常使用する事がなく年のせいか覚えるのがむずかしい

(b) アイヌ民族にとってアイヌ語はどのくらい重要だと思いますか



質問 4. 質問 1 でアイヌ語学習の経験がないと答えた方にお聞きします。

(1) いつかはアイヌ語を学習してみたいと思いますか。



(2) (1) で「思う」と答えた方にお聞きします。

(a) いつかはアイヌ語を学習してみたいと思う理由を教えてください。

<アイヌの血筋に関して>

- アイヌ語を知らない話せないアイヌ人って変…かっこ悪いと思い
- アイヌとしての活動を行っていく上で便利だと思うので
- 言葉は民族の魂と言った萱野さんの言葉が心に残っているから自分がやったら将来娘や孫もやってくれるんじゃないかという希望があるので
- 子孫にアイヌを残したい義務教育の中で義務科しておしえる
- 自分の民族だから
- 後世まで残したい
- 少しでものこしておきたい。
- 本州で働いてた時、自分がアイヌだと自覚したから

- アイヌ民族として、母語を覚えたい
- アイヌ民族と結婚し、子供もいるから

<興味がある>

- 少しでも、おぼえたい
- もっとおぼえたいから
- 奥が深いので色々知りたいから
- 北海道人としての基本的な事だと思うので、ペラペラとはいかないまでも地名
- 覚えて損はしない
- 知ってみたい。
- アイヌ語に興味ある

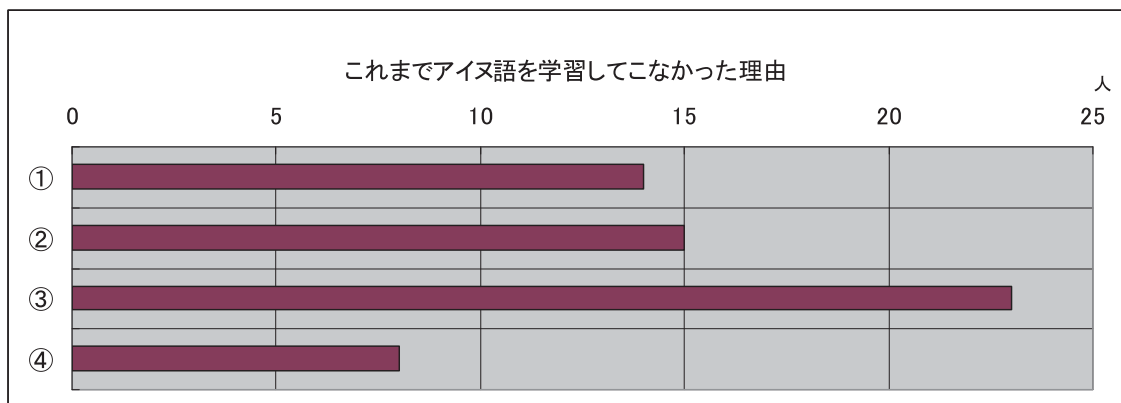
<その他>

- すこし、時間にゆとりができたから、近い場所なら行きたい
- アイヌ語には生活の中で密接な関わりを言葉の中にあるから
- でも年とりすぎたから見てなら出来るけど
- 孫にお教えたい。
- 覚えかけなのでもう少し話が出来るまで（アイヌ語で）勉強したい
- 自分の知らない世界をもっともっと深く知りたい
- 興味がある
- まだ体調がすぐれないのです。段々年をとり頭の中はいらなくなっている
- たくさん話をしたいからです
- アイヌの事を知りたいので
- 興味が少しだけ出てきた。
- 少しは話すことをしてみたいです
- 楽しかった
- アイヌのイベントに参加してみたい。その時（弁論大会）イタンカロー？の内容の一部でも理解できたら楽しく参加出来るのでは
- 話しができればカッコイイから

（b）これまでアイヌ語の学習してこなかったのはなぜですか？

項目①忙しくてアイヌ語を勉強する時間が取れなかったから

- ②近所にアイヌ語を教えてくれる教室・施設等がない
- ③日常生活において、アイヌ語があまり必要でないから
- ④その他



<④その他の記述>

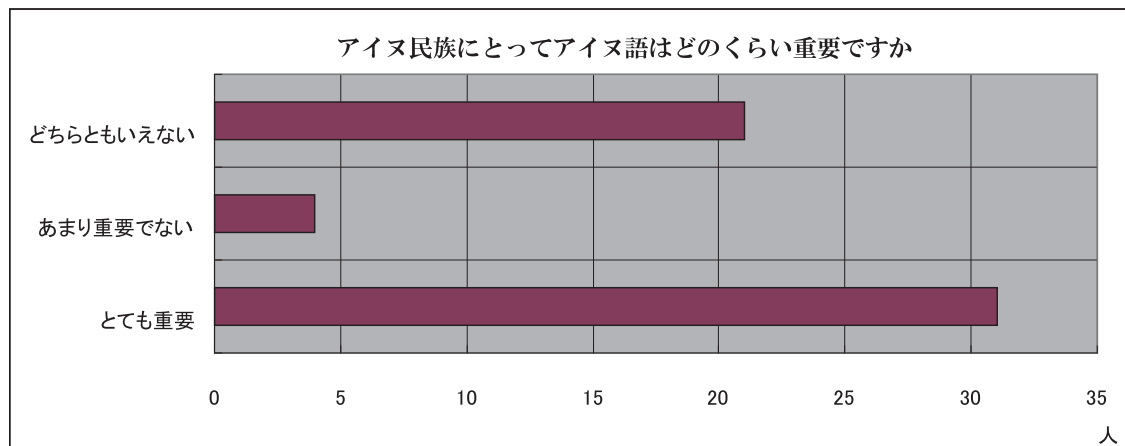
- 機会が無かったから
- 私は和人なので必要はないと思っていました。
- 一般的には（３）の意味が無いのですが（１）も含み、教室が中止された事が一番の理由
- 事業中止
- その気にならなかったの
- 体の不調
- 特に

（３） （１）で②と答えた方にお聞きします。

（a）アイヌ語を学習してみたいと思わない理由を教えてください

- 生活するのにあまり必要ないから
- あまり必要でない
- むずかしいから
- 年だから
- 学習する暇がない
- 少しは知っていると、見かけた時に意味がわかるけどそのていど。
- 興味がないから。
- 習っている同志で話している時はいいですが、アイヌ同志では今は余りアイヌ語が出てこない

(b) アイヌ民族にとってアイヌ語はどのくらい重要だと思いますか。







## 付録4

### アイヌ語教室に関するアンケート（代表講師用）

#### 記述式回答一覧

##### 1. ここでの取り組みについて聞かせてください

###### H) その会場の使用に関する規制があれば、具体的に教えてください

「休刊日（日曜日）は使用不可能」

「町主催の大きなイベント（文化祭・選挙など）の時は使用不可能」

「一般の方も使用するので曜日が決められてしまう」

##### 2. 運営体制について聞かせてください

###### A) 事務員がいる場合は、その責務について教えてください

「年間カリキュラムとテキストの作成及び会計業務」

「推進機構などへの書類の発送など担当」

「生活相談員」

「事務手続きなど」

「年間予定表の作成、テキスト作成、会計事務」（2

「記録など」

「札幌支部事務員、連絡事項のみ」

「参加者名簿や写真撮影など」

「年間学習プランの作成、教材作成、会計事務など」

###### E) 学習者の学習動機（あれば教えてください）

「アイヌ語の響きを懐かしむ者」

「アイヌ文化を理解する者」

「アイヌ語に興味を持った者」

「カルチャーセンターに通う感覚で」

「アイヌ語の響きに魅せられて」

「自民族の言葉を知りたい」

「仲間意識を培いたい」

「先祖を偲びたい」

「イタカンローに出てみたい」

「あいさつを覚えたいから」

「講師（指導者）が見込んだ人を勧誘した」  
 「昔を懐かしむ、アイヌ語を話していた祖父母のこと」  
 「ユカラやカムイユカラなどを覚えたい」  
 「地域の文化を知りたい」  
 「地名などを知りたい」  
 「アイヌ文化の理解の為」  
 「アイヌ語に興味を持って」  
 「昔のことを懐かしんで」  
 「ウウエペケレやカムイユカラ、ユカラを覚えたくて」  
 「自分の民族の言葉を知りたい」  
 「儀式の言葉、歌の言葉の意味を知りたい」  
 「アイヌ文化に興味があったので」  
 「アイヌ文化の自然にやさしいところ」  
 「継承者からのステップアップ」  
 「アイヌ民族として民族の言葉を覚えたい」  
 「アイヌ文化を知るために基本である言葉を覚えたい」  
 「和人は興味があるので地名等に参考にしたい」  
 「アイヌはアイヌ語を覚えたい、話したい」  
 「言葉を知りたい」  
 「物語を分かるようになりたい」  
 「物語を覚えたい」  
 「弁論大会に出たい」  
 「簡単なアイヌ語を覚えたい」  
 「英語の次の第二外国語的（実際は内国語）として学ぶ」  
 「アイヌ語を話せるのは格好がよい」  
 「アイヌ語の響きに魅力を感じて」  
 「アイヌのウウエペケレ（民話・物語）の道德観・倫理観に触れたくて」  
 「ユカラ（英雄叙事詩）の旋律に惹かれてまた学びたくて」

### 3. 団体と連携がある場合、連携の内容について具体的に教えてください

「町立博物館「博物館めぐりバス遠足」「記録映画上映会」を共催」  
 「アイヌ文化保存会、アイヌ協会平取支部「シシリムカアイヌ文化祭」を共催」  
 「アイヌ協会会員、アイヌ文化保存会」  
 「連携は全く無い」  
 「保存会」  
 「博物館：映像記録上映会、博物館めぐりバス遠足、町内地名めぐり」  
 「保存会：シシリムカアイヌ文化祭」

「協会」

「町立博物館「記録映画上映会」「博物館めぐりバス遠足」「町内の地名」

「アイヌ文化保存会、アイヌ協会「シシリムカアイヌ文化祭」

「文化保存会、支部行事には積極的に参加（支部はアイヌ語教室のメンバーのサポートで成り立っていると言っても過言ではない）」

「保存会 カムイノミの中のアイン語名など」

「千歳アイヌ文化伝承保存会。同保存会の活動の一環として開設されている」

「アイヌ協会札幌支部 毎年2月の文化フェスティバルで発表」

「アイヌ協会」

「支部事業の中に保存会を招いて唄や踊りをしてもらう」

「アイヌ文化保存会・平取支部→シシリムカアイヌ文化祭を開催」

「町立博物館→記録映画上映会（年2回）、博物館めぐりバス遠足（年1回）、地名めぐりバスツアー（年1回）を共催」

#### 4. 使用されている教材、音声資料について

##### A) 教科書を使っていますか？

##### ② 使っている（教科書名）（回数）

「アコロ イタク」（9

「アイヌ語ラジオテキスト」（2

「エクスプレスアイヌ語」（2

「辞典を使っている」

「アイヌ叙事詩ユーカラ集（Ⅰ～Ⅸ）金田一京助・金成まつ著（三省堂1966）」

「久保寺逸彦編アイヌ語日本語辞典稿（北海道教育要・平成4年）」

「アイヌ英和辞典ジョン・バチェラー（岩波書店1938）」

「その他多数の辞典」

「知里さん、地名アイヌ語辞典」

「萱野さん、初級アイヌ語、VHSテープ付き」

「中本ムツ子のアイヌ語エクスプレス」

「中本ムツ子のウパシクマ他」

「ラジオ講座資料」

「CDエクスプレス アイヌ語」

「ワオリ、チカップカムイ 白沢ナベ語り」

「ポンオタストーン ト° イタクなど澤井トメノ語り」

「浦川地方のアイヌ語」

「萱野茂のアイヌ語会話初級編」

**B) 音声資料は使っていますか？**

**② 使っている（具体的な音声資料名を教えてください）**

「萱野茂のアイヌ神話集成 1～10」（4

「ヴィクターとキングレコードの CD」

「アイヌ語会話（萱野茂ほか出演）のビデオ」

「地域の古老の残したユカラテープを時々聞いている」

「話者の録音テープ」

「ウウェペケレ集大成」（2

「萱野さん、初級アイヌ語に付いている VHS テープを使用」

「中本ムツ子のアイヌ語エクспレス CD」

「録音したテープ」

「CD エクспレス アイヌ語の CD」

「カセットテープ（ワオリ、チカップカムイ、ト° イタク、シノッチャ、ウポポ）」

「NHK の浦川地方の音声資料のテープ」

**C) 使用されている教授法**

**② 特定の教授法を採用している（具体的に教えてください）**

「絵を描いたカードを使用して単語を覚えるカルタを作りゲームをしている」

「単語、音韻、訳など千歳方言のものは千歳訳で十勝方言は十勝訳でおこなっている」

**5. 地理的な、又は季節的な制限はありますか？（交通機関や冬の気候など）**

「夜が多いので車で迎えに行く天気の悪い日は延ばす」

「冬に入らないようにする。交通機関も少ない」

「夜 9 時までなので公の交通機関（バス）が少なく、どうしても車になってしまう。

車が無い人は来れない」

「冬に入らない様にしている、交通の便も少ない」

「冬期間にしかできない」

「夏の昆布採りの時期 7 月～9 月迄はあまり回数を入れないようにしている」

**6. 取り組みの強みや特質について**

この取り組みの強み（特質）について教えてください

（アイヌ語話者、地域住民、自治体からのサポート・連携等）

「地元、自治体の財政的な支援がある」

「このユウカラ講座は他の教室ではやっていないと思う自尊心がある」

「話者を育てたい」

「町からの補助金で運営」（2

「昔のアイヌの生活を知っている人が多い」  
「市から保存会へ助成→その一部をアイヌ語教室へ（コピー代、会館使用料、切手、はがき）」  
「長い目で見ての、話者を育てる事」  
「特に無いが、参加者の熱意に支えられている」  
「財団や札幌市からのサポートがないと全く出来ない」  
「フチやエカシが居るうちに教えてもらう」  
「支部組織強化に繋がっている」  
「自治体からの財務援助。北海道アイヌ協会、平取支部のサポート」

7. 取り組み（の発展）の障害・妨害となっていることがあれば教えてください。

（例：資金繰り）

「十分な活動資金を確保できていない」  
「出席しやすい夏場に教室を開きたいが、動教育委員会が初冬などに設定することなど」  
「交通が不便（公共の交通がない）」  
「経費は全て自弁である」  
「時間的に調整が大変です」  
「活動資金の不足」（2  
「自由に使えるお金がない」  
「働く人が多い中で、時間の調整が大変」  
「資金はまったくない。参加者が参加費を払って運営している」  
「札幌市のは1年で2日×3時間、財団は1年で15日×3時間、10日×3時間、12日×3時間ほどで全部1年間で1ヶ月程の教室、11ヶ月は休み、10ヶ月に増やして」  
「平成21、22年と教室が止まってしまい、生徒のやる気が失せた。資金も無く講師の先生に依頼できなくなった」  
「事務局員の報酬（または給与）を十分に確保できない活動資金（額）である。増額を希望」

8. あなたが現在までに乗り越えた困難などがあれば教えてください。また、そのためになにか工夫した点などがあれば教えてください

（例：学習者の学習意欲の低下に対し、学習の内容・教授法を〇〇〇のように変えて、面白くした）

「口承文芸（ウウエペケレ、カムイユカラ、ユカラ）を指導する際は、受講生と一緒に何回でも声を揃えて練習している。」

「イラストを使って単語を覚えさせたこと、短い発問・解答を学習者同志に繰り返さ

せた事など、積極性を重視した」  
 「子供達におやつを講師が実費で買ってあげる」  
 「好きな絵を描かせてアイヌ語を言うようにした」  
 「大人は文法になると飽きてくるのでアイヌ語で簡単な会話をするように短い単語集  
 を作って話した」  
 「講師側から一方的に発信するばかりではダメと思い、生徒に宿題を与えて、皆の前  
 で発表させる。」  
 「意欲を持たせるように仕向ける。」  
 「家でも勉強させる。」  
 「面白い例文（笑えるような文）例：民たん集から引いて、課題にする」  
 「体験学習などの導入（単なる勉強では長続きしない）」  
 「一方的な講義ではなく全員参加の授業にする為「アイヌ語会話」を取り入れた」  
 「出席している人に自分の体験（子どものころの話など）を発表してもらおう。それに  
 ついて意見交換をしてもらおう。話しているうちにアイヌ語を思い出すことがある。」  
 「道教委の執拗な査察に100項以上にわたる文書で回答し、以下機構、道教委には  
 かかわらぬアイヌ語教室を設立した」  
 「読み重点の授業を読む、書く、聞く、話す小テストに改善した」  
 「文法の説明に偏りがちだったが、暗唱を取り入れたり、学習者が発表する機会を増  
 やしたりした」  
 「発音と訳で困った事ばかり、ローマ字を教えないと訳が出来ない」  
 「アイヌ語単語のカード式にして文を組み立ててみる」  
 「実際の食べ物を使って、アイヌ語で食べ物をいくつ私に下さいとか工夫してみた」  
 「野外に出て、バスで地形を見ながら地名の勉強等」  
 「私は「アイヌ語会話」を担当しているが文法用語は一切使わずアイヌ語文と日本語  
 の意味と逐語訳を説明するようにしている。受講生がペアとなり発音練習をおこな  
 っている」

## 9. (アイヌ語の継承・保存に関して) あなたが感じている問題点などあれば具体的に教え てください

(例：様々なアイヌ語能力を持つ学習者がいるのに、能力別に授業を分けるほどの講  
 師人材が不足している)

「受講生の能力別、又は受講年数別のクラス分けが必要」  
 「若い人が出席せず、いつも同じメンバーとなっている、その点をいつも話し合っ  
 ているが」  
 「講師不足」  
 「学習者不足」  
 「アイヌ語に興味を持つ子供（大人）が特に少ない気がする。」

「講師不足のため、学習者能力差ごとの授業が出来ない」  
「能力別クラス分けが必要」  
「運営資金」  
「アイヌ語を学習しても、それを使う場所がない」  
「自分のアイヌ語を発表して収入になる事がない」  
「アイヌ語の地方差がありどのアイヌ語を学ぶのか初心者は分からない」  
「地方差はそれとして、一般的にアイヌ語を学ぶ基準となるアイヌ語を決めて欲しい。  
日本語の共通語の様に」  
「アイヌ語を学習し、その次に何があるのかキチンと指す必要がある」  
「アイヌ語の話者がほとんど死去している現在、国の力でアイヌ語のプロ教師を育てる」  
「生活保護のアイヌが学べるようにアイヌの生徒には受給手当を支給」  
「アイヌ語を知りたい、話したいと考える子ども（大人）が年々少なくなっている事」  
「指導者の質の向上のため、講座を開催したり、一定の時間受講し、かつ一定の知識のある者にしかるべき団体、機関などが資格（？）を与えるなどの制度を作ってはどうか。（例：初級語り部など）」  
「まずアイヌ語会話をやると半分は解決するとおもうのでアイヌ語会話講座大会的にやること」  
「アイヌ語学院を開設し専門的にすること」  
「生活が出来るように受講手当を充実して」  
「親から子供にと伝える話せる機会が少ない」  
「親と子のアイヌ語を教える人数を増やして欲しい、今は 3 組までしか認められないか、他にも何家族も同じ年代の子供がいるので一部だけ選ばれるのは不公平です」  
「アイヌ語、アイヌ文化に対して生活に必要な事ではないので覚えようとしなない」  
「親子で小さな時から習うと良いのかもしれない」  
「平取町内でアイヌ語教室が開かれているのは二風谷地区だけである。従って町内の他地域にも年数回の開講が望まれる。アイヌ語を教える先生の公的な認定制度が欲しい。現在は先生の明確な基準はない」

#### 10. 支援・協力体制について

アイヌ語を教える（継承する）ために、あなた（この教室）は何らかの援助を受けていますか？（人や組織などから）あれば具体的に教えてください。

「アイヌ協会の支部を通して、自治体からの財政支援あり」  
「今は受けてない（アイヌ協会のアイヌ語教室 A 講座を受けていた）」  
「機構」  
「町からの補助金」（2  
「市からの助成金→保存会→一部アイヌ語教室へ」

「機構」

「財団の語り部、親子、上級講座全てやっているが、時間不足。全て10ヶ月づつやって欲しい」

「文化振興研究推進機構」

「自治体からの財政支援」

#### 11. 受講生たちに特に人気のある学習法や学習活動があるなら教えてください

「アイヌ語会話・町内地名めぐり など」(3)

「年2度野外学習(山菜取り・樹林園散策)をおこなったが好評、また、映像を使  
ってのアイヌ語学習など」

「絵カードを見てアイヌ語で答える(単語を学ぶ)」

「単語を組み合わせて会話する」

「謡う(語り部)事から入るとすんなり入れるかと思う」

「以前はフィールドに出て学ぶ体験型の学習が人気だった」

「昔の映像を見る」

「アイヌ語への替え歌」

「アイヌ語ビンゴ」

「アイヌ語カルタ」

「ウポポ」

「話し方に入らず、謡う(語り部)方にしています」

「単語の暗記の競い合い」

「カルタや単語を作ったビンゴ等のゲーム的学習(大人になっても楽しいよう  
で)」

「親子でも語り部でもジョークを多用すること」

「言葉の意味を知る事でアイヌの人の思いが分かる事」

「野外学習、春の山に入る前のお祈り、山菜の食べられる、食べられないについて」

「実際に声を出して練習する「会話練習」は人気がある。面白いとの感想があった」

#### 12. 受講生たちにとって、ここに参加するに当たって、学習以外に何か楽しい事がありますか？

「「シシリムカアイヌ文化祭」や「イタカンロー」(アイヌ語弁論大会)への出場。  
移動教室など」

「野外学習は参加者が多く楽しい」

「野外研修で学ぶ、例えば地名、山菜などのアイヌ語」

「受講生の中に音楽活動している人がいる、その人の所属するグループの発表会に  
皆で参加する事にした」

「わからない(聞いたことがない)」



「移動教室「博物館めぐり」「シシリムカアイヌ文化祭」「イタカンロー」」  
「勉強したことの発表「シシリムカアイヌ文化祭」「イタカンロー」」  
「博物館めぐりバス遠足（移動教室）など」  
「世間話（一般的な）」  
「昔の話を昔の事を思い出す。学んだアイヌ語を使ってみる」  
「9月、3月にカラオケがある時は全員参加、そこで次のアイヌ語はどうするか協議  
この中でDNAの篠沢教授を呼ぼう→部外の講師からアイヌを学ぼうという意見  
が発生した」  
「年に数回懇親会を開いている」  
「野山に行って植物や川等の観察（アイヌの生活に関する）をしている」  
「原語でウボポの訳をする事と歌うこと」  
「昔の話をしたりする事」  
「シシリムカアイヌ文化祭」や「アイヌ語弁論大会（イタカンロー）」での成果発表  
など。博物館めぐり、バス遠足など」

13. 学習者にとって、このアイヌ語教室で一番勉強になったことや役に立ったことについて何かあれば教えてください。

「口承文芸をマスターし、「イタカンロー」で入賞できた場合の喜び  
「年配者が昔の話をすることに熱心に耳を傾けていた」  
「短いあいさつを皆で覚えてくれた」  
「単語、地名等が出先で見ると報告がある」  
「ユカラやカムイユカラを覚えて人前で発表できるようになった」  
「口承文芸（ユカラ、カムイユカラ、ウウェペケレ）を覚えて人前で語れるようになった事」  
「文化だけでなく歴史も学ぶ事が出来た」  
「やはりアイヌの自然観でしょうか？」  
「アイヌ語を分解すると理解できること」  
「アイヌ語地名を知った事」  
「全ての生徒はアイヌ語がとてつもなく難しいと思っている様子」  
「自分の地域の言葉や習慣や芸能を覚える事ができた」  
「年輩者の中にはユカラ、カムイユカラ、ウウェペケレをマスターしそれを何の機会に発表できること」

14. 使用している教科書がある場合、それは役に立っていると思われますか？また役に立っているとすれば具体的にそれはなぜだと思いますか？

『アコロイタク』は、地域別になっている点がよい。内容は少し工夫が必要」  
「アイヌ語ラジオ講座のテキストが役に立っているが、特に短い会話が出ている場

合にそれがいえる」

「アコロイタク（方言も出ているから）」

『『エクスプレスアイヌ語』中川裕著は何回も使用した、標準的と思うので」

「ラジオ講座資料、今回むかわ地方の語り部なので発音・意味等に役に立っている」

「『萱野茂のアイヌ神話集成』はアイヌ語の逐話訳、和訳、音があるので勉強するのに便利」

「方言の違いが学べる」

「『萱野茂のアイヌ神話集成』『ウウェペケレ集大成』はアイヌ語の逐話訳、和訳、音源（CD）があるので勉強するのにとても便利です」

「アイヌ語を母語としている人の話し方などなかなか見たり聞いたりすることはない」

「中本ムツ子のエクスプレスアイヌ語及びCD。アクセント、単語の意味、音声理解できることは重要」

「ウパシクマ→アイヌの知恵が和人に理解される」

「語り部を教える中で、ラジオ講座の資料は言葉と文字と意味が一緒に出てくる。生徒には理解しやすい。」

「今使っているテキストは、会話が出て来てそれに関する文法的解説があるので、順を追って文法と実際の文章とか関連付けて学ぶことが出来る点だと思う」

「とてつもなく役に立っている、白沢ナベフチ、澤井トメノフチ両者は日本語で質問してもすぐアイヌ語で返答してくれたので」

「富水さんの本やCDです。聞き取りそのままの声や文なのでそばで語っているようです」

「アコロイタクや地方の本がありよかった」

「『萱野茂のアイヌ語会話』初級編にはVHSテープとテキストがついておりビデオで口の動きと発音を確認でき使いやすい」

15.（上記の質問で触れられていなければ）ローマ字表記 対 片仮名表記の都合の良い点、悪い点についてどのようにお考えですか？また、教室ではどのように対応していますか？

「ローマ字は年配者は読めないなので拒否反応がある。片仮名は子供から大人まで誰でも読めるので使いやすい。片仮名を使用している」

「年配者が多いので、ローマ字表記はあまり使わないようにしている」

「お年寄りにはローマ字が解らない人が多いのでカタカナ表記を使う。カタカナをそのまま読むので発音がむずかしい」

「ローマ字表記を使用している、語源的に説明しやすいから」

「生徒はすべてローマ字表記ですが、先生はカタカナ」

「年配者も多いのでカタカナ表記を使用している」

「基本カタカナ、文法や発音の説明にはローマ字」

「当教室は小学校から８０歳代の方々がいるのでカタカナ表記を使用」

「ローマ字表記が統一されていない。そのつどこれは〇〇先生の表記と言っている」

「私はカタカナ表記を見っていますが、外国人はローマ字表記しか見ません。両方あることはとても◎」

「指導者はカタカナしか書けない。生徒はローマ字の方が発音が分かりやすいので両方（助手など）使用できる人が沢山ほしい」

「ローマ字もカタカナも、アイヌ語に記して発達して来た文字ではないのでいずれも正しく表記する事は困難なのだと思うが、まだ統一されていない部分については推進機構等で早く統一してほしい」

「小、中学生、高校生、大人、全ての人にローマ字とカタカナ表記を併用しています。ローマ字の出来ない人でも訳すようになります」

「両方書いてますが、ローマ字の方がアイヌ語がなぜそうなるのかの意味が分かり良い」

「ローマ字表記は発音するときには良いけれど、パッと見てなかなかわかりづらいところもある」

「原則、カタカナ表記。年輩者にはローマ字を小学校で習っておらず、ローマ字表記には拒否反応がある。小学校入学前の子供から大人まで読めるカタカナ表記がベター」

#### 16. どのようにすれば、ここのアイヌ語教室が今後もっと良くなっていくと思いますか。

もし意見があれば自由にお書き下さい。

「事務局に専従スタッフをフルタイムで複数名置き、体制を強化する。」

「専任講師や講師の待遇を良くするべき」

「アイヌ語講師の資格または免許制を導入すべきである」

「若い人が参加しやすいようにすればいいわけだが、その方法（手段）がわからない」

「２年ほど前から、岩見沢市の２箇所（あわせて１０人ほど）でアイヌ語教室を開いています（いずれも無料）（全員シサム（和人））。熱心さに驚いています。」

「これからのアイヌ語教室はこれ以上進展していくと思えない。アイヌの子弟があまりアイヌ語に興味を持っていないこと、親が真剣に取り組まなければ子どもはアイヌ語に振り向いてくれないと思う。今の子どもはアイヌ語よりも英語の方が大切と思っているから…とても難しい課題です」

「他の言語のようにアイヌ語１級２級３級…など段階的に資格を取得してそれにより報酬が得られて社会的にステータスを得られるようになれば良いと思う」

「学んだ受講者が講師となって教えていく」

「アイヌ語教室の専従スタッフの配置」  
「講師の待遇を良くする」  
「その地域にあった教室（能力別）の数に合った予算」  
「アイヌ語教室でアイヌ語を学び、それを使う場所を作る。それによって多少なりともお金が入る」  
「現実の話として歌、踊り、木彫、刺繍は礼金、お金が入ってきます。アイヌ語にはそれがない。年1回のアイヌ語弁論大会しかないのでは？」  
「アイヌ語教室もなくなり、国は何をしたいのかわかりません」  
「実用的なアイヌ語はもういらないと思っているのでしょうか」  
「アイヌ語の専門教師がいること」  
「道教委の予算（しめつけのない）があること」  
「アイヌの受講者に就学助成があること」  
「アイヌ語で生活(就職)できる環境があること」  
「行政機関がもっとアイヌ民族のこれまで経緯を踏まえて、援助することが大切。現在では会計監査など過度な規制が多すぎる」  
「失われた時間、奪われた時間を回復させると良い。アイデンティティの回復でアイヌイタクもヤイカッチピする」  
「部屋の中ばかりではなく森や囲炉裏のある部屋などで再現して聞けたら楽しいと思います」  
「教室で学ぶことはもちろん大切な事だけど、ラジオ講座だけではなくテレビでやっている韓国の人気グループが日常会話をやっているようにすると楽しみながら覚えられますと思いますラジオは聞こえない場所もありますが、テレビではカードを目で見て聞いて動作も見れますこれからはテレビで保育所からおしえたら良いと思います。小さい子供たちは覚えが早い」  
「アイヌ語を公用語にすればすぐにでも復活、復興する。北海道の日高、胆振地方をアイヌ語復興特区に指定し小中学校で教える。」

## 付録5

### アイヌ語教室子供の部又は親と子のアイヌ語学習事業に関するアンケート（講師用）記述式 抽出結果

1) 子供にとって、学習活動がより適切で魅力的になるように、あなたはこれまで学習活動に何か調整や創意工夫をしてきたことがあれば教えてください。

「早口言葉を一緒に競って話したり、早口言葉を覚える者に日本語とアイヌ語のカード（ホワイトボードに貼る）を作って工夫した」

「アニメ等で楽しく分かりやすいようにする工夫」

「簡単なウポポ、タクネイタク、ホイタプリの多用」

「言葉だけでなく目や手を使う。食べ物や道具など、実物にふれる。遊びながら何度もくりかえす。」

「早口言葉を一緒に競って話したり、早口言葉を覚える為に日本語とアイヌ語のカード（ホワイトボードに貼る）を作って工夫した」

「簡単なウポポ、タクネイタク、ホイタプリの多用」

「アニメ等で楽しく解りやすくする工夫」

2) 子供の年齢層や学習能力レベルに対応した教育(例えば学習活動・アクティビティの調整・工夫・創作)を行っていますか？

A 「はい」と答えた方、どのように学習活動を調整・工夫・創作している・したかについて

教えてください。

「簡単なウポポ、タクネイタク、ホイタプリの多用」

「教科書を利用して段階を踏む。」

「簡単なウポポ、タクネイタク、ホイタプリの多用」

B 「いいえ」と答えた方、その原因と思われるものを教えてください。

（例：講師養成の支援体制が足りない）

「特別な教授法を習った事がない」

「忙しく教材等を作成する時間が足りない」

「支援は確かに足りない」

「特別な教授法を習ったことがない」

「忙しく教材等を作成する時間が足りない」

3) 子供が親と一緒にアイヌ語の勉強をするメリットがあれば、それについて教えてください。

「子供が先に覚えてそれを親に教える事が可能。家庭では共通の知識があるのでアイヌ語を使いやすい環境になる」

「祖先の言葉を覚えるのは大事な事」

「親には長い長い空白の時があるので覚えが悪い、子供はすぐに覚えられるので親が子に教わるメリット」

「子供の暴走を親が止める」

「子供が親に教えることで、子供のやる気が刺激される」

「一緒に学ぶ場は他に無いのでは？」

「子供が先に覚えてそれを親に教える事が可能。家庭では、共通の知識があるのでアイヌ語を使いやすい環境になる」

「親には長い長い空白の時があるので、覚えが悪い。子供はすぐに覚えるので親が子に教わるメリット」

「祖先の言葉を覚えるのは大事な事」

「特になし」

4) 子供が親と一緒にアイヌ語の勉強をするデメリットがあれば、それについて教えてください。

「特に無し。但し、強制的に連れてこられた子供の学習意欲は低い。自由意志で参加させる方が望ましい」

「一般社会ではアイヌ語の使用は少ない」

「子供手当が少なすぎる」

「アイデンティティを成就しようとしない」

「世に出しても役に立たないとか言う」

「親が先に疲れる場合あり」

「親は親でやりたいという場合もあるのでは？」

「特に無し。但し、強制的に連れてこられた子供の学習意欲は低い。自由意思で参加させるのが望ましい」

「子供手当が少なすぎる。アイデンティティを醸成しようとしない。世に出ても役に立たないとかいう」

「一般社会ではアイヌ語の使用は少ない」

5) 将来に子供のアイヌ語教育はどのように変わっていけばよいと思いますか？

- 「小中学校で教えられるようになればよい」
- 「アイヌ語を公用語としていた事実を覚える」
- 「外に出ても社会に出てもアイヌ語で会話出来るようにして」
- 「段階別。興味の別、歴史、背景なども学ぶ」
- 「小中学校で教えられるようになればよい」
- 「外に出ても社会に出てもアイヌ語で会話出来るようにして」
- 「アイヌ語を公用語としていた事実を覚える」

6) 支援体制は整っていますか？充分でないとすればどのような事が挙げられますか？

- 「法的な整備がなされていない」
- 「個人の努力では限界がある」
- 「国家的な戦略で復興プログラムを作るべき」
- 「簡単な単語を北海道の公用語として使用する。(イランカラプテ) など」
- 「国に等しい過去のアイヌ民族政策を反省し先ずアイヌ語を復活して」
- 「まず総合的な辞書がない。各種の辞書とアイヌ語学習の経験者を集めた人手でやれるはず。後は場所づくり。研究機関との連携」
- 「法的な整備がなされていない」
- 「個人の努力では限界がある」
- 「国家的な戦略で復興プログラムを作るべき」
- 「国に、等しい過去のアイヌ民族政策を反省し、先ずアイヌ語を復活して」
- 「簡単な単語を北海道の公用語として使用する (イランカラプテなど)」





## 付録6

### アイヌ語教室子どもの部又は親と子のアイヌ語学習事業に関する

#### アンケート（父母用） 記述式 抽出結果

- 1) 親と子のアイヌ語学習事業、またはアイヌ語教室子どもの部の参加動機を教えてください。

「人に進められて」

「子ども夫婦が転勤で旭川に行き上川の伊沢さん親子と交際…ムックリ他少々習った事からです」

「親と子のアイヌ語学習事業があることを知り、友人と仲間を募ったら是非勉強したいという希望があり、皆で学びたいと思いました。学んだ事を家に帰っても子供と話したり出来、とても楽しいです。」

「身近でたまに聞くアイヌ語の単語の意味を先生に来ていただいて習えるという事に参加したかったから」

「子供たちにアイヌ語をもっと知ってもらいたいので」

「日本人との格差と貧困差を無くす為にもアイヌ語を日常的な会話力が必要だ」

「アイヌ語を習う事になってほとんどないし、子供も踊りなどをしていてアイヌ語にも興味をもったのでその時に誘われ習ってみようと思いました」

「私自身アイヌの血を引いており、その血を引いているにもかかわらず、アイヌ語が分からない事がとてもはすかしく、子供もアイヌ語に興味があったのもあり、親子で参加しました」

「一度、親と子のアイヌ語学習より前に行っていたアイヌ語講座に参加してアイヌ語を習って学ぶのがとても楽しかったからです」

- 2) 子どもが親と一緒にアイヌ語の勉強をするメリットがあれば、それについて教えてください。

「一緒に勉強し、家でも教えあえる事」

「東京アイヌ交流センターでは北海道それぞれの地から来た人々の集まりで、アイヌ語も旭川、美幌他、刺繍にしても少々の違いがあり…戸惑いもあります」

「子供が大きくなってから学ぶより、小さいころからアイヌ文化に触れてアイヌ語を学び楽しいとか何かを学んで欲しいと思っています。一緒に学ぶ事により家でも話しをしたり復習ができる。すごく楽しい教室です。子供一人では飽きてしまうかもしれませんが、皆で学んでいるので楽しく言葉が身につきます。」

「習った単語や言葉をすぐに応用できること」

「子供がどれだけ興味をもっているかよく判る」

「親子で会話が出来る事、文化、習慣などの会話に便利です」

「家に帰ってからでも少しずつ子供に問題を出しながら遊びに取り入れてアイヌ語の復習をして

います」

「メリットデメリットは分かりませんが、小さいころから興味のある物、事に関わることは大切な事だと思う。白老という土地柄もあり、子供もアイヌの血を引いているので私も含め「アイヌ」について知っておく必要があると思う」

「次の世代を育てていく点でいえば子供だけで良いかもしれませんが、親も一緒に習う事で親子楽しく学ぶ事ができ、また家に帰ってから会話などで話したり家でも学べる事です」

### 3) 子どもが親と一緒にアイヌ語の勉強をするデメリットがあれば、それについて教えてください。

「特になし」(4

「親は別として、子供だけでも夏休みや冬休みとか北海道の地にアイヌ語で会話のお泊り勉強があれば思ったり」

「時間の調整や習い事があるとなかなか予定が組めない」

「時間が取りにくい事、もっと便利に」

(質問に対しての抗議文) 1

### 4) 将来子どものアイヌ語教育はどのように変わっていけば良いと思いますか？

「孫達が東京の教室で川、山々のビデオとか本を見ての勉強。北海道の子供たちは現地での勉強の違いを…やはり少しでも北海道で勉強させたいです」

「学校でもアイヌ語を学ぶ機会を作って欲しいです。大学では学ぶ事は出来ませんが、小中高校で学ぶことが出来たら沢山の人が学べ、伝わっていくと思います。日常会話で犬後が話せるような時代が来る事を願っています。方言も学べたら良いと思います。誰でも学べる場を沢山作って欲しいです」

「他地方で習っている子供たちとの交流や宿泊研修(例：親子アイヌサバイバルキャンプ、宿泊研修)」

「北海道以前の歴史を知ってもらうためのアイヌ語地名など学んで欲しい」

「日本語教育と同等になればよい」

「アイヌ語や踊りを通してほかの地域の人との交流や歴史を覚え、楽しんで欲しいです」

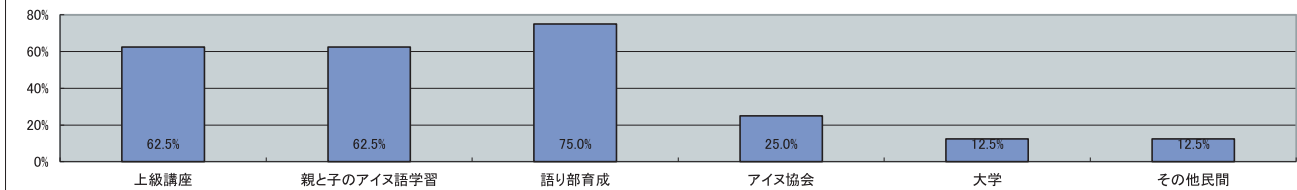
「日常生活で使われる「日本語」と同様に普段の会話から「アイヌ語」がさらっと出るようになれば良いと思う。学校教育でも学年問わず学ぶべきだと思う。アイヌの血を引いていない方にもアイヌの事を沢山知ってもらいアイヌに対しての「偏見」を無くして欲しいと願っています。子供に学ばせる前に先ずは大人がしっかりと知識を身につけるべきだと思います。私は子供の頃「アイヌ」だからといじめに何度もあった経験もあるのでこれからの未来に期待したいです」

「毎日でもいいから片言でも話すようにする」

## 教室に関するアンケート質問1. -2. 集計

## 地域における教室講座の全体的な数値について

	記入数	回答数全体の比率
上級講座	10件	62.5%
親と子のアイヌ語学習	10件	62.5%
語り部育成	12件	75.0%
アイヌ協会	4件	25.0%
大学	2件	12.5%
その他民間	2件	12.5%
回答数	16件	



## 学習対象者について

	記入数	回答数全体の比率
大人	18件	100.0%
子供	9件	50.0%
回答数	18件	

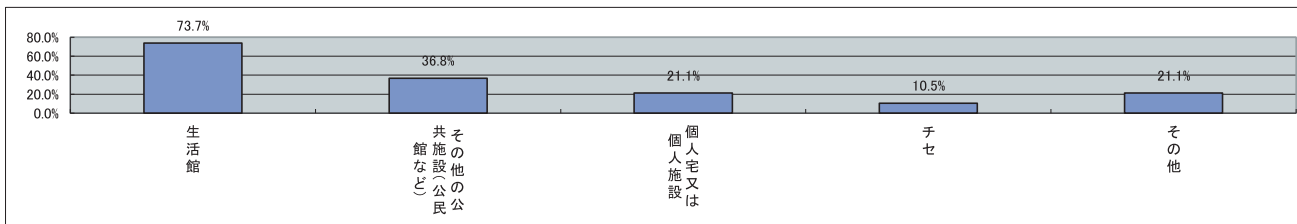
## 指導者のアイヌ語指導の研修・訓練の経験について

	回答数	比率
指導者育成講座	10件	83.33%
上級者講座	11件	91.67%
大学でアイヌ語を学んだ	0件	0.00%
大学でアイヌ語を専攻にした	0件	0.00%
総回答数	12件	

## アイヌ語教室・講座の会場設定について

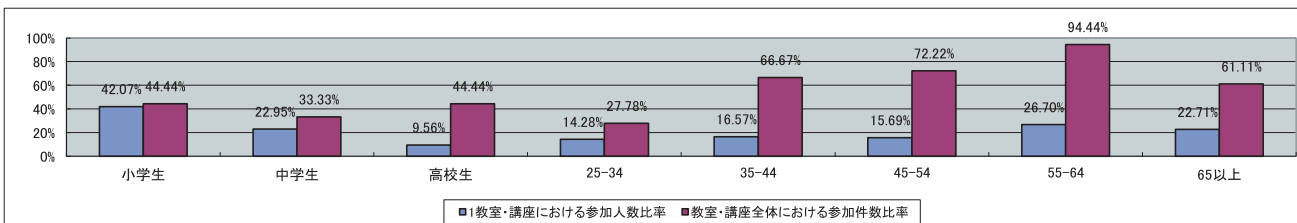
	記入数	回答数全体の比率
生活館	14	73.7%
その他の公共施設(公民館など)	7	36.8%
個人宅又は個人施設	4	21.1%
チセ	2	10.5%
その他	4	21.1%
回答数	19	

※その他については野外学習など屋外における学習を行っているという回答が目立った。



## 学習者年齢について

	1教室参加人数平均	1教室参加人数比率	記入件数	教室講座全体における参加件数比率
小学生	8.25	42.07%	8	44.44%
中学生	4.50	22.95%	6	33.33%
高校生	1.88	9.56%	8	44.44%
25-34	2.80	14.28%	5	27.78%
35-44	3.25	16.57%	12	66.67%
45-54	3.08	15.69%	13	72.22%
55-64	5.24	26.70%	17	94.44%
65以上	4.45	22.71%	11	61.11%
回答数	18			
1教室学習者数平均	19.61			



学習者構成	
-------	--

アイヌのみの参加	5件
アイヌ以外も参加	14件
アイヌ	64.2%
アイヌ以外	35.8%
回答数	19

教材・音声資料について		
-------------	--	--

	使用数	比率
教科書の使用	16	84.21%
音声資料の使用	16	84.21%
教授法	2	10.53%
回答数	19	

教室・講座における制限について		
-----------------	--	--

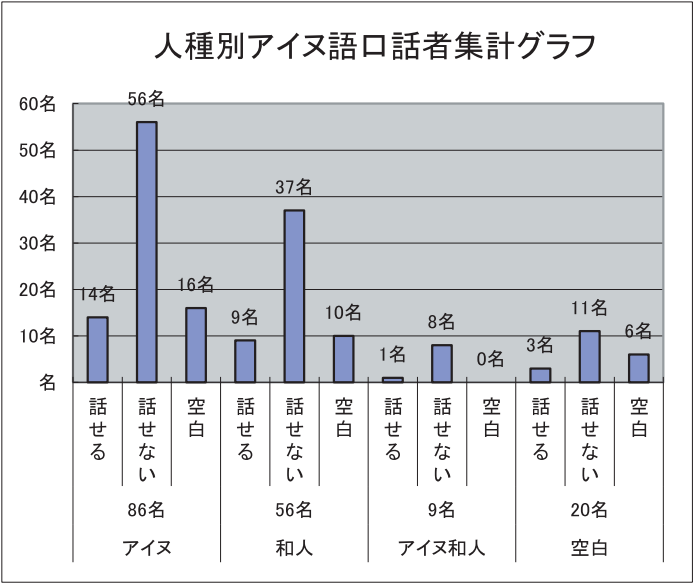
	制限が「有り」と答えた回答数	比率
地理的な制限	4件	21.05%
季節的な制限	5件	26.32%
回答数	19	

学習者用アンケート設問(1)の1. 人種別集計データ

人種別アイヌ語口話者集計表

平成25年3月

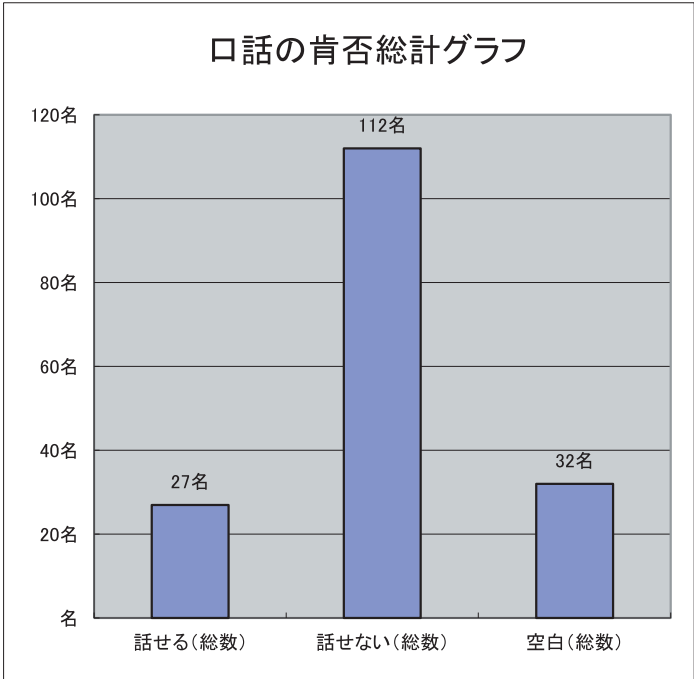
人種名	人種別総数	口話の可否	回答別総数
アイヌ	86名	話せる	14名
		話せない	56名
		空白	16名
和人	56名	話せる	9名
		話せない	37名
		空白	10名
アイヌ和人	9名	話せる	1名
		話せない	8名
		空白	0名
空白	20名	話せる	3名
		話せない	11名
		空白	6名
空白外回答合計	151名	空白外回答合計	139名
記入用紙総数	171枚	話せる(総数)	27名
		話せない(総数)	112名
		空白(総数)	32名



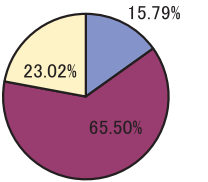
人種別アイヌ語口話者集計比率

平成25年3月

	話せる	話せない	空白
アイヌ	16.28%	65.12%	18.60%
和人	16.07%	66.07%	17.86%
アイヌ和人	11.11%	88.89%	0.00%
空白	15.00%	55.00%	30.00%
総計	15.79%	65.50%	23.02%



人種別アイヌ語口話者集計比率グラフ



■話せる ■話せない □空白

## 全国のアイヌ語教育の取り組み一覧表

\* (財)アイヌ協会の(旧)アイヌ語教室、  
(財)アイヌ文化振興・推進機構の諸アイヌ語関連事業を含まない

教室・大学名	部局または講座名	授業名	現在・過去	担当講師名
北海道大学	文学部	アイヌ語1、 アイヌ語2	現在	佐藤知己
	連絡取れない	連絡取れない		北原次郎太
千葉大学	文学部	アイヌ語 初級	現在	中川裕
		アイヌ語学 演習	現在	中川裕
早稲田大学	早稲田大学 オープン教育 科目	アイヌ語 (入門) アイヌ語 (初級)	現在	志賀雪湖
		アイヌ語 (入門会話) アイヌ語 (初級会話)	現在	
		アイヌ語 (中級)	現在	児島恭子
札幌大学		アイヌ語 入門	現在	本田優子
		アイヌ語 初級	現在	北原次郎太
札幌学院大学	現在無し	現在無し	過去	奥田統己
北海学園大学	確認不可能	確認不可能	過去	
苫小牧駒沢大学		確認不可能	確認不可能	岡田路明(過去)
大阪大学	行っていない	行っていない	過去に検討	
旭川大学			現在	太田満
藤女子短期大学	確認不可能	確認不可能		
東京大学	確認不可能	確認不可能		
京都大学	行っていない	行っていない		
東京外国語大学	大学院	アイヌ語学	現在	志賀雪湖
名古屋大学	行っていない	行っていない	過去に検討	
アイヌ語勉強会 「銀の滴」			現在	平田篤史、成田英敏 慶応大学の付属高校
白老楽しく・やさしい アイヌ語教室			現在	大須賀るえ子
				藤村久和
				奥田統己
横国立大学	確認不可能	確認不可能	過去	
大阪外国語大学	行っていない	行っていない	過去	
和光大学	確認不可能	確認不可能		児島恭子(過去)、 丹菊逸治(過去)
北海道教育大学	旭川、 札幌、 函館、 岩見沢	アイヌ語Ⅰ・Ⅱ アイヌ語コミュニケーション アイヌ語、アイヌ語と文化 アイヌ語・アイヌ文化論	平成24年度 (旭川は25年度から無し)	太田満 品田早苗 岡田路明 計良光範
釧路アイヌ語の会 釧路アイヌ懇話会	確認不可能	確認不可能		松本しげる(過去)
イタㇰ・チセ	レラ チセ	確認不可能		小林亜希子(過去) 長谷川ユウキ(過去)

付録 10

川村カ子トアイヌ記念館所蔵アイヌ語関連音声資料目録

仮 番 号	テープ品番	A 面ラベル記載事項	B 面ラベル記載事項
1	Maxell UR 60 分	ユーカラ 砂沢クラ 「女装のポイヤウンベが ツベサンコタンをやっつけた話」	ユーカラ 砂沢クラ 「風の女神の話」 最初 アーカネで始まっているが、 ランマーカネの初めが、録音から落 ちている
2	TDK DJ-2 60 分	ウェペケレ (二風谷)	
3	TDK Cding-2 46 分	トウイタク 杉村 キナラブック 河童	1995. 6. 30 鹿田川見 「パウエ チョーパ チョーパ ムム ム」
4	Maxell UR 60 分	オйна 杉村 キナラブック 72、73、74、75 間抜けトド 子盗み鳥	トウイタク 杉村 キナラブック 75、71
5	TDK Cding-2 90 分	サコロペ 貫塩 喜蔵 母キシ 狐の妖怪 昭和33年 10 月 録音	サコロペ 貫塩 喜蔵 狐の妖怪 昭和53年 2 月 録音
6	TDK Cding-2 90 分	トウイタク 杉村 キナラブック	コシンプイ
7	AXIA PS2 30 分	カムイノミ 葛野 辰次郎	カムイユカラ 織田 ステノ
8	TDK Cding-2 46 分	ウチャシクマ くじらを飢饉の里へ送り 守り神(シマフクロウ)に 称えられた食物神の自叙	ウチャシクマ
9	TDK AD2 40 分	丸木舟の物語 オйна 杉村 キナラブック ヤチダモの神 自らを語る	
10	AXIA PS1 70 分	ユーカラ	
11	TDK DJ-2 60 分	オйна 間抜けトド	ムックル アルゼンチン ベネズエラ

仮 番 号	テープ品番	A 面ラベル記載事項	B 面ラベル記載事項
		子盗み鳥	
12	TDK Cding-2 50 分	オイナ 杉村 キナラブック 丸木舟の話 コイナワシー	
13	Maxell UR 60 分	アイヌ語 砂沢 クラ 昭和 62 年 8 月 23 日	カムイノミ 葛野 辰次郎 (6分10秒) ユカラ 織田 ステノ (4分50 秒) カムイユカラ 織田 ステノ (14分3 0秒)
14	Maxell UR 60 分	旭川ウウェネウサラ用 読み 砂沢 クラフチ テープ 1988 年 1 月 17 日	旭川ウウェネウサラ用 解説 砂沢 クラフチ テープ 1988 年 1 月 17 日
15	TDK Cding-2 90 分	アイヌ語入門 砂沢 クラ 1988 年 1 月 4 日 苫小牧	砂沢 クラ
16	TDK Cding-2 46 分	旭川 ウウェネウサラ 動物名 砂沢 クラ フチ 1988 年 2 月 14 日	旭川 ウウェネウサラ 動物名 砂沢 クラ フチ 1988 年 2 月 14 日
17	Maxell UR 60 分	葛野 辰次郎 エカシ 1988 年 11 月 6 日	
18	Maxell UR 60 分	葛野 辰次郎 エカシ 1988 年 11 月 6 日	
19	TDK Cding-2 90 分	浅井 亨 1989 年 8 月 6 日	浅井 亨 1989 年 8 月 6 日
20	TDK Cding-2 90 分	浅井 亨 1989年8月6日 No.2	砂沢 クラ
21	AXIA JZ2 60 分	葛野 辰次郎 エカシ (No18 の つづき) ムックル チカプウポポ イフンケ ムックル	昭和 62 年 8 月 23 日



仮 番 号	テープ品番	A 面ラベル記載事項	B 面ラベル記載事項
22	TDK AE120 120 分	石山 キツエ フチ ヤイカタカラ 河原館 独演会 録 1981年11月3日 (昼の部)	
23	Maxell UR 60 分	石山 キツエ さんの話 河原館にて ムツクル イフンケ	ヤイサマ
24	TDK Cding-2 90 分	1 昭和34年8月 白老町 貝沢 藤蔵 荒井エカシへの 話 2 昭和 36年8月末 砂沢 友太郎 祈詞 川村 イタキシロマ タネモンコ ロ 四子の法事	3 昭和35年2月 旭川雪祭り 大塚氏 其の他 4 名寄北風氏の川村氏への話
25	AXIA PS1 90 分	川村 カネト 北風 磯吉 門野 ナンケアイヌ	
26	TDK DJ-2 60 分	川村 カネトアイヌの話 昭和 45 年 6 月 18 日	
27	TDK DJ-2 60 分	サコロペ 記念館	
28	TDK Cding-2 90 分	北方少数民族とアイヌ	アイヌ物質文化 衣服
29	Maxwll UR 60 分	昭和32年 イオマンテ 層雲峡	イオマンテ
30	Maxwll UR 60 分	昭和32年 イオマンテ	昭和32年 イオマンテ
31	Maxwll UR 60 分	イオマンテ？	イオマンテ？
32	Maxwll UR 60 分	イオマンテ	
33	TDK DJ-2 60 分	トンコリ	

仮 番 号	テープ品番	A 面ラベル記載事項	B 面ラベル記載事項
34	TDK Cding-2 46 分	トンコリ 西平ウメ さん	
35	Maxell UR 60 分	アイヌ伝統音楽 日本放送協会 編集	アイヌ伝統音楽 日本放送協会 編集
36	Maxell UR 60 分	雀あそび歌 丸木舟 あそびの歌 言葉あそびの歌 トンコリ	アイヌの旅情
37	MD SONY ES	upopo 練習 昭和59年9月	
38	TDK DJ2 60 分	イフンケ オイナ イフンケ	イフンケ オイナ
39	Maxell UR 60 分	日川 キヨ ムツクル ヤイサマ ク・リムセ エムシ・リムセ	日川 キヨ ムツクル ヤイサマ ク・リムセ エムシ・ウポポ
40	MD SONY ES	ウコウク 昭和28年	
41			
42	Maxell UR 60 分	ヤイサマ 石山 キツエ ウコウク ムイソーカ ハネネ ウェカプ イラッ ウポポ チカプ ウポポ	阿寒のウポポ フッタレ チュイ
43	Maxell UR 60 分	ヤイサマ ムツクル	層雲峡でのイオマンテ 昭和 32 年 11 月 10 日 尾沢カンシャツクの熊
44	TDK DJ2 60 分	カムイノミ 門野ナンケアイヌ ヤイサマ 杉村キナラブック イオマンテウポポ お礼の言葉 杉村キナラブック ウコウク ウポポ	イフンケ パッカイウポポ ヤイサマ ムツクル チカプウポポ (folk song of ainu より) 門野 ハルコロ？ 昭和38年？

仮 番 号	テープ品番	A 面ラベル記載事項	B 面ラベル記載事項
			ムックル 門野トサ ムックル チカプウポポ (記念館)
45	Maxell UR 60 分	キナラブック 磯山 フミさんへの言葉	フッタレ チュイ 鶴の舞
46	TDK Cding-2 46 分	砂沢 クラ 石山 キツエさん 弔辞 ヤイサマ 酒は涙かため息か イエスエノマップ	砂沢 クラ ヤイサマ イエスエノマップ
47	Maxell UR 60 分	ウポポ 地方での公演 門野ナンケアイヌ 杉村キナラブック 金成マツ	ウポポ イフンケ ウポポ
48	TDK DJ-2 60 分	叙情歌 2 呪文 タプカル	サコロペ ユーカラ1
49	TDK Cding-2 60 分	ウポポ (他の地方)	ウポポ (他の地方)
50	SONY 60 分	ムックル ウポポ ウコウク	阿寒のウポポ 昭和53年 フッタレチュイ
51	Maxell UR 60 分	奈良のウポポ ヤイサマ ムックル スチョチョイ 他	奈良のウポポ
52	Maxell UR 60 分	ウポポ ムックル ヤイサマ 昭和49年2月 生活館にて	記念館 説明 ウポポ
53	MD SONY	旭川のウポポ	阿寒のウポポ
54	TDK Cding-2 46 分	アイヌの歌 キングレコード 白老のウポポ セツカリ ウポポ 粟打ち歌	1968年 阿寒のウポポ ムックル マリモホプニナ

仮 番 号	テープ品番	A 面ラベル記載事項	B 面ラベル記載事項
		子守歌 ゆりかごの歌 ヤイサマ ヤイサマ イヨハイチシ ヤイサマ イオマンテの踊り	ウタリホブンパレワ 鶴の舞 踊りくらべ 馬 追い エムシ リムセ イタサンカタ タブカラ
55	AXIA 120 分	昭和 61年 イフンケ ヤイサマ チカプ ウポポ	昭和51年 ウコウク ウポポ 太田 シモ
56	Maxell UR 60 分	トウイタク 太田 コウンテカン クンネセタ オイナ	
57	MD SONY	ukouk upopo muy soka hanene	
58	MD SONY	ukouk mukkur upopo その他	ukouk mukkur upopo
59	TDK DJ2 60 分	イウタ ウポポ ムツクル 門野トサ イフンケ 門野ハルコロ？ ヤイサマ ヤイサマ イオマンテ ウポポ 熊の声 解説 川村カネト	解説 カムイノミ イウタ ウポポ ムツクル ヤイサマ イフンケ ウコウク イオマンテ ウポポ チカプ ウポポ
60	TDK AD 60 分	フサ テープ 1975年 3月22日	1975 年 4 月 7 日
61	Maxell UR 60 分	杉村 キナラブック 石山キツエ さんへの返事 (磯山フミさん) ウコウク ウポポ	

仮 番 号	テープ品番	A 面ラベル記載事項	B 面ラベル記載事項
62	MD SONY	ウポポ練習 生活館 昭和54年 2月26日 3月5 日	
63			
64			
65			
66			
67	Maxell UR 60 分	川村②-2 原川村 6、18 浅井亨氏の話 1955年	HBC 島田悦郎
68	TDK DJ-2 60 分	川村③ 原 川村5 昭和 36 年 8 月 20 日 平賀サダモ	昭和 32 年 8 月 5 日 萱野 ウタアシカ (83歳)
69	SONY 60 分	川村⑦ 原川村12 昭和36年8月末 萱野 長次郎 砂沢 友太郎 昭和 34 年 8 月 23 日 白老町にて 貝沢藤蔵	川村⑨ 原川村 15、14、16、17 ムックル 音頭 ウポポ、ホリッパなど 追分節 ムックル、ヤイサマ、 白老町？ヤイサマ イフンケ
70	SONY 60 分	川村⑥ 原川村 11 イタキsシロマ タネモンコロ 磯山 フミ エサホー スチョチヨイ	川村⑧ 原 川村 13 門野ナンケアイヌ カムイノミ ムックル ヌマテサン キナラブック 川村⑩ 原 川村21 名寄 北風磯吉追悼式で 川村 カネトの追悼の追憶の言葉
71	SONY 60 分	川村 ④ 原川村 7 1961 年 8 月 20 日 1960 年 8 月 20 日	

仮 番 号	テープ品番	A 面ラベル記載事項	B 面ラベル記載事項
		神楽岡において熊祭りの時の 各地のウポポ	
72	AXIA PS2 30 分	川村 ③ 原 川村5 昭和 36 年 8 月 20 日 昭和32年8月5日 萱野	
73	TDK AR-X 90 分	ウポポ 94	
74	SONY 60 分	ウポポ 練習	
75	SONY 60 分	イオマンテウポポ 練習 伝承教室	イオマンテウポポ練習 伝承教室
76	MD SONY	upopo 太田 シモ 門野 トサ 昭和53年3月	
77	Maxell UR 60 分	メノコユーカラ 砂沢 クラ 「風の女神の話」	ユーカラ 砂沢 クラ 「女装のポイヤウンペがツベサンコタ ンを やっつけた話」
78	Maxell UR 60 分	ユーカラ 砂沢 クラ 「ポイヤウンペがルロアイカムイ を やっつけた話」	ユーカラ 「コタンコロカムイの隣の アイヌラックル(兄)とその弟のポイヤ ウンペが ウェタルイセで戦った話」
79	SONY ESI 74 分	95 伝承教室	

(別添)

## 業 務 計 画 書

### I 委託業務の内容

#### 1. 業務題目

危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係る取組等の実態に関する調査研究事業  
(アイヌ語)

#### 趣旨

我が国における言語・方言のうち、消滅の危機にあるものについて、ユネスコが平成21年に発行した”Atlas of the World's Languages in Danger”の内容及び、文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業報告書」(平成23年2月・国立国語研究所)を踏まえ、消滅の危機にある言語・方言のうち、アイヌ語について、当該言語・方言の保存・継承に関する取組等の実態に関する調査研究を行う。

#### 目的

上記1の趣旨を実現するため、以下の調査研究を実施する。

(1) 消滅の危機にある言語・方言の保存・継承等に係る、官民を問わず行われているもしくは過去に行われた様々な取組等(消滅の危機にある言語・方言の方言話者や地域住民、自治体職員等を対象とした、言語・方言に対する意識調査を含む。)に関する調査及び分析

(2) 上記(1)の取組等で使用されている教材(テキストや音声資料等)に関する調査及び分析

(3) 上記(1)の取組等の効果及び課題に関する調査及び分析

(4) その他、消滅の危機にある言語・方言の保存・継承に係る取組等の実態把握のために必要な調査及び分析

#### 2. 業務の目的

業務の目的は上記の1. 業務題目の「目的」と同様である。さらに分別すると、上記の「1. 業務題目」の「目的」の(1)～(4)の項目に対応して、下記の「4. 当該年度における業務実施計画」で記載される調査研究を行う。

#### 3. 業務の期間

平成24年11月22日～平成25年3月26日

#### 4. 当該年度における業務実施計画

業務実施課題を上記の「1. 業務題目」の「目的」の(1)～(4)の項目に対応して分別整理すると以下になる：

(調査1) 公的資金によって運営されてきた・されているアイヌ語教室および大学のアイヌ語教

育の取り組みについての調査（事業目的（１）、（２）、（３））

1 古いアイヌ語教室の取組みと教材の調査と分析  
（聞き取り調査） 対象予定地：旭川、平取、む川、  
東京

- ・ 大人を対象としたアイヌ語教育  
（会話と口承文芸）
- ・ こどもを対象としたアイヌ語教育

2 新しいアイヌ語教室の取組みと教材の調査と分  
析（聞き取り調査）

- ・ 親と子のアイヌ語学習事業

対象予定地：平取、阿寒、東京

3.用語講座の取組みと教材の調査と分析  
（聞き取り調査） 対象予定地：平取

4.大学のアイヌ語教育の取組み（文献及び聞  
き取り調査）

対象予定大学：札幌大学、札幌学院大学、苫小牧  
駒沢大学、北海道大学

（調査 2）外部資金に頼らずに運営されている民間教室の取り組みについての調査（事業目的（１）、（２）、（３））

1.外部資金に頼らずに運営されている民間教室の  
取組みと教材の調査と分析（聞き取り調査）  
（大人のアイヌ語教室に限る）

2.調査 1 の教室との比較と分析

対象予定教室：札幌、白老、平取

（調査 3）「アイヌ語ラジオ講座」の教材づくりをサポートしてきた学者から聞き取り調査（事業目的（４））

アイヌ語継承と指導者育成の観点から  
「アイヌ語ラジオ講座」の教材づくりをサポート  
してきた学者から聞き取り調査

調査予定地：札幌

（調査 4）小学校の選出とその調査（事業目的（１）、（２）、（３））

道内のアイヌ語の学習を教育活動に取り入れて  
いる小学校の選出とその調査

調査予定地：平取



（調査 5）アイヌ語の教材化に取り組んでいる学者への聞き取り調査（事業目的（4））

アイヌ語の教材化に取り組んでいる学者への聞き取り調査  
調査予定地：札幌

（調査 6）（ネットを媒体とした民間のアイヌ語教育活動についての調査（事業目的（4））

ネットを媒体とした民間のアイヌ語教育活動の発起人兼責任者への聞き取り調査  
調査予定地：札幌

（調査 7）音声資料の確認調査および資料の目録作成（事業目的（4））

旭川 及び 平取地域を中心に、未公開のアイヌ語音声資料の確認調査および資料の目録作成  
調査予定地：旭川、平取

（調査 8）近年のアイヌ語指導者研修の実態把握および参加者に関する傾向についての調査（調査目的（4））

上記の調査 1-4、調査 3、調査 6 の聞き取り対象者（アイヌ語研究者・指導者研修の講師）への聞き取り調査  
調査予定地：上記に記載  
千葉大学文学部教授中川裕への聞き取り（予定）（千葉）

（調査 9）郵送によるアンケート調査（調査目的（1）、（2）、（3）、（4））

（調査 10）全国のアイヌ語の取り組み・目録作成のための調査（調査目的（1）、（2））

5. 業務実施体制

課 題 項 目	実 施 場 所	業務担当責任者
打ち合わせ会議	札幌	ジェフ ゲーマン、カイリー マーティン
調査 1-1（旭川）	旭川	太田満、川村久恵
調査 1-1（平取）	平取	関根健司
調査 1-1（む川）	む川	大野徹人
調査 1-1（東京）	東京	水戸部亜希子
調査 1-2（平取）	平取	関根健司

調査 1-2 (む川、阿寒)	む川、阿寒	大野徹人
調査 1-2 (東京)	東京	水戸部亜希子
調査 1-3 (平取)	平取	関根健司
調査 1-4 (札幌大学)	札幌	ジェフ ゲーマン
調査 1-4 (札幌学院大学)	札幌	ジェフ ゲーマン
調査 1-4 (北海道大学)	札幌	ジェフ ゲーマン
調査 1-4 (苫小牧駒澤大学)	苫小牧	ジェフ ゲーマン
調査 2 (札幌、藤村教室)	札幌	木幡寛、木幡弘文
調査 2 (札幌、奥田教室)	札幌	木幡寛、木幡弘文
調査 2 (平取、山道教室)	平取	木幡寛、木幡弘文、 ゲーマン
調査 2 (白老)	白老	木幡寛、木幡弘文、 ゲーマン
調査 3	札幌	ジェフ ゲーマン
調査 4 (1 回)	平取	木幡寛、木幡弘文、 ゲーマン
調査 4 (2 回目)	平取	木幡寛、木幡弘文、 ゲーマン
調査 5	札幌	ジェフ ゲーマン
調査 6	札幌	ジェフ ゲーマン
調査 7 (旭川)	旭川	太田満、川村久恵
調査 7 (平取)	平取	関根健司
調査 7 (目録作成)	旭川	太田満
調査 8 (札幌 1 回)	札幌	ジェフ ゲーマン
調査 8 (札幌 2 回目)	札幌	ジェフ ゲーマン
調査 8 (札幌 3 回目)	札幌	ジェフ ゲーマン
調査 8 (千葉)	千葉	木幡寛、木幡弘文、 ゲーマン
調査 9 (アンケート作成)	札幌	ジェフ ゲーマン
調査 9 (発送)	札幌	再委託
調査 9 (集計、まとめ)	札幌	ジェフ ゲーマン
調査 10 (情報収集)	札幌	随時、全調査員により
調査 10 (目録作成)	札幌	ジェフ ゲーマン
聞き取り書き起こし	札幌	再委託
聞き取り集計	札幌	ジェフ ゲーマン、カイリー マーティン
報告書まとめ	札幌	ジェフ ゲーマン

## 6. 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間 (平成24年11月22日 ~ 平成25年3月26日)											
	月	月	月	月	月	月	月	11月	12月	1月	2月	3月
打ち合わせ会議									—			
調査 1-1 (旭川)									—	—		

調査 1-1 (平取)									—	—		
調査 1-1 (む川)									—	—		
調査 1-1 (東京)									—	—		
調査 1-2 (平取)									—	—		
調査 1-2 (む川、阿寒)									—	—		
調査 1-2 (東京)									—	—		
調査 1-3 (平取)									—	—		
調査 1-4 (札幌大学)									—	—		
調査 1-4 (札幌学院大学)									—	—		
調査 1-4 (北海道大学)									—	—		
調査 1-4 (苫小牧駒澤大学)									—	—		
調査 2 (札幌、藤村教室)									—	—		
調査 2 (札幌、奥田教室)									—	—		
調査 2 (平取、山道教室)									—	—		
調査 2 (白老)									—	—		
調査 3									—	—		
調査 4 (1 回)									—	—		
調査 4 (2 回目)									—	—		
調査 5									—	—		
調査 6									—	—		
調査 7 (旭川)									—	—		
調査 7 (平取)									—	—		
調査 7 (目録作成)											—	
調査 8 (札幌 1 回)									—	—		
調査 8 (札幌 2 回目)									—	—		
調査 8 (札幌 3 回目)									—	—		
調査 8 (千葉)									—	—		
調査 9 (アンケート作成)									—	—		
調査 9 (発送)									—	—		
調査 9 (集計)										—		
調査 9 (まとめ)											—	
調査 10 (情報収集)									—	—		
調査 10 (目録作成)											—	
聞き取り書き起こし (随時)									—	—		
聞き取り集計											—	
報告書まとめ											—	—



## テキスト及び音声資料について

今回の調査研究事業を通してテキストや音声資料の使用に関して明確になったのは、テキストは市販のものから自前作成のものまで、多様であるが、レベル別になっていない等様々な点で学習者のニーズに合っていない、また、音声資料は豊富に存在するにも関わらず、様々な理由により入手困難であり、アクセス（入手）をめぐる体制や制度の整理が必要だということである（使用されている教科書は付録2の52－54頁を参照に、音声資料に関しては付録2の55－58頁を参照してください）。

音声資料をめぐり、所蔵の在り処をはじめ体系的な大型調査が必要であり、今後に期待されたいが、同時に持ち主や遺族の著作権の問題など当事者を含めた本格的な議論も必要である。

なお、教科書の内容を含めたカリキュラムに関しては繰り返しになるが、「教科書はいくらあっても足りない」という学者の言葉はもちろんであるが、そのような細かい内容的な面よりも人々がアイヌ語を使用したくなる環境やそれを体系的に勉強できる制度を強化充実することが当報告書の結論である。

---

平成 24 年度文化庁委託調査事業

**危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係る  
取組み等の実態に関する調査研究事業（アイヌ語）**

2013 年 3 月 26 日発行

編著者     ジェフ   ゲーマン

発行       〒060-0817   札幌市北区北 17 条西 8 丁目  
            北海道大学メディア・コミュニケーション研究院

印刷・製本   柏楊印刷株式会社

---

---

平成 24 度文化庁委託調査事業

危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係る  
取組み等の実態に関する調査研究事業（アイヌ語）

2013 年 3 月 26 日発行

編著者     ジェフ   ゲーマン

発行         〒060-0817   札幌市北区北 17 条西 8 丁目

北海道大学メディア・コミュニケーション研究院

印刷・製本   柏陽印刷株式会社

---